

You,
Unlimited



龍谷大学 東日本大震災 復興支援ボランティア 活動報告書 (2011年～2020年)



2011年～
2015年

までの活動の様子

2011年6月



小雨の降る中、詰まった側溝から泥を書き出す作業でした。

龍谷大学として、初めての
東日本大震災復興支援ボラン
ティア活動初日。戸惑いなが
らも必死で活動しました。



学内で、福島の物産品販売を行いました。

2012年3月

龍谷大学吹奏楽部が南三陸町で
チャリティーコンサートを開催
しました。



2016年度

の活動の様子

2016年度 第1回 東日本大震災復興支援ボランティア



雄勝湾灯籠流しの準備を
しているところです。

夕食後、宿で地元の方から
発災当時や現状の町の様子等
についての話を聴きました。



大川小学校の敷地内を案内して
いただきながら、発災事、どの
ようなことが起こっていたのか
について話を聴きました。
(防災教育)

2016年度 福島スタディツアー

～福島「今」を見、
福島を生きる人々の「言葉」を聴き、
そして「自分」を見つめる～



学生スタッフ企画

「Oh!ガッツ雄勝♪～防災意識を高めよう！こんな時あなたならどうする？～ワークショップ」



東日本大震災追悼法要

法要終了後に、吹奏楽部の演奏で、参加者全員による「花は咲く」の合唱が行われました。



東日本大震に関する展示

追悼法要の前後に「東日本大震災に関する展示」を学生スタッフ中心に実施しました。



2017年度

の活動の様子

2017年度 第1回 東日本大震災復興支援ボランティア



雄勝湾灯籠流しの準備風景②
みんなで協力して舟に灯籠を運び込み、
出航の準備をしているところです。

雄勝湾灯籠流しの準備風景①
雄勝湾のところまで、灯籠を運び、船に
積み込むための最後の準備をしています。



2017年度 第2回 東日本大震災復興支援ボランティア



雄勝小学校・中学校併設校の大運動会②
おがっスポレクまつりからの伝統競技
「愛の献血リレー」

雄勝小学校・中学校併設校の
大運動会①
2017年に雄勝町に誕生した
雄勝小学校・中学校併設校の
大運動会に参加。雄勝町の皆
さんと一緒に学生も入場行進
です。





2017年度 東日本大震災復興支援ボランティア

雄勝小学校の子ども達が避難した裏山に登り、どう避難したのかについてお話を聞きました。赤いテープでつけられた線は、津波がここまで到達したことを表しています。

2017年度 福島スタディツアー



阿部農園を見学。震災直後に安全な食べ物を作るために行った作業や、現在の状況についてお話を聞きました。

高齢者施設での交流会の後、別れの時間を惜しんで固い握手。



体験を伝える

京都府教育委員会からの依頼で、親子で参加する「防災キャンプ」で、学生2名が、雄勝町でのボランティア体験を話しました。

2018年度

の活動の様子

2018年度 第1回 東日本大震災復興支援ボランティア



雄勝湾灯籠流しの準備風景。
灯籠の作り方を地元の方に
教わっている様子です。

2014年から毎年訪れている
雄勝ローズファクトリーガーデンで、
整備している様子。毎年、ガーデンは
進化しています。



2018年度 第2回 東日本大震災復興支援ボランティア



雄勝小学校・中学校併設校の
大運動会①
運動会のプログラムの合間に、
先生と次の段取りについて
打ち合わせをしながら準備を
進めました。

雄勝小学校・中学校併設校の
大運動会②
運動会終了後、片付けも終わ
って、地元の皆さんと一緒に
解散式をしました。心配した
天候も、なんとか持ってくれ
て、一安心しました。



2018年度 福島スタディツアー

初日の夜、地元の高校生の現状や想い、知ってほしいことなどをお話してもらいました。



浪江町の駅前を数人に分かれて、歩きました。実際に歩いてみたからこそわかる発見がたくさんありました。

学生スタッフ企画



2014年度から、瀬田キャンパスの隣に位置するびわこ文化公園で開催される「防災・減災そなえパークの日」に参加し、子ども達に向けた防災知識を伝えるイベントを実施しています。

「私たちからあなたに伝えたい3.11～あの震災を過去で終わらせない～」ワークショップの様子。復興支援ボランティアに参加した学生が中心となって、活動を通して知った「伝えたい」想いを形にしました。



2019年度

の活動の様子

2019年度 第1回 東日本大震災復興支援ボランティア



雨の中、灯笼作りの準備を地元の
人たちと一緒に行いました。



毎年、灯笼流しの前に執り
行われる浜供養に参列させ
ていただいています。



19年度には初めて、女川町の
視察も行いました。



2019年度 第2回 東日本大震災復興支援ボランティア

雄勝小学校・祖父母交流会①
雄勝小学校の子ども達や地域の方
たちと一緒にほってえ皿作り
を行いました。

雄勝小学校・祖父母交流会②
休憩時間に子ども達と校庭で
一緒に遊びました。



2019年度 福島スタディツアー



毎年訪問している阿部農園でお話を
聴いているところです。

夜のふりかえりの時間。
一日の終わりに、皆で今日
一日に感じたこと、考えた
ことを共有しました。



東日本大震災追悼法要

毎年3月に、大宮・深草・瀬田
キャンパスで追悼法要を実施して
います。法要後は、復興支援ボラン
ティアに参加した学生が活動報告を
行っています。(深草・顕真館)

2011年～
2015年

までの活動の様子



2012年 7月

石巻市雄勝町で活動。地場産業復興支援で硯石のスレート磨きをしました。雄勝のスレートは深草キャンパスの和顔館に展示されています。

2013年11月

石巻市雄勝町で開催されたおがつ店こ屋街のイベントに参加。京都のお茶を振舞いながら、地元の人と交流しているところです。



2014年11月

おがつ店こ屋街のイベントで顔見知りになった地元の人と談笑中。

2015年 8月

霧雨の中、雄勝湾灯籠流しで行われる
供養花火の準備を行っているところです。



活動報告書の発刊にあたって



龍谷大学学長 入澤 崇

2011年3月11日14時46分、東日本大震災が発生。この広域かつ深刻な未曾有の被害をもたらした災害から10年。あらためて犠牲となられた一人ひとりの命に哀悼の意を表するとともに、すべての被災者の皆さまにお見舞いを申し上げます。そして、懸命に救助・救援活動、被災者の生活支援活動、インフラ復旧に取り組まれた皆さまのご尽力に心から敬意を表します。龍谷大学では、東日本大震災の発災直後に取り組まれた学内での募金活動を皮切りに、ボランティア・NPO活動センターが事務局となり、学内外で様々な東日本大震災復興支援活動が続けてきました。一人の力は微力であっても、学生、教職員、卒業生、保護者など多くの本学関係者が協力し合いながら、チーム龍大として一丸となれたからこそ、この10年間復興支援活動に取り組む続けることが出来ました。中でも継続的に行っている宮城県石巻市でのボランティア活動は、これまでのべ692名の学生・教職員が参加しました。さらに、2015年からは福島スタディツアーも毎年開催するなど、距離的に遠い東北の地に実際に足を運び、地元の皆さんと交流しながら、震災を学ぶ機会を積極的に作っています。これらの活動を通じて学生は、被災地域の抱えるあまりに多くの不条理や深刻な課題に出会って「知っているつもりであったが、実は何も知らなかった」ということに気づくようになります。そこからさらに、被災地で感じた矛盾を自身の居住する地域にも重ね合わせながら深く考え、模索する機縁をいただいています。

この10年を振り返ると、多くの災害が発

生しました。人間が自然に対していかに無力であるかを実感する10年だったのかもしれませんが。私たちは、そうした深い悲しみと喪失を抱えながらも、一方では人々がつながって励まし合い、助け合い、支え合ってきました。つながりあうことによって、私たちは幾多の困難を乗り越えてきたのです。しかし、今、大きな問題となっている「新型コロナウイルス」。この新たな災いにより、私たちはつながりあうということが出来なくなり、物理的な距離を取らざるを得ない状況になってしまいました。新たなつながり方の模索が始まっています。龍谷大学の創立380周年の基本コンセプトとして掲げた行動哲学は「自省利他」です。すべてのいのちを大切にする利他的な生き方であり、「利他」は「排他」とは真逆の精神作用です。自分のあり方を省みて、他者の安寧に資する行動を心がける。これがこれからの新たな人と人とのつながり方を模索するうえで、大きなヒントになると思います。

これからも龍谷大学は自らに問いかけ続ける「自省利他」の精神を大切に歩み続けます。どうぞ、これからも皆さまの温かいお心とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目次



活動報告書の発刊にあたって	1
第一部 龍谷大学 復興支援活動の概要	5
東日本大震災復興支援活動10年をふりかえって	6
東日本大震災等復興支援プロジェクトチーム 構成メンバー 一覧	12
「東日本大震災復興支援ボランティア」活動概略	14
「福島スタディツアー」活動概略	17
「東日本大震災復興支援ボランティア及び、福島スタディツアー」の参加者人数	18
「東日本大震災復興支援ボランティア及び、福島スタディツアー」の学部別参加者人数	20
2011年～2020年の動き（※主にボランティア・NPO活動センターが関わったもののみを掲載）	21
第二部 取組んだ復興支援活動について	37
1. 2010年度～2015年度までの活動ダイジェスト	38
2011年度～2015年度の活動	39
2. 2016年度～2019年度の活動報告	48
2016年度 活動報告	48
2016年度 東日本大震災復興支援ボランティア	48
2016年度 東日本大震災復興支援ボランティア報告会	49
Oh!ガッツ!! 雄勝♪～防災意識を高めよう!こんなときあなたはどうする?～【学生スタッフ企画】	49
2017年度 活動報告	51
2017年度 第1回 東日本大震災復興支援ボランティア	51
2017年度 第2回 東日本大震災復興支援ボランティア	52
2017年度 東日本大震災復興支援ボランティア報告会	53
2018年度 活動報告	54
2018年度 第1回 東日本大震災復興支援ボランティア	54
2018年度 第2回 東日本大震災復興支援ボランティア	55
2018年度 東日本大震災復興支援ボランティア報告会	56
私たちからあなたに伝えたい3.11 ～あの震災を過去で終わらせない～【学生スタッフ企画】	56
2019年度 活動報告	58
2019年度 第1回 東日本大震災復興支援ボランティア	58
2019年度 第2回 東日本大震災復興支援ボランティア	59
2019年度 東日本大震災復興支援ボランティア報告会	60
3. 福島スタディツアーについて	61
4. 東日本大震災追悼法要勤修一覧	67
5. 活動に参加した学生からのメッセージ	68
「東日本大震災復興支援ボランティアに参加して」	68
藤原 恵太（文学部 仏教学科 2016年度卒）	

「東日本大震災復興支援ボランティアに参加して」	69
白土 奈央（法学部 法律学科 2016年度卒）	
「何をどう伝えるか」	70
南山 裕紀（政策学部 政策学科 2017年度卒）	
「人生を変えた5回のボランティア活動」	71
萩森 紀恵（経営学部 経営学科 2019年度卒）	
「東日本大震災復興支援ボランティアに参加して」	72
大橋 寛海（社会学部 地域福祉学科 4年生）	
「福島スタディツアーを経て」	73
西山 大樹（政策学部 政策学科 2018年度卒）	
「3.11を受け継ぐ人になる」	74
坂本 唯（国際学部 グローバルスタディーズ学科 2018年度卒）	
6. 引率コーディネーターからメッセージ	75
この10年をふりかえって	75
ボランティア・コーディネーター 竹田 純子	
第三部 関係者からのメッセージ	77
花と緑の力で、人とつながり希望を紡ぐ	78
一般社団法人「雄勝花物語」 共同代表 徳水 博志	
災害とボランティア活動について	79
社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 復興支援課課長 阿部 由紀	
ありがとう、龍谷大学	80
高橋 頼雄	
この時代を生き抜くために	81
特定非営利活動法人さぽーとセンターぴあ 代表理事 青田 由幸	
第四部 学内のゼミ等による取り組みについて	83
フクシマを忘れない。フクシマに学び続ける。～コミュニティマネジメント学科の教育実践～	84
社会学部コミュニティマネジメント学科 准教授 築地 達郎	
「京都マラソン×スポーツマネジメントLab.（松永ゼミ）×京都伝統工芸」	85
プロジェクトによる10年間の東日本大震災復興支援活動	
スポーツサイエンスコース スポーツマネジメント研究室 松永ゼミ生	
経営学部 教授 松永 敬子	
第五部 資料集	87
1. その他災害への取り組みについて	88
その他災害への取り組み	88
その他災害（ボランティアバス）参加者人数	90
2. 資料	91
メディア掲載情報	91
東日本大震災復興支援ボランティアに参加した学生の名簿	94
福島スタディツアーに参加した学生の名簿	102

第一部 龍谷大学 復興支援活動の概要

東日本大震災復興支援活動10年をふりかえって



社会学部教授 筒井のり子
(ボランティア・NPO活動センター長)

はじめに

2011年3月11日（金）14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生した。発生時点では、日本周辺における観測史上最大の地震であった。気象庁はこの地震を「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」と命名。その後、同年4月1日に、この地震がもたらした災害およびこれに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故による災害全体の呼称を「東日本大震災」とすることが閣議決定された。

死者1万5,899人、行方不明者2,528人（警察庁2020年9月）、震災関連死は3,739人（復興庁 2019年9月）を数え、これらを合わせると犠牲者は2万2166人にのぼる。犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、今なお避難生活を余儀なくされている方々や復興に際してご苦労されている方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、本報告書は、龍谷大学がこの東日本大震災にどのように向き合い、10年間どのような復興支援ボランティア活動を展開してきたかをまとめたものである。

（すでに、発災から5年間の活動をまとめた冊子『龍谷大学 東日本大震災復興支援ボランティア活動報告書（2011～2015年度）』を刊行しているので、本報告書においては、各年度の詳細な記述は2016年度以降のものとなる。）

本報告書を通して、復興支援ボランティア活動に参加した卒業生／在学生在が活動を振り返り、活動から学んだことを今後の生き方や地域づくりに生かしてもらえればと思う。また、これは学生たちを受け入れてくださった被災地の皆さまへの感謝を込めたご報告でもある。さら

に、今後も起きる可能性のある大規模災害への対応について、大学としての取り組みの一例として、他大学や関係機関の方々の参考になれば幸いである。

以下、簡単にこの10年を概観してみたい。



第1回東日本大震災復興ボランティア（2011年6月）

（1）龍谷大学における取り組みのスタンス

①「学生ボランティア等の被災者・被災地支援活動検討プロジェクトチーム」の設置

龍谷大学では、東日本大震災の発災直後に学長を本部長とする「危機対策本部」が設置され、全学生の安否確認を実施すると共に、大学として対応すべき施策（被災した入学予定者への経済的支援、新たな特別援助奨学金制度の創設等）が検討された。

ボランティア・NPO活動センター（以下、センター）では、3月14日（月）午前、センター長（※2010年度）の古川秀夫国際文化学部教授、2011年度からセンター長就任予定の松島泰勝経済学部教授、課長、ボランティアコーディネーターが集まり、センターとして今後どのように関わっていくべきかが話し合われた。震災直後は現地の情報が不足していたため、まずは「学生及び教職員を対象に義援金を募る」「現地の

状況は予断を許さないため、当面は学生の被災地での活動自粛をホームページに掲載する」ととし、同日開催される危機対策本部会議に提案・了承を受けた。ここから本学の復興支援活動がスタートした。

募金活動については、センターの学生スタッフをはじめとする学生の協力の元、震災から7日後の卒業式から開始し、入学式等において実施した。教職員、卒業生、保護者において展開された募金とともに4月28日までに総額1,678万円が集まり、第一義援金として中央共同募金会へ送られた。

その後、被災地の支援に関わる教職員からは、「他大学やNPO等と連携したボランティア活動を検討して欲しい」、学生からは「現地に赴きボランティア活動を行いたい」との要望等、センターにはさまざまな意見が寄せられた。

これらの多くの学生や教職員の意見を取り入れながら、大学として復興支援活動を速やかに、かつ総合的に行うためには、センターという一部局ではなく全学的な組織体で検討していくことが望ましいと判断し、危機対策本部会議（3月28日開催第3回）において、センターからプロジェクトチーム設置の提案を行った。その結果、4月より危機対策本部会議の下に「学生ボランティア等の被災者・被災地支援活動検討プロジェクトチーム」（以下PJ）が設置された。

プロジェクトチームは、副学長、学生部長、ボランティア・NPO活動センター長、学長室（広報）及び学内学識経験者を中心に編成し、センターが事務を所管することとなった。以後、センターでは、通常業務を行いながら震災関連事業の事務局として情報収集に努め、その時々に必要なと思われる企画を実施することとなった。

第1回PJ会議は4月12日に開催され、被災地での活動の可能性や西本願寺（緊急災害対策本部事務局）や京都災害ボランティアセンター、関西の他大学等の動向などを確認するとともに、5月の連休中に活動する学生の安全確保と被災地に負荷をかけないようにするために「復興支援ボランティアガイダンス」の実施を決定

した。その後、「福島物産品の販売」や「被災地での復興支援ボランティア（ボランティアバスの運行）」、「東日本大震災復興支援ボランティアフォーラム」などの取り組みが検討され実行されていった。

2012年4月8日に「東日本大震災復興支援プロジェクトチーム」へ、また2016年度からは「東日本大震災等復興支援プロジェクトチーム」と名称を変え、2020年度現在継続して開催されている。

②学生たちの復興支援活動を支える財源

本学では、学生による支援活動をサポートするための費用が毎年予算化されている。それに加え2年目の2012年度に、支援する輪に加わる機会を作るという意味も込めて、学内で「東日本大震災 被災地でボランティア活動を行う学生に対する支援金」の募集を行った。

教職員有志
（給与天引き77人）をはじめとし、親和会（保護者会）、校友会（同窓会組



寄付金の贈呈式（2019年7月）

織）、学内設置の募金箱から合計4,542,623円が集まり、復興支援のボランティアバス運行や被災地での宿泊等、センター主催の復興支援ボランティアの際の学生へ補助金に当てられることとなった。また、2013年以降は文学部教授会（斯文会）から毎年寄付をいただいている。

このように、学生有志の被災地での復興支援活動に対し、大学の予算に加え教職員等有志が資金面で支えるというボランティアな支援の輪の広がりを作れたことは大きな意味があったのではないと思われる。

なお、本学では、ボランティアバスに参加する学生自身にも参加費（宿泊費等の一部）を払ってもらうこととしている。これにより、より主体的な参加意識が醸成されている。

（２）10年間の復興支援ボランティア活動

東日本大震災の復興支援については、学生や教職員によって個人的に取り組まれた活動も多くあるが、その全てを網羅し紹介することは困難であるため、本報告書では発災以降、センターが関わった復興支援の取り組みを紹介する。また、取り組んだ内容としては、募金活動や福島県の物産品販売、写真展、復興支援フォーラムなど多様にあるが、ここでは石巻市での復興支援ボランティア活動と福島スタディツアーの2つを取り上げて振り返ってみたい。



雄勝湾灯籠流しの準備風景（2013年8月）

①宮城県石巻市での復興支援ボランティア活動

2011年6月の第1回ボランティアバス運行から2019年9月の第22回まで、のべ692人の学生・教職員が、宮城県石巻市で復興支援活動を行った（2011年度は七ヶ浜町でも活動）。本来は2020年度も2回の活動を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止せざるを得なかったことは本当に残念である。

第4回目以降は、石巻市雄勝町において継続的な活動・交流を行ってきた。雄勝町は太平洋の美しいリアス式海岸に面した町で、硯の名産地として全国的にも有名なところである。2005年4月より市町村合併により石巻市の一部となった。東日本大震災の被害は甚大で、大津波によって建物の約8割が崩壊し、震災前は約4300人だった人口も1000人ほどにまで減少してしまった。この雄勝町の皆さまと10年にわたって交流させていただいていることに感謝したい。

各年度の活動の詳細は、次節および第2部に

紹介されているので、ここでは、この10年間を通して、特筆すべき点について述べたい。

●龍大生の関心の高さ

復興支援ボランティアバスの定員は30名としているが、申込者は常にその数を上回っている。募集説明会に参加する学生はさらに多数である。年を追うごとに東日本大震災についての関心の低下が懸念されるなか、本学においては5年を経過して以降もむしろ説明会への参加者は増加する傾向にある。

これは、まずはセンターのコーディネーターや学生スタッフが熱い思いを持って広報を行っていることが大きい。また、熊本地震や西日本豪雨災害の発生などにより、学生が具体的に危機感を覚えたことも影響しているだろう。しかしそれだけではなく、基盤として本学の「建学の精神」が学生たちに浸透しているとも言えるのではないだろうか。



参加者募集説明会の様子（2019年6月）

●現地の状況を踏まえた活動プログラムの更新

2011年度以降、継続して石巻市雄勝で活動を行っているが、その活動内容は毎回少しずつ変化している。それは、センターで丁寧に現地の状況やニーズを把握し、地元の関係者と相談してその時々で求められる活動プログラムを創出／調整しているからである。

まず、年度初めの4～5月に、センター長、課長、ボランティアコーディネーターが石巻市を訪問し、雄勝支所や社会福祉協議会、学校、商店街、複数のNPO等の関係者から聞き取りを行い、活動の時期や内容について必要性や可能性を話し合う機会を作っている。そこで確認できた方向性をもとに、コーディネーターがさ

らに関係者と連絡を取り合って活動プログラムを作り上げていく。



雄勝小学校の子ども達が避難した山道を実際に駆け上る防災教育の様子（2019年8月）

プログラム作りの視点としては、「被災された方々や地域のニーズに対応していること」、「学生にとって多様な学びが得られること」の2つをともに満たすことが重要だ。まさに、ボランティアコーディネーション力が問われるところである。

2015年度以降は徐々に防災教育の要素を強くしているなど、学生自身が当事者意識を持って向き合っていけるようなプログラムづくりが行われている。

●事前学習とリフレクションの重要性

本学では、参加が決まった学生たちへの事前説明会を必ず実施している。参加者はキャンパス、学部、学年がさまざまなので顔合わせの意味があるが、同時に改めて被災地や被災された方々の状況を学び、訪問するに当たってどのような準備をするかを話し合う場でもある。もちろん諸注意などのオリエンテーションもあるが、参加学生たちが当日に向けてモチベーションを高めていけるようにすることが重要だ。

事前学習とともに大切にしているのが、リフレクション（ふりかえり、内省）である。

活動中はほぼ毎晩、全員が集まって一人ずつ感想や気づきを発表する場を設けている。被災地でのボランティア活動を通して感じたことを言語化することの意味は大きい。毎晩行うことで、学生一人ひとりの思考の深まりを実感する

ことできる。

さらに、活動終了の約1カ月後に一般学生や教職員に向けて事後報告会を開催している。一定の期間を置くことで自分の体験や感情を俯瞰することができ、東日本大震災の復興について、あるいは自分たちの暮らす地域の防災について継続して考えていくことに繋がっているように思われる。



夜のリフレクションの様子（雄勝町・2018年8月）

②福島スタディツアー

センター独自の企画として、2015年度から「福島スタディツアー」を毎年2月に実施してきた。2020年度も実施予定（2021年2月）だったが、新型コロナ感染拡大の影響で、現地に赴くことは断念し、オンラインによる企画に変更することになった。2015年度から2019年度までにのべ74人が参加した（毎回の定員は15人に絞っている）。



福島市内の梨農家を訪ねて、震災当時や現在の取り組みについて話を聴く（2019年3月）

福島県は地震と津波の被害に加えて、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の被害が大きく、住み慣れた故郷を遠く離れての避難生活や風評被害など理不尽な状況が続いている。そこで、2011年より福島県での支援

活動に関わってきたセンター長（筆者）から、同じ時代に生きる市民として、まずはこの状況を知り、これをどのように捉えるのかを学生とともに考える機会を作りたいとの提案を行い、センターの国内体験学習プログラムの一つとして企画されることとなった。

ツアーのテーマとして「福島を“今”を見、福島に生きる人々の“言葉”を聴き、そして“自分”を見つめる」を掲げ、福島県内のまちづくりNPO、子育てサークル、梨農園、社会福祉協議会、障害者福祉事業所、企業（ソーシャルビジネス）など多様な方々から話をうかがうとともに、仮設住宅や高齢者サロンの方々との交流を行ってきた。訪問場所も福島市内、郡山市、南相馬市、飯舘村、浪江町など、避難指示が出されていた地域などを含めて多岐にわたっている。原発事故後3年半後によりやく開通した国道6号線もバスで通るようにしている（帰還困難区域のため住民は戻っていない）。

福島を訪問するにあたっては、事前学習会を開催して原発事故とその後の避難状況などについて全員が一定の理解をしておくようにしている。またツアー中は毎晩リフレクション（ふりかえり）を実施し、さらに約2週間後に事後学習の場を設けている。学生たちは、自分があまりにも無知だったこと、メディアの報道だけを鵜呑みにしてはいけないこと、立場によって多様な意見があること、単純に答えを出せないジレンマ等について、各自の言葉でとつとつと語ってくれる。その戸惑いや怒り、苛立ち、無力感を体感することこそ“学び”であり、被災された方々と繋がっていくことに他ならないのではないだろうか。



夜のリフレクションの様子（南相馬市、2020年2月）

（3）復興支援ボランティア活動経験から生み出されたもの

ボランティアの本質は、言うまでもなく自発性主体性である。自発的に関わるからこそ、「その次」の行動が生まれる。義務感や受身的な“お手伝い”感覚での関わりに終始したのであれば、活動が終わればそれ以上何かが生まれることはないだろう。

本学の復興支援ボランティア活動の10年をふりかえった時にうれしく感じるのは、参加した学生たちが、関西に戻ってきてからさまざまな取り組みを生み出していることだ。自費で2度3度と雄勝や福島を訪問している学生も少なくない。

以下、センターの学生スタッフが企画したものと、学生スタッフに限らず参加学生が企画したものの主なものを紹介したい。



学生企画「私たちがあなたへ伝えたい3.11～あの震災を過去で終わらせない」の様子（2019年1月）

①学生スタッフ企画

＊「Oh!ガッツ!雄勝♪」

これは、復興支援ボランティアに参加したメンバーが呼びかけて、少しでも雄勝のこと、東日本大震災のことを知ってほしいとの思いから、自主的に企画したものである。

2015年度に2回（写真展）、2016年度に1回（ワークショップ）行われている。ワークショップは「防災意識を高めよう!こんなときあなたならどうする?」と題して、学生140人への予備調査を経て防災クロスロードを実施した。

＊「私たちからあなたへ伝えたい3.11～あの震災を過去で終わらせない」

2018年度には、上記と同様の思いから、2回のワークショップと1回の展示が企画された。

＊「防災・減災そなえパークの日」への参加(ブース出店)

2016年度から2018年度まで毎年、瀬田キャンパス近くの公園で開催されるイベントに自主企画でブース出店を行った（2019年度はイベント自体が中止）。復興支援ボランティア活動に参加したことから防災・減災についてさらに学びを深め、広く意識を喚起したいとの学生スタッフの想いから企画されたものである。

②その他

センターの学生スタッフ企画以外にも、復興支援ボランティア活動や福島スタディツアーに参加した学生たちがさまざまな自主企画を行っている。例えば、写真家の大西暢夫さんを招いての映画上映会（2016年）、大阪ボランティア協会の学習会で「見て、聴いて、考えた“福島”」と題しての発表（2018年）などである。

また、復興支援ボランティアに参加したことをきっかけに東北で就職した学生、消防士になった学生、福島のことをさらに研究したいと大学院へ進学した学生など、人生に大きな影響を与えた例もある。

以上、改めてこの10年を振り返ってみると、継続して活動することの意味、そしてそれを可能とする被災地・被災された方々との信頼関係、そして大学としてのバックアップ体制の大きさを痛感する。10年を一つの区切りとして活動形態は変化していくと思われるが、これからも東北の方々とのつながりを大切に、学生たちとともに考え続けていきたい。



東日本大震災復興支援活動報告会の様子（2012年9月）



和顔館地下2階光庭に設置された硯石のスレートのモニュメント（2014年2月）

東日本大震災等復興支援プロジェクトチーム 構成メンバー 一覧

●位置づけ・・・学長会の下に設置

	2011年	2012年	2013年	2014年
	学生ボランティア等の被災者支援活動検討プロジェクトチーム			
	東日本大震災復興支援プロジェクトチーム			

1. プロジェクトメンバー

プロジェクト長	田中 則夫 副学長 法務研究科教授	池田 勉 副学長 理工学部教授		
事務局長	高橋 篤法	平島 義仁	足利 善彰	
ボランティア・NPO 活動センター長	松島 泰勝 経済学部教授	松島 泰勝 経済学部教授	筒井のり子 社会学部教授	筒井のり子 社会学部教授
学生部長	村岡 倫 文学部教授	村岡 倫 文学部教授	玉木 興慈 短期大学部教授	玉木 興慈 短期大学部教授
学長室（広報） 次長	藤井 彰二	藤井 彰二	増田 滋彦	増田 滋彦
学識経験者	筒井のり子 社会学部教授	筒井のり子 社会学部教授	松島 泰勝 経済学部教授	伊達 浩憲 経済学部教授
	深尾 昌峰 政策学部准教授	深尾 昌峰 政策学部准教授	深尾 昌峰 政策学部准教授	松島 泰勝 経済学部教授
	阪口 春彦 短期大学部教授	阪口 春彦 短期大学部教授	阪口 春彦 短期大学部教授	深尾 昌峰 政策学部准教授
				阪口 春彦 短期大学部教授

2. 事務局（ボランティア・NPO活動センター）

ボランティア・NPO 活動センター長	松島 泰勝 経済学部教授	松島 泰勝 経済学部教授	筒井のり子 社会学部教授	筒井のり子 社会学部教授
副ボランティア・ NPO活動 センター長	金子裕一郎 経済学部講師	金子裕一郎 経済学部講師	松永 敬子 経営学部准教授	松永 敬子 経営学部教授
	—	—	笠井 賢紀 社会学部講師	笠井 賢紀 社会学部講師
部長・次長	石川 達也	石川 達也	石川 達也	石川 達也
課長	大石 洋史	—	—	—
課員	—	—	—	—
コーディネーター	竹田 純子	竹田 純子	竹田 純子	竹田 純子
	竹村 光世	竹村 光世	竹村 光世	古澤 登美代
	ヒギンズ尚美	ヒギンズ尚美	東郷 珠江	東郷 珠江
	西島 有垣	東郷 珠江	上手 礼子	上手 礼子

2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	東日本大震災等復興支援プロジェクトチーム				
		長上 深雪 副学長 社会学部教授			
霍野 廣紹（～2015年6月） （2015年6月～）玉井 利尚		公文名 眞		荻野 昭裕（～2019年1月） （2019年1月～）武野 公昭	
伊達 浩憲 経済学部教授	松永 敬子 経営学部教授	阪口 春彦 短期大学部教授	阪口 春彦 短期大学部教授	筒井のり子 社会学部教授	筒井のり子 社会学部教授
長上 深雪 社会学部教授	長上 深雪 社会学部教授	松永 敬子 経営学部教授	松永 敬子 経営学部教授	福本 宰之 文学部教授	福本 宰之 文学部教授
増田 滋彦	増田 滋彦	増田 滋彦	増田 滋彦		
松島 泰勝 経済学部教授	松島 泰勝 経済学部教授	伊達 浩憲 経済学部教授	伊達 浩憲 経済学部教授	松島 泰勝 経済学部教授	伊達 浩憲 経済学部教授
筒井のり子 社会学部教授	筒井のり子 社会学部教授	筒井のり子 社会学部教授	松島 泰勝 経済学部教授	深尾 昌峰 政策学部教授	松島 泰勝 経済学部教授
深尾 昌峰 政策学部准教授	深尾 昌峰 政策学部准教授	松島 泰勝 経済学部教授	筒井のり子 社会学部教授	石原 凌河 政策学部准教授	深尾 昌峰 政策学部教授
阪口 春彦 短期大学部教授	阪口 春彦 短期大学部教授	深尾 昌峰 政策学部准教授	深尾 昌峰 政策学部准教授	阪口 春彦 短期大学部教授	石原 凌河 政策学部准教授
					阪口 春彦 短期大学部教授
伊達 浩憲 経済学部教授	松永 敬子 経営学部教授	阪口 春彦 短期大学部教授	阪口 春彦 短期大学部教授	筒井のり子 社会学部教授	筒井のり子 社会学部教授
松永 敬子 経営学部教授	筒井のり子 社会学部教授	筒井のり子 社会学部教授	筒井のり子 社会学部教授	石原 凌河 政策学部准教授	石原 凌河 政策学部准教授
筒井のり子 社会学部教授	—	—	—	—	—
大石 洋史	大石 洋史	伊勢戸 康	鶴野 善久	鶴野 善久	
平井 良和	平井 良和	平井 良和	平井 良和	平井 良和	吉貞 正流
—	—	—	—	—	中島 崇史
竹田 純子	竹田 純子	竹田 純子	竹田 純子	竹田 純子	竹田 純子
上手 礼子	上手 礼子	上手 礼子	ヒギンズ尚美	ヒギンズ尚美	ヒギンズ尚美
東郷 珠江	東郷 珠江	古澤 登美代	國實 紗登美	國實 紗登美	國實 紗登美
古澤 登美代	古澤 登美代	國實 紗登美	上手 礼子	上手 礼子	上手 礼子

「東日本大震災復興支援ボランティア」活動概略

本項目は、本学の学生・教職員を対象に参加者を募り、ボランティアバスを運行して実施した「東日本大震災復興支援ボランティアプログラム」の活動概要を掲載しています。その他の本学主催の東日本大震災（他の災害における活動も含む）に関する活動については、活動年表をご参照ください。

2011年度	
6月24日(金)～6月27日(月)	●第1回東日本大震災 復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市大街道、中里3丁目付近 参加者 学生19名、引率2名（大石、竹田） 広報室（中島）25日まで同行 主な活動内容 ・家財道具の運びだし、泥だし、側溝清掃活動 等
7月2日(土)～7月5日(火)	●第2回東日本大震災 復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市旭町、宮城郡七ヶ浜町菖蒲田浜 参加者 学生19名、職員3名、引率2名（松島、竹田） 主な活動内容 ・側溝清掃、家屋等への流入物の撤去活動 等
8月4日(木)～8月10日(水)	●第3回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市牡鹿町、宮城郡七ヶ浜町菖蒲田浜 参加者 学生24名、教員3名、職員2名 引率4名（前半：大石、西島 後半：松島、竹田） 主な活動内容 ・側溝清掃、家屋等への流入物撤去活動 等 活動を前半等後半に分け、 中1日を休養日にして実施。 前半：8／4～7 後半：8／7～10
11月11日(金)～11月14日(月)	●第4回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝伊勢畑 参加者 学生23名、職員1名、引率（大石、竹村） 主な活動内容 ・側溝清掃、硯石のスレート磨き等
12月2日(金)～12月5日(月)	●第5回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝、宮城郡七ヶ浜町にて活動 参加者 学生25名、教員1名、引率（大石、竹田） 活動内容 ・硯石のスレート磨き等 ・七ヶ浜災害ボランティアセンター内の清掃 等 ・赤松学長と長野総務局長が活動の視察
2012年度	
9月13日(木)～9月16日(日)	●第1回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率3名（松島、石川、竹田） 主な活動内容 ・硯石のスレート磨き ・石巻専修大学の山崎ゼミとの交流会 ・雄勝森林公園内にある仮設住宅の皆さんとのバーベキュー交流会 等
11月16日(金)～11月19日(月)	●第2回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率5名（池田、阪口、石川、竹村、東郷） 主な活動内容 ・「おがつ店こ屋街の1周年記念イベント」にブース出店と運営の手伝い ・硯石のスレート磨き 等

2013年度	
8月12日(月)～8月16日(金)	●第1回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率2名(筒井、竹田) 主な活動内容 ・「雄勝湾灯籠流し」に関する作業全般 ・硯石のスレート磨き 等
9月27日(金)～9月30日(月)	●第2回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生31名、引率3名(石川、竹村、上手) 主な活動内容 ・おがつスポレクまつりの運営補助 等
11月15日(金)～11月18日(月)	●第3回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生31名、引率4名(池田、石川、古澤、竹村) 活動内容 ・「おがつ店こ屋街の2周年記念イベント」にブースを出店と運営の手伝い ・硯石のスレート磨き 等
2014年度	
8月12日(火)～8月16日(土)	●第1回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率2名(筒井、竹田) 主な活動内容 ・「雄勝湾灯籠流し」に関する作業全般 ・石巻市社会福祉協議会を訪問し、石巻市の現状について講話を聴く 等
9月26日(金)～9月29日(月)	●第2回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率2名(筒井、竹田) 主な活動内容 ・『おがつスポレクまつり』(大須小学校)の運営補助 ・雄勝ローズファクトリーガーデンで花壇の手入れ ・防災学習【雄勝花物語】 等
11月14日(金)～11月17日(月)	●第3回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率3名(石川、竹田、古澤) 主な活動内容 ・「おがつ店こ屋街の3周年記念イベント」にブースを出店と運営の手伝い ・震災についての学習と語り部の案内で石巻市街地を視察【みらいサポート石巻】 等
2015年度	
8月12日(水)～8月16日(日)	●第1回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率2名(池田、竹田) 活動内容 ・「雄勝湾灯籠流し」に関する作業全般 ・雄勝ローズファクトリーガーデンで花壇の手入れ ・防災学習(大川小学校の案内も含む)【雄勝花物語】 等
10月9日(金)～10月12日(月)	●第2回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率3名(石川、竹田、古澤) 活動内容 ・「おがつ店こ屋街の3周年記念イベント」にブースを出店と運営の手伝い ・防災学習(大川小学校の案内も含む)【雄勝花物語】 等

2016年度	
8月12日(金)～8月16日(火)	●第1回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率2名(大石、東郷) 活動内容 ・「雄勝湾灯籠流し」に関する作業全般 ・雄勝ローズファクトリーガーデンでの花壇の手入れ ・防災学習【雄勝花物語】等
2017年度	
8月12日(土)～8月16日(水)	●第1回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率2名(竹田、上手) 主な活動内容 ・「雄勝湾灯籠流し」に関する作業全般 ・雄勝ローズファクトリーガーデンでの花壇の手入れ ・防災学習【雄勝花物語】等
9月7日(木)～9月10日(日)	●第2回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率3名(竹田、古澤) 主な活動内容 ・石巻市立雄勝小学中学併設校大運動会&おがつスポレクまつり」運営補助 ・防災学習【雄勝花物語】等
2018年度	
8月12日(日)～8月16日(木)	●第1回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率2名(竹田、國實) 主な活動内容 ・「雄勝湾灯籠流し」に関する作業全般 ・雄勝ローズファクトリーガーデンでの花壇の手入れ
9月6日(木)～9月10日(月)	●第2回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率2名(竹田、國實) ※内2名が、関西を直撃した台風21号の影響で参加出来ず 主な活動内容 ・石巻市立雄勝小学中学併設校大運動会&おがつスポレクまつり」運営補助 ・防災学習【雄勝花物語】等
2019年度	
8月12日(月)～8月16日(金)	●第1回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率3名(石原、竹田、國實) 主な活動内容 ・「雄勝灯籠流し」に関する作業全般 ・防災学習【雄勝花物語】 ・語り部の案内で女川町市街地を視察【女川町観光協会】等
9月11日(水)～9月14日(土)	●第2回東日本大震災復興支援ボランティア 活動場所 宮城県石巻市雄勝 参加者 学生30名、引率3名(筒井、竹田、國實) 主な活動内容 ・「石巻市立雄勝小学校での祖父母交流会へ参加」に運営の手伝いと授業への参加 ・雄勝ローズファクトリーガーデンでの花壇の手入れ ・防災学習【雄勝花物語】等

「福島スタディツアー」活動概略

2015年度	
2016年 2月22日(月)～2月25日(木)	訪問場所 福島県福島市、南相馬市、郡山市、飯舘村 参加者 学生15名、引率3名(赤松、筒井、竹田) 主な活動内容 ・福島県内で活動するNPOや福祉関係者、子育てサークル、農業従事者、地域住民等、様々な立場の方たちから話を聴き、学ぶ ・仮設住宅を訪問し、住民と交流
2016年度	
2017年 2月24日(金)～2月28日(火)	訪問場所 福島県福島市、南相馬市、郡山市、川俣村 参加者 学生15名、引率3名(赤松、筒井、竹田) 主な活動内容 ・福島県内で活動するNPOや福祉関係者、子育てサークル、農業従事者、地域住民、福島出身の卒業生等、様々な立場の方たちから話を聴き、学ぶ ・仮設住宅を訪問し、住民と交流 ・南相馬市内を視察
2017年度	
2018年 2月24日(土)～2月28日(水)	訪問場所 福島県福島市、南相馬市、郡山市、浪江町 参加者 学生15名、引率2名(筒井、竹田) 主な活動内容 ・福島県内で活動するNPOや福祉関係者、農業従事者、地元企業等、様々な立場の方たちから話を聴き、学ぶ ・高齢者施設を訪問し、高齢者と交流 ・南相馬市内、浪江町内を視察
2018年度	
2019年 2月19日(火)～2月23日(土)	訪問場所 福島県福島市、南相馬市、郡山市、浪江町 参加者 学生15名、引率2名(筒井、竹田) 主な活動内容 ・福島県内で活動するNPOや福祉関係者、農業従事者、地元企業等、様々な立場の方たちから話を聴き、学ぶ ・高齢者サロンを訪問し、交流 ・南相馬市内、浪江町内を視察
2019年度	
2020年 2月16日(日)～2月20日(木)	訪問場所 福島県福島市、南相馬市、郡山市、浪江町 参加者 学生15名(※内1名、体調不良のため欠席)、引率2名(筒井、竹田) 主な活動内容 ・福島県内で活動するNPOや福祉関係者、農業従事者、地元企業等、様々な立場の方たちから話を聴き、学ぶ ・南相馬市内、浪江町内を視察 ※2018年度に引き続き、高齢者サロンを訪問する予定であったが、新型コロナウイルス流行に配慮し、急きょ取りやめ

「東日本大震災復興支援ボランティア及び、福島スタディツアー」の参加者人数

東日本大震災等復興支援ボランティア参加者人数

※（ ）内は、東日本大震災 支援活動通算回数	学生	教員	職員	引率	合計
2011年					
東日本大震災 第1回（1）	19	0	1	2	22
東日本大震災 第2回（2）	19	0	3	2	24
東日本大震災 第3回（3）	24	3	2	4	33
東日本大震災 第4回（4）	25	0	1	2	28
東日本大震災 第5回（5）	23	1	0	2	26
小 計	110	4	7	12	133
2012年					
東日本大震災 第1回（6）	30	0	0	3	33
東日本大震災 第2回（7）	30	0	0	5	35
小 計	60	0	0	8	68
2013年					
東日本大震災 第1回（8）	30	0	0	2	32
東日本大震災 第2回（9）	31	0	0	3	34
東日本大震災 第3回（10）	31	0	0	4	35
小 計	92	0	0	9	101
2014年					
東日本大震災 第1回（11）	30	0	0	2	32
東日本大震災 第2回（12）	30	0	0	4	34
東日本大震災 第3回（13）	30	0	0	3	33
小 計	90	0	0	9	99
2015年					
東日本大震災 第1回（14）	30	0	0	2	32
東日本大震災 第2回（15）	30	0	0	3	33
小 計	60	0	0	5	65
2016年					
東日本大震災 第1回（16）	30	0	0	2	32
小 計	30	0	0	2	32
2017年					
東日本大震災 第1回（17）	30	0	0	2	32
東日本大震災 第2回（18）	30	0	0	2	32
小 計	60	0	0	4	64

2018年					
東日本大震災 第1回 (19)	30	0	0	2	32
東日本大震災 第2回 (20)	30	0	0	2	32
小 計	60	0	0	4	64
2019年					
東日本大震災 第1回 (21)	30	0	0	3	33
東日本大震災 第2回 (22)	30	0	0	3	33
小 計	60	0	0	6	66
【復興支援活動】総合計	622	4	7	59	692

注) 引率は、主にボランティア・NPO活動センターの教職員が担当しているが、センター委員やPJ委員も含まれている。

福島スタディツアーの参加者人数

※ () 内は、福島スタディツアーの 通算回数	学生	教員	職員	引率	合計
2015年					
福島スタディツアー (1)	15	1	0	2	18
2016年					
福島スタディツアー (2)	15	1	0	2	18
2017年					
福島スタディツアー (3)	15	0	0	2	17
2018年					
福島スタディツアー (4)	15	0	0	2	17
2019年					
福島スタディツアー (5)	14	0	0	2	16
【スタディツアー】総合計	74	2	0	10	86
復興支援活動とスタディツアーの 総参加者合計	696	6	7	69	778

「東日本大震災復興支援ボランティア及び、福島スタディツアー」の学部別参加者人数

●東日本大震災 ※2011年度～2019年度

学部	参加者数
文学部	112
文学部・大学院	1
経済学部	69
経営学部	32
法学部	72
理工学部	23
理工学部・大学院	3
社会学部	137
政策学部	62
国際文化学部	57
国際学部	21
農学部	14
短期大学部	19
合計	622

●福島スタディツアー ※2015年度～2019年度

学部	参加者数
文学部	14
経済学部	6
経営学部	5
法学部	6
理工学部	6
社会学部	14
政策学部	8
国際文化学部	5
国際学部	2
農学部	7
短期大学部	1
合計	74



募金活動の様子（2011年3月・卒業式）



福島スタディツアー・仮設住宅での茶話会（2016年2月）

2011年～2020年の動き（※主にボランティア・NPO活動センターが関わったもののみを掲載）

2011年3月11日（金）14時46分18秒に宮城県牡鹿半島沖を震源とした「東日本大震災」（マグニチュード9.0。最大震度7）が発生。

地震と津波により、東北から関東にかけての東日本一帯に甚大な被害をもたらした。また、その影響で福島第一原子力発電所事故が起こり、巨大地震と津波、原発事故という人類史上初の複合災害となった。

日付	できごと	実施 キャンパス
2010年度		
2011年 3月14日（月）	古川センター長と松島教授（2011年4月よりセンター長に就任）、大石課長、ボランティア・NPO活動センターの課員が集まって今後の対応について協議	
	龍谷大学の東北地方太平洋沖地震に関する危機対策本部会議において、大学として学生及び教職員に対し、義捐金の募集を呼び掛けることが決定。募金の呼び掛けは、ボランティア・NPO活動センター（学生担当）及び総務部総務課（教職員担当）が中心で行うことを決定	
	古川センター長名で「【東北地方太平洋沖地震】学生の被災地でのボランティア活動自粛のお願い」をセンターホームページ上に掲載	
	学生スタッフの安否確認を実施 ※大学としては、3/12～13の間で被災県の学生に対し、安否確認を実施	
3月15日（火）	ボランティア・NPO活動センター学生スタッフに対し、募金活動への協力と呼びかけ、募金活動に取り組むことが決定	
	学生スタッフとセンターコーディネーター、中央執行委員会代表者、学生部職員が集まり募金活動連携のために話し合いを行い、17日からの募金活動の開始を決定	
	若原学長名で教職員に対し『東北地方太平洋沖地震被災者支援への募金について（お願い）』という文書が出される。 教職員は総務課、学生についてはボランティア・NPO活動センターが中心となり学内の支援窓口として募金活動が開始される	
	学生スタッフが募金箱を作成しているところを、KBS京都から取材を受ける	深草
3月16日（水）	「【東北地方太平洋沖地震】復興支援への募金のお願い」として、学生と教職員が募金活動を実施することをホームページ上に掲載	
3月17日（木）	卒業式での募金活動を開始 学生スタッフと学友会の有志のメンバーで実施	深草
	NHK京都放送、KBS放送で募金の様子がTVで放映される。	深草
3月18日（金）	卒業式での募金活動を開始 学生スタッフと学友会の有志のメンバーで実施	瀬田
3月19日（土）	キャンパスの近隣地域での募金活動	深草 瀬田
	学位授与式での募金活動	深草
3月21日（月）	オープンキャンパスでの募金活動 （アドミッション☆サポーター《入試部の学生スタッフ》が募金箱を設置）	深草
3月22日（火）	各キャンパスの近隣地域での募金活動	瀬田
3月24日（木）	学内（成績配布日等）での募金活動	大宮 深草 瀬田
3月25日（金）	学内（成績配布日等）での募金活動	深草 瀬田

2011年度		
4月1日(金)	入学式での募金活動	深草
4月2日(土)	入学式での募金活動	瀬田
4月6日(水)	ボランティア・NPO活動センターの提案で、復興支援を大学として総合的に検討するためのプロジェクトチーム設置を学長会に提案	
4月12日(火)	第1回学生ボランティア等の被災支援活動検討プロジェクトチームの会議(以下P J会議)開催 募金活動や被災地での活動の可能性、本願寺(緊急災害対策本部事務室)や京都災害ボランティアセンター、関西他大学等の動向等について話し合われた。また、ゴールデンウィーク中に活動する学生の安全確保と、被災地に負荷を掛けない活動を行うために、学生および教職員に向けた復興支援ボランティアガイダンスの実施を決定	深草
4月15日(金)	東京で開催された被災者支援のためのコーディネーション勉強会「被災者主体の災害ボランティアコーディネーションを考えるつどいin東京」に職員を派遣し、情報収集	
4月16日(土)	「東日本大震災 緊急青年ボランティアミーティング～今若者にできること～」に職員を派遣し、若者を主な参加者として被災地支援を行っている団体の情報収集と、活動に送り出す前の留意点などについての情報収集を実施	
4月22日(金)	東日本大震災復興支援募金活動で集まった義捐金を中央共同募金会に寄付 総額16,784,659円	
4月25日(月)	復興支援ボランティア・ガイダンス 被災地の状況説明と、活動の際に気をつけることなどについて説明。アンケートも実施し、学生の活動状況、どういう活動を求めているのかなどについての情報収集	瀬田
4月26日(火)	復興支援ボランティア・ガイダンス(4/25と同様の内容)	深草
	第2回P J会議開催	深草
4月28日(木)	東日本大震災復興支援 チャリティー茶会に共催 茶道部釣寂会の主催でチャリティー茶会を実施。ボランティア・NPO活動センターが後援し、宗教部、学術文化局本部、ふたば菓舗の協力で開催	深草
	「被災地に向かう前に、ボランティア・NPO活動センターに来室し、情報を得てから向かって欲しい」という趣旨のメッセージを松島センター長がホームページ上に掲載	
5月17日(火)	第3回P J会議開催 主に、学生・教職員による被災地でのボランティア活動実施と福島県の特産品販売について話し合わせ、復興支援ボランティアの実施が決定された。	深草
5月19日(木)	復興支援ボランティア報告会&ミーティング ゴールデンウィーク中に復興支援活動を行った教員の活動報告と、このミーティングに参加した学生・教職員からセンターに対する要望や現在求めている情報等についてヒアリング	深草
5月21日(土)～22日(日)	松島センター長と大石課長が宮城県を視察し、活動場所等について情報収集	
5月26日(木)	復興支援ボランティア報告会&ミーティング 開催(5/19と同様の内容)	瀬田
6月1日(水)～3日(金)	東日本大震災復興支援プロジェクト「福島県物産品販売」 NPO法人JIPPOと協働して福島県の特産品販売	深草
6月2日(木)	第4回P J会議開催	深草
6月6日(月)～9日(木)	東日本大震災復興支援プロジェクト「福島県物産品販売」 NPO法人JIPPOと協働して福島県の特産品販売(びわこ放送が取材)	瀬田
6月7日(火)～8日(水)	大石課長と竹田コーディネーターが仙台市と石巻市を訪問し、活動の調整を行う	
6月10日(金)	【第1回・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月13日(月)	【第1回・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田

6月20日（月）	【第1回・2回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
6月21日（火）	【第1回・2回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	瀬田
6月24日（金） ～27日（月）	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア （宮城県石巻市大街道地区、中里地区）	
7月2日（土） ～5日（火）	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア （宮城県石巻市旭町、宮城郡七ヶ浜町）	
7月7日（木）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
7月8日（金）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
7月15日（金）	【第1回・2回】復興支援ボランティア活動報告会	
7月21日（木）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
7月22日（金）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	瀬田
7月25日（月）	第5回PJ会議開催	深草
7月26日（火）	【第1回・2回】復興支援ボランティア参加者茶話会	深草
8月4日（木） ～10日（水）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア （宮城県石巻市牡鹿町、宮城郡七ヶ浜町）	
9月2日（金） ～4日（日）	●平成23年台風12号豪雨（紀伊半島豪雨） 大型で動きの遅い台風12号により、紀伊半島に甚大な被害が起こる	
9月20日（火）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会と参加者茶話会開催	深草
9月29日（木）	HPに「台風12号・15号で被災された方々への支援を考えているみなさんへ」を発信	
10月20日（木）	【第4回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
10月21日（金）	【第4回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	瀬田
10月22日（土）	東日本大震災復興支援フォーラム『震災復興に果たす大学の役割』開催 ・「震災から復興を目指す宮城県石巻市～学生ボランティアに期待すること～」 講演者：石巻市社会福祉協議会 阿部 由紀氏 ・「震災から復興へ ～共に歩むボランティア～」 報告：東北福祉大学 学生、ボランティア・NPO活動センター 学生スタッフ コーディネーター：松島 泰勝 ボランティア・NPO活動センター長	深草
10月23日（日）	東日本大震災復興支援フォーラム『震災復興に果たす大学の役割』 ・基調講演：「震災復興に果たす石巻専修大学の役割」 講演者：石巻専修大学 学長 坂田 隆氏 ・パネルディスカッション「震災で変わる社会。復興への提言と大学の役割」 司 会：田中 則夫 副学長 パネリスト：鍋島 直樹 教授、伊達 浩憲 教授、筒井のり子 教授、 黒川雅代子 准教授	深草
10月29日（土） ～30日（日）	龍谷祭で瀬田の学生スタッフが『忘れやんとこ！3.11～わたしたちにも出来ることはあるんやで！～』を実施。模擬店では、凍天（東北のお菓子）を販売し、その利益は『石巻復興支援ネットワーク』に寄付【学生スタッフ企画】	瀬田
11月1日（火）	第6回PJ会議開催	深草
	【第5回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会開催	深草
11月2日（水）	【第5回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会開催	瀬田
11月4日（金） ～6日（日）	龍谷祭で深草の学生スタッフが『絆 ～共に考える東日本大震災～』を実施。模擬店では、豆腐ドーナツを販売し、その利益は『石巻復興支援ネットワーク』に寄付【学生スタッフ企画】	深草
11月11日（金） ～14日（月）	第4回東日本大震災復興支援ボランティア （宮城県石巻市雄勝）	

11月20日（日）	第50回おむすびミーティング （京都市主催） 門川京都市長、学生スタッフ、復興支援ボランティアに参加した学生、砂川学区の人々を交えて、地域の防災について話しあう	深草
12月2日（金） ～5日（月）	【第5回】東日本大震災復興支援ボランティア （宮城県石巻市雄勝町、宮城郡七ヶ浜町）	
12月3日（土）	赤松学長、長野総務局長が第5回東日本大震災復興支援ボランティア（七ヶ浜町）の活動を視察	
12月12日（月）	【第4回・5回】復興支援ボランティア活動報告会	深草
12月13日（火）	東日本大震災 復興支援プロジェクト 「石巻市雄勝の物産品販売」	深草
12月14日（水）	東日本大震災 復興支援プロジェクト 「石巻市雄勝の物産品販売」 ※この販売の様子をNHK 大津放送局が夕方のニュースで放映し、翌日に大反響	瀬田
12月15日（木）	東日本大震災 復興支援プロジェクト 「石巻市雄勝の物産品販売」	大宮
12月15日（木）	エフエム滋賀の番組“ハッピー！「平和堂マイデیلیーライフ」”放送	
12月20日（火）	第7回PJ会議開催	深草
2012年 1月10日（火）	学長会に学生ボランティア等の被災支援活動検討プロジェクトチームとして、南三陸町における吹奏楽部演奏会について提案	
1月13日（金）	伏見区役所深草支所が開催する「第9回深草文化交流会」において、東日本大震災復興支援活動に関する展示報告。	深草
1月16日（月） ～20日（金）	伏見消防署の依頼で、京都市役所の玄関ロビーにて東日本大震災復興支援ボランティアの活動の様子と、昨年度龍谷大学と砂川学区自治連合会が「大規模な災害発生時における地域協力に関する協定」を締結したときの様子を展示	深草
2月9日（木）	宮城県で実施した『東日本大震災復興支援ボランティア事業』（第1～第3回）で、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業の第5次助成を受ける	
2月11日（土）	NHK-FMを含む滋賀県内のFM放送局5局同時生放送の特別防災番組 “防災ラジオ滋賀2012” に、第1回復興支援ボランティアに参加した岸本さん、第5回に参加した川上さん、その他県内在住学生として藤村さん、辻本さんが学外の一般参加者と共に生出演	
2月中	南三陸町における吹奏楽部の演奏会の事務局として南三陸町関係者と調整等を実施	
3月4日（日）	宮城県本吉郡南三陸町における龍谷大学吹奏楽部演奏会	
3月9日（金） ～4月2日（月）	東日本大震災復興支援パネル展	深草 瀬田
2012年度		
4月11日（水）	東日本大震災一周忌法要 （顕真館、樹心館）	深草 瀬田
4月18日（水） ～20日（金）	松島センター長、石川次長、竹田コーディネーターが宮城県仙台市、石巻市、南三陸町を訪問し、現地の情報収集と活動の調整を行う	
5月18日（金）	2012年度 第1回PJ会議開催	深草
6月7日（木）	第2回PJ会議開催	深草
6月11日（月） ～7月20日（金）	「東日本大震災 被災地でボランティア活動を行う学生に対する支援金」の実施。被災地でボランティア活動を行う学生に対する支援のため、教職員より支援金を募集	
6月15日（金） ～16日（土）	池田副学長、石川次長が宮城県仙台市、石巻市を視察	
6月28日（木）	復興支援ボランティア活動報告会・説明会 『復興支援活動に龍大生はどう関わったのか？～被災地で活動した先輩から話を聴いてみよう！～』2011年度に龍谷大学生が関わった復興支援活動についての報告と、現在の被災地の状況や活動を実施する際の注意点などのガイダンスを行った	深草
6月29日（金）		瀬田

7月9日(月)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
7月10日(火)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
7月11日(水)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	大宮
7月12日(木)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
7月13日(金)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
7月23日(月)	第3回PJ会議開催	深草
8月13日(月) ～14日(火)	●京都府南部地域豪雨災害 京都府南部周辺地域に夜半から未明にかけて豪雨災害が発生	
8月18日(土)	宇治市災害ボランティアセンター(宇治市社会福祉協議会)を通じてコーディネーターと学生スタッフ3名が豪雨災害復旧支援活動に参加し情報収集	
8月25日(土)	夕照コンサートで東日本大震災復興支援ボランティアの活動報告と物産品販売	瀬田
8月31日(金) ～9月8日(土)	宇治市における豪雨災害復旧支援ボランティア	
9月6日(木)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
9月13日(木) ～16日(日)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
9月25日(火)	第4回PJ会議開催	深草
9月25日(火)	「防災講習 in 深草」 深草の学生スタッフが伏見消防署の協力のもと、龍谷大学生対象の防災講習をキャンパス内で実施。起震車の体験や、学内での災害時対応について考えるワークショップを行った【学生スタッフ企画】	深草
9月28日(金)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア報告会	深草
10月9日(火)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
10月10日(水)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
10月11日(木)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田 大宮
10月12日(金)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
10月13日(土)	「深草ふれあいプラザ」にて深草の学生スタッフが防災をテーマにした人形劇を制作・実演、防災に関するパネルクイズブース出展【学生スタッフ企画】	深草
10月25日(木)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
10月27日(土) ～28日(日)	龍谷祭で瀬田の学生スタッフが東日本大震災復興支援活動の展示とボランティア活動をした学生との懇談会・生トークを実施。また、模擬店で岩手風焼うどんを販売し、利益を『石巻復興支援ネットワーク』に寄付【学生スタッフ企画】	瀬田
11月2日(金) ～4日(日)	龍谷祭で深草の学生スタッフが、模擬店で「はしまき」を販売し、利益を『石巻復興支援ネットワーク』に寄付【学生スタッフ企画】	深草
11月16日(金) ～19日(月)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
11月26日(月)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア報告会	
12月1日(土)	【第2回】東日本大震災復興支援フォーラム 開催 『震災は他人事じゃない！東北沿岸600キロの震災報告～つながり続けるということ～』 講師：大西 暢夫氏	深草
12月11日(火)	第5回PJ会議開催	深草
12月14日(金)	復興支援セミナー『被災地の“今までの復興支援”“これからの復興支援”について語ろう！～復興の最前線にいる人と一緒に～』 講師：阿部由紀氏	深草

2013年 1月12日（土）	伏見区役所深草支所で開催される「第10回深草文化交流会」において、深草の学生スタッフが防災に関するパネル展示と、新聞紙スリッパやトイレトペーパーを使ったマスクなどの簡易防災グッズ作り等を実施【学生スタッフ企画】	深草
2月26日（火）	第6回PJ会議開催	深草
3月11日（月）	東日本大震災犠牲者をしのんで【法要】（顕真館、樹心館）	深草 瀬田
	2013年度東日本大震災復興支援活動についての予定をHPで発表	
2013年度		
4月3日（水） ～5日（金）	筒井センター長、石川次長、竹田コーディネーターが宮城県仙台市、石巻市、南三陸町を訪問し、現地の情報収集と活動の調整を行った	
4月25日（木）	文学部教授会「斯文会」より 東日本大震災復興支援募金へ寄付をいただく	深草
5月9日（木）	2013年度 第1回PJ会議開催	深草
6月24日（月）	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月25日（火）	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
6月27日（木）	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田 大宮
7月11日（木）	第2回PJ会議開催	深草
8月5日（月）	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
8月12日（月） ～16日（金）	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア （宮城県石巻市雄勝町）	
9月2日（月）	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
9月12日（木）	石巻専修大学 山崎ゼミが龍谷大学を訪問、 学生スタッフ、第2回復興支援ボランティア参加者との交流会を開催	深草
9月16日（月）	●平成25年台風18号・初の特別警報発表 9月13日に小笠原諸島近海で発生。日本の広範囲に大雨を降らせ、特に、9月16日に福井県、滋賀県、京都府に記録的な大雨が降り、甚大な被害が出る。	
9月17日（火）	「台風18号による被害へのボランティア対応について」というメッセージを発表	HP
9月17日（火） ～29日（日）	台風18号豪雨災害復旧支援ボランティア 滋賀県大津市・高島市、京都府亀岡市・舞鶴市・福知山市・京都市（伏見区）	
9月27日（金） ～30日（月）	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア （宮城県石巻市雄勝町）	
10月5日（土） ～6日（日）	台風18号豪雨災害復旧支援ボランティア （滋賀県高島市）	
10月7日（月）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
10月8日（火）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
10月9日（水）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
10月10日（木）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	大宮
10月10日（木）	第3回PJ会議開催	
10月10日（木）	【第1・2回】復興支援ボランティア活動報告会	深草
10月11日（金）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
10月26日（土） ～27日（日）	龍谷祭で瀬田の学生スタッフが東日本大震災復興支援ボランティア活動の展示 ※揚げたい焼きを販売し、収益を「石巻復興支援ネットワーク」に寄付【学生スタッフ企画】	瀬田
10月29日（火）	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草

11月2日(土) ～4日(月)	龍谷祭で深草の学生スタッフが東日本大震災復興支援ボランティア活動の展示 ※模擬店で焼きそばを販売し、収益を福島県で活動している「はみんぐbird」に寄付 【学生スタッフ企画】	深草
11月15日(金) ～18日(月)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
11月20日(水)	東日本大震災復興支援フォーラム 事前学習会 「福島状況について」 筒井センター長による学習会	深草
12月3日(火)	【第3回】復興支援ボランティア活動報告会	瀬田
12月5日(金)	ドキュメンタリー映画「ガレキとラジオ」上演会【瀬田】 上映会ならびにエグゼクティブプロデューサー山国秀幸氏の講演会【深草】	深草 瀬田
12月14日(土)	第3回 東日本大震災復興支援フォーラム開催 『福島に生きる、福島を生きる ～詩の礫(つぶて)、それから』 講 師：和合 亮一氏	深草
2014年 1月11日(土)	伏見区役所深草支所が開催する「第11回深草文化交流会」において、深草学生スタッフが復興支援活動のパネル展示と、新聞紙スリッパやレジ袋の三角巾等の簡易防災グッズ作りを実施【学生スタッフ企画】	深草
1月15日(水)	第25回龍谷大学 新春技術講演会 ポスターセッションにて復興支援活動のポスター展示	
1月14日(火) ～24日(金)	伏見区役所深草支所にて復興支援活動パネル展示【学生スタッフ企画】	深草
2月28日(金)	第4回PJ会議開催	深草
3月11日(火)	東日本大震災犠牲者をしのんで【法要】(顕真館、樹心館) 2014年度東日本大震災復興支援活動についての予定をHPで発表	深草 瀬田
2014年度		
4月2日(水) ～4日(金)	筒井センター長、石川次長、竹田コーディネーターが宮城県仙台市、石巻市を訪問し、情報収集と活動の調整	
4月28日(月)	文学部教授会「斯文会」より 東日本大震災復興支援募金へ寄付をいただく	深草
5月2日(金)	2014年度 第1回PJ会議開催	深草
5月31日(土)	東日本大震災犠牲者をしのんで【法要】	大宮
6月16日(月)	【第1・2・3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月17日(火)	【第1・2・3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月18日(水)	【第1・2・3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
6月19日(木)	【第1・2・3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	大宮
6月20日(金)	【第1・2・3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
7月11日(金)	【第1・2・3回】東日本大震災復興支援ボランティア選考通過者発表	
7月17日(木)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア・コアメンバー活動説明会開催	
7月30日(水) ～8月26日(火)	●平成26年8月豪雨 台風12号、11号および前線と暖湿流により日本の広範囲で発生した豪雨。京都府福知山市に大規模な洪水被害をもたらした。兵庫県丹波市や広島県広島市に大規模な土砂災害をもたらした。	
8月4日(月)	第2回PJ会議開催 ボランティアバスの応募状況の報告と、今後の活動について検討	深草
8月5日(火)	第1回東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会開催	深草

8月12日(火) ～16日(土)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
8月19日(火) ～27日(水)	平成26年8月豪雨被害への復興支援ボランティアのための情報提供	
8月26日(火)	福知山市災害ボランティアセンターに石川次長と竹田コーディネーターが視察し、情報収集	
8月30日(土)	夕照コンサートで東日本大震災復興支援ボランティアの活動報告と物産品販売	瀬田
9月2日(火)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会開催	深草
9月5日(金)	石巻専修大学 山崎ゼミが龍谷大学を訪問、学生スタッフや復興支援ボランティア参加者との交流ワークショップを開催	深草
9月26日(金) ～29日(月)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
10月6日(月)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
10月7日(火)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
10月8日(水)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
10月9日(木)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	大宮
10月9日(木)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	
10月10日(金)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
10月11日(土)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
10月22日(水)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア選考通過者発表	
10月25日(土) ～26日(日)	龍谷祭で瀬田の学生スタッフが東日本大震災復興支援ボランティア活動の展示	瀬田
10月28日(火)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
10月31日(金) ～11月2日(日)	龍谷祭で深草の学生スタッフが東日本大震災復興支援ボランティア活動の展示	深草
11月14日(金) ～17日(月)	【第3回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
12月9日(火)	【第3回】復興支援ボランティア活動報告会	瀬田
2015年 1月14日(水)	第26回龍谷大学 新春技術講演会 ポスターセッションにて復興支援活動のポスター展示	
1月15日(木) ～16日(金)	『Oh! ガッツ! 雄勝♪ ～雄勝の今を伝えたい～ V o . 0』開催 【学生スタッフ企画】	深草
2月2日(月)	和顔館・地下2階『光庭』に硯石のスレート設置	深草
2月17日(火)	第3回PJ会議開催	深草
3月11日(水)	2015年度の東日本大震災復興支援活動について予定をHPで発表 東日本大震災追悼法要 (本館、顕真館、樹心館)	深草 瀬田
3月15日(日) ～17日(火)	赤松学長、筒井センター長、竹田コーディネーターが福島県を視察	
2015年度		
4月25日(土)	●ネパール大地震 首都カトマンズの北西約80キロを震源に発生した地震(マグニチュード7.9)	
4月26日(日) ～28日(火)	伊達センター長、平井課長、竹田コーディネーターが宮城県仙台市、石巻市を訪問し、情報収集と活動の調整	

5月15日(金)	2015年度 第1回PJ会議開催	深草
5月18日(月) ～22日(金)	ネパール大地震被災者支援のための募金活動を実施	大宮 深草 瀬田
5月27日(水) ～7月31日(金)	ネパール大地震被災者支援のための募金箱設置とその他募金活動	大宮 深草 瀬田
6月10日(水)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
6月11日(木)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	大宮
6月12日(金)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月15日(月)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月15日(月)	お逮夜法要にて、伊達センター長とネパール人留学生のギシンさんが「ネパール大地震～いま、私たちにできること～」をテーマに講和を行う	深草
7月1日(水)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア選考通過者発表	
7月8日(水)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
7月9日(木)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
8月4日(火)	第2回PJ会議開催	深草
8月5日(水)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
8月5日(水)	ネパール大地震の募金をカトマンズ本願寺に寄付	
8月12日(水) ～16日(日)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
8月29日(土)	夕照コンサートで東日本大震災復興支援ボランティアの活動報告と物産品販売	瀬田
9月28日(月)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	深草
10月1日(木)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
10月9日(金) ～12日(月)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
10月24日(土) ～25日(日)	龍谷祭で瀬田の学生スタッフが東日本大震災復興支援ボランティア活動の展示 【学生スタッフ企画】	瀬田
10月29日(木)	文学部教授会「斯文会」より 東日本大震災復興支援募金へ寄付をいただく	深草
10月30日(金) ～11月2日(月)	龍谷祭で深草の東日本大震災復興支援ボランティア活動の展示※模擬店でフライドポテトを販売し、収益を福島県で活動している「はみんぐbird」に寄付【学生スタッフ企画】	深草
11月12日(木)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	瀬田
12月1日(火)	龍谷大学東日本大震災復興支援ボランティア活動報告書(2011年～2015年)発刊	
12月12日(土)	東日本大震災復興支援フォーラム2015開催 “復興”に寄り添う ～今までの振り返り、明日を考える～ 『被災地の祈りの多様性』 講師：石井 光太氏	深草
2016年 1月13日(水)	第27回龍谷大学 新春技術講演会 ポスターセッションにて復興支援活動のポスター展示	
2月22日(月) ～25日(木)	春季国内体験学習プログラム・福島スタディツアー 「福島の“今”を見、福島を生きる人々の“言葉”を聴き、そして自分を見つめる～」 (福島県福島市、南相馬市、本宮市、郡山市、飯舘村等)	
3月7日(月) ～23日(水)	「oh!ガッツ!雄勝♪ ～雄勝の今を伝えたい」開催 和顔館1階 【学生スタッフ企画】	深草
3月9日(水) ～23日(水)	「oh!ガッツ!雄勝♪ ～雄勝の今を伝えたい」開催 顕真館入口 【学生スタッフ企画】	深草

3月11日(金)	東日本大震災追悼法要 (本館、顕真館、樹心館)	大宮 深草 瀬田
3月25日(金)	龍谷大学東日本大震災復興支援ボランティア活動 Share Book 発刊	
2016年度		
4月7日(木) ～9日(土)	松永センター長、平井課長、竹田コーディネーターが宮城県仙台市、石巻市を訪問し、 現地の情報収集と東日本大震災復興支援V活動の調整	
4月14日(木) ・16日(土)	●平成28年熊本地震発生 熊本地方を震央とする地震。4/14に前震(マグニチュード6.5、最大震度7)、 4/16に本震(マグニチュード7.3、最大震度7)、熊本県益城町で震度7を観測し たほか、九州地方から中部地方の一部にかけて震度6弱～1を観測	
4月19日(火) ～28(木)	平成28年熊本地震に対する募金活動を実施	大宮 深草 瀬田
4月19日(火) ～7月28日(木)	平成28年熊本地震の学内での募金箱設置と、教職員等に向けて募金協力依頼	大宮 深草 瀬田
4月26日(火)	平成28年熊本地震ボランティアガイダンスを実施	瀬田
4月28日(木)	平成28年熊本地震ボランティアガイダンスを実施	深草
4月28日(木)	「平成28年 熊本地震災害のボランティア参加を考えている学生の皆さまへ」メッセージを発信	HP
5月20日(金)	2016年度 第1回PJ会議開催	深草
5月25日(水)	4/19～4/28に学内で取組んだ募金を熊本県庁と大分県庁に寄付	
5月28日(土) ～30日(月)	松永センター長、平井課長、竹田コーディネーターが熊本県熊本市、阿蘇市、益城町、 西原村等を訪問し、情報収集と第2回平成28年熊本地震復興支援ボランティア活動の調整	
6月9日(木)	【第1回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月10日(金)	【第1回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア募集説明会	大宮
6月13日(月)	【第1回】平成38年熊本地震復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月14日(火)	【第1回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
6月16日(木)	東日本大震災復興支援ボランティアの募集説明会	深草 瀬田
6月16日(木)	文学部教授会「斯文会」より 東日本大震災等復興支援募金へ寄付をいただく	深草
6月17日(金)	東日本大震災復興支援ボランティアの募集説明会	大宮
6月20日(月)	東日本大震災復興支援ボランティアの募集説明会	瀬田
6月21日(火)	東日本大震災復興支援ボランティアの募集説明会	深草
6月22日(水)	平成28年熊本地震復興支援ボランティア選考通過者発表	HP
6月27日(月)	平成28年熊本地震参加者説明会	深草
7月5日(火)	東日本大震災復興支援ボランティア選考通過者発表	HP
7月8日(金) ～11日(月)	【第1回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア	
7月14日(木)	東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
7月21日(木)	【第1回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア活動報告会	深草
8月9日(火)	災害ボランティアセンター講座【基礎編】を京都市社会福祉協議会と共催実施	深草
8月12日(金) ～16日(火)	東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	

8月27日(土)	夕照コンサートで平成28年熊本地震と東日本大震災復興支援ボランティアの活動をポスター展示で報告	瀬田
9月20日(火)	第2回PJ会議開催	深草
9月27日(火)	東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	瀬田
10月2日(日)	松永センター長、平井課長が熊本県熊本市、阿蘇市、益城町、西原村等を訪問し、現地の情報収集と第2回平成28年熊本地震復興支援V活動の調整	
10月6日(木)	第3回PJ会議開催(メール審議)	
10月13日(木)	第4回PJ会議開催	深草
10月16日(日)	「大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」を締結	
10月21日(金)	第4回PJ会議開催	
10月27日(木)	【第2回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア募集説明会	大宮
10月28日(金)	【第2回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア募集説明会	深草
10月29日(土)～30日(日)	龍谷祭で瀬田の学生スタッフが平成28年熊本地震・東日本大震災復興支援ボランティア活動を展示【学生スタッフ企画】	瀬田
11月1日(火)	【第2回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
11月2日(水)	【第2回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
11月4日(金)～6日(日)	龍谷祭で深草の学生スタッフが平成28年熊本地震・東日本大震災復興支援ボランティア活動を展示※チャリティー豚汁を販売(収益金は福島のはみんぐBirdと熊本県庁に義捐金として寄付)【学生スタッフ企画】	深草
11月8日(火)	【第2回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア募集説明会	深草
11月14日(月)	【第2回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア選考通過者発表	HP
11月22日(火)	「Oh!ガッツ!!雄勝♪ ～防災意識を高めよう!こんな時、あなたならどうする?～」ワークショップを実施【学生スタッフ企画】	深草
11月25日(金)～28日(月)	【第2回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア	
12月16日(金)	【第2回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア活動報告会	深草
12月17日(土)	「社会連携・社会貢献活動報告会2016」にて平成28年熊本地震復興支援ボランティアの活動報告ポスター展示と、学生スタッフ2名が「防災意識啓発活動 ～震災復興支援活動の経験を活かして～」と題した発表を行う	深草
12月19日(月)	【第2回】平成28年熊本地震復興支援ボランティア活動報告会	瀬田
2017年 1月11日(水)	第28回龍谷大学 新春技術講演会 ポスターセッションにて平成28年熊本地震と東日本大震災復興支援ボランティアの活動報告	
2月10日(金)	第5回PJ会議	深草
2月17日(金)	大津市社会福祉協議会と龍谷大学・龍谷大学短期大学部による「災害ボランティアに関する協定」締結	
3月1日(水)～21日(火)	東日本大震災に関する展示(樹心館)	瀬田
3月3日(金)～17日(金)	東日本大震災に関する展示(和顔館・顕真館、図書館)	深草
3月10日(金)	東日本大震災追悼法要(本館、顕真館、樹心館)	大宮 深草 瀬田
3月12日(日)	「防災・減災そなえパークの日2017」へ参加し、防災と減災についてのブースを出展し、啓発活動を行う【学生スタッフ企画】	瀬田

2017年度		
4月16日(日)～18日(火)	阪口センター長、平井課長、竹田コーディネーターが宮城県仙台市、石巻市を訪問し、情報収集と東日本大震災復興支援ボランティア活動の調整	
5月2日(火)	2017年度 第1回PJ会議開催	深草
6月19日(月)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
6月20日(火)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月22日(木)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	大宮 深草
6月23日(金)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
6月26日(月)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月29日(木)	文学部教授会「斯文会」より 東日本大震災等復興支援募金へ寄付をいただく	深草
7月5日(水)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア選考通過者発表	HP
7月5日(水)～6日(木)	●平成29年7月九州北部豪雨発生 福岡県と大分県を中心とする九州北部で発生した集中豪雨	
7月8日(土)	社会福祉法人京都市社会福祉協議会主催「大学生版 災害ボランティア講座」へ協力 災害ボランティア基礎講座にて、学生スタッフの政策学部4回生 南山 裕紀さんが、災害ボランティアの体験を発表	
7月13日(木)	災害ボランティア講座【実践講座】を京都市社会福祉協議会主催で実施	深草
7月18日(火)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
7月24日(月)	平成29年7月九州北部豪雨災害ボランティア募集 ※大学のまち京都災害に係るパートナーシップ宣言表明校（京都産業大・同志社大・佛教大・立命館大・龍谷大）との連携に基づき、京都市社会福祉協議会が実施する災害ボランティアを募集に協力	
8月9日(水)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
8月12日(土)～16日(水)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
8月26日(土)	夕照コンサートで2017年度【第1回】東日本大震災復興支援ボランティアの活動をポスター展示で報告	瀬田
9月7日(木)～10日(日)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
9月16日(土)	京都府教育委員会主催の「防災キャンプ2017in京都」で政策学部3回生の西山 大樹さん、松坂智彰さんが講師として復興支援ボランティアの経験を報告	深草
10月5日(木)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	深草
10月6日(金)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	深草
10月12日(木)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	瀬田
10月13日(金)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	瀬田
10月28日(土)～29日(日)	龍谷祭で瀬田の学生スタッフが2017年度の東日本大震災復興支援ボランティア活動についてを展示【学生スタッフ企画】	瀬田
11月3日(金)～5日(日)	龍谷祭で深草の学生スタッフが東日本大震災復興支援ボランティア活動について展示 ※オムソバを販売（収益金の一部を福島県で活動中のはみんぐBirdに義捐金として贈る） 【学生スタッフ企画】	深草
2018年 1月9日(火)～19日(金)	東日本大震災復興支援ボランティア活動について展示	瀬田

2月19日(月)	第2回PJ会議開催	瀬田
2月24日(土)～28日(水)	春季国内体験学習プログラム・福島スタディツアー「福島の“今”を見、福島を生きる人々の“言葉”を聴き、そして自分を見つめる～」を実施 (福島県福島市、南相馬市、浪江町等)	
3月8日(木)	東日本大震災追悼法要(顕真館)	大宮 深草
3月9日(金)	東日本大震災追悼法要(樹心館)	瀬田
3月7日(水)～16日(金)	東日本大震災に関する展示(樹心館)	瀬田
3月8日(木)～20日(火)	東日本大震災に関する展示(顕真館)	深草
3月11日(日)	瀬田学生スタッフの企画で「防災・減災そなえパークの日2018」へ参加し、防災と減災についてのブースを出展し、啓発活動を行う【学生スタッフ企画】	瀬田
2018年度		
4月15日(日)～17日(火)	センター長、コーディネーターが宮城県仙台市、石巻市を訪問し、情報収集と東日本大震災復興支援ボランティア活動の調整	
5月7日(月)	2018年度第1回PJ会議開催	
6月18日(月)	●大阪府北部地震発生 大阪北部を震源とする地震(マグニチュード6.1、最大震度6弱) 地震により終日休講が決定し、それに伴い【第1・2回】2018年度 東日本大震災復興支援ボランティア参加者募集説明会を中止とする	
6月19日(火)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月21日(木)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会 大阪北部地震に伴う、災害ボランティアの情報提供と、活動グッズ貸出の開始	大宮 深草 瀬田
6月22日(金)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
6月25日(月)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草 瀬田
6月28日(木)～7月8日(日)	●平成30年7月豪雨 西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で記録された台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨。河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生し、死者、行方不明者が多数となる甚大な災害となった。	
6月29日(金)	文学部教授会「斯文会」より 東日本大震災等復興支援募金へ寄付をいただく	深草
7月10日(火)	平成30年7月豪雨に関するボランティア情報の発信及び、安全に活動するためのレクチャーとグッズの貸出について、HPにメッセージ発信	HP
7月11日(水)	平成30年7月豪雨災害ボランティア募集【主催：京都市災害ボランティアセンター】 ※2016年10月16日(日)に大学のまち京都災害に係るパートナーシップ宣言表明校の連携に基づき、京都市社会福祉協議会が実施する災害ボランティアを募集に協力	深草 瀬田
7月12日(木)	平成30年7月豪雨災害ボランティア募集【主催：天津市災害ボランティアセンター】 ※2017年2月17日(金)に天津市社会福祉協議会と締結した「災害ボランティアに関する協定」に基づき、災害ボランティアの募集に協力	深草 瀬田
7月13日(金)	平成30年7月豪雨災害ボランティアについて、スタッフ会議を開催	深草

	第2回PJ会議開催	深草
	月曜会に平成30年7月豪雨の義捐金活動について上申書を提出	深草
7月17日(火)	平成30年7月豪雨への義捐金活動の取組について、宗教部、学生部、ボランティア・NPO活動センター、学友会中央執行委員長、ボランティア・NPO活動センター学生スタッフ副代表)が集まって協議	深草
	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
7月18日(水)	平成30年7月豪雨災害の義捐金募金活動について学長会に上申書を提出	深草
7月26日(木)	平成30年7月豪雨災害の復興支援ボランティアについて調整の為、岡山県(総社市社会福祉協議会、倉敷市災害ボランティアセンター)へ課長、コーディネーターが訪問	
7月27日(金)	平成30年7月豪雨の復興支援ボランティア実施に向けてスタッフ会議開催	深草
7月19日(木)～27日(金)	平成30年7月豪雨の義捐金活動を実施	大宮 深草 瀬田
7月19(木)～8月6日(月)	平成30年7月豪雨の義捐金活動として募金箱を設置	大宮 深草 瀬田
8月1日(水)	平成30年7月豪雨災害ボランティアの募集を開始	
8月9日(木)～10日(金)	平成30年7月豪雨災害ボランティア(岡山県倉敷市真備町)倉敷市真備町内の災害状況の視察と、倉敷市災害ボランティアセンターのコーディネートで真備町内の個人宅へ流入した泥の撤去作業	
8月12日(日)～16日(木)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア(宮城県石巻市雄勝町)	
8月24日(金)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
9月5日(水)	石巻専修大学・山崎ゼミが来室し、「復興ボランティア学ワークショップ」を開催	深草
9月6日(木)～10日(月)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア(宮城県石巻市雄勝町)	
9月21日(金)	平成30年7月豪雨災害復興支援ボランティア報告会	瀬田
9月28日(金)	平成30年7月豪雨災害復興支援ボランティア報告会	深草
10月1日(月)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	瀬田
10月2日(火)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	深草
10月4日(木)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	瀬田
10月5日(金)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	深草
10月19日(金)	文学部教授会「斯文会」より 東日本大震災等復興支援募金へ寄付をいただく	深草
10月25日(木)	学内で集めた平成30年7月豪雨募金を、京都府共同募金会を通じて寄付	
10月27日(土)～28日(日)	龍谷祭【瀬田】で学生スタッフが2018年度の東日本大震災復興支援ボランティア活動について展示【学生スタッフ企画】	瀬田
11月2日(金)～4日(日)	龍谷祭【深草】で学生スタッフが東日本大震災復興支援ボランティア活動について展示※ベビーカステラを模擬店で販売し、その収益金の一部を「北海道胆振東部地震義捐金」として寄付する【学生スタッフ企画】	深草
2019年 1月15日(火)	私たちからあなたに伝えたい3.11～あの震災を過去で終わらせない～ 第1回 ワークショップ【学生スタッフ企画】	深草
1月18日(金)	私たちからあなたに伝えたい3.11～あの震災を過去で終わらせない～ 第2回 ワークショップ【学生スタッフ企画】	深草
1月17日(木)～29日(火)	私たちからあなたに伝えたい3.11～あの震災を過去で終わらせない～ 展示 【学生スタッフ企画】	深草
2月5日(火)	第3回PJ会議開催	深草

2月19日(火) ～23日(土)	春季国内体験学習プログラム・福島スタディツアー「福島の“今”を見、福島を生きる人々の“言葉”を聴き、そして自分を見つめる～」 (福島県福島市、南相馬市、浪江町等)	
3月6日(水)	東日本大震災追悼法要で復興支援ボランティアの活動報告(樹心館)	瀬田
3月8日(金)	東日本大震災追悼法要で復興支援ボランティアの活動報告(顕真館)	深草
3月5日(火) ～19日(火)	東日本大震災に関する展示(樹心館)	瀬田
3月5日(火) ～19日(火)	東日本大震災に関する展示(顕真館)	深草
3月10日(日)	「防災・減災そなえパークの日 2018」へ参加し、防災と減災についてのブースを出展し、啓発活動を行う【学生スタッフ企画】	瀬田
2019年度		
5月9日(木) ～11日(土)	筒井センター長、平井課長、國實・竹田コーディネーターが宮城県仙台市、石巻市を訪問し、現地の情報収集と東日本大震災復興支援ボランティア活動の調整	
5月20日(月)	2019年度 第1回PJ会議開催	深草
6月24日(月)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
6月25日(火)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	瀬田
6月27日(木)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	大宮 瀬田
6月28日(金)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
7月2日(火)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会	深草
7月11日(木)	文学部教授会「斯文会」より 東日本大震災等復興支援募金へ寄付をいただく	
7月12日(金)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者発表	
7月23日(火)	【第1回】2019年度 東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
8月12日(月) ～16日(金)	【第1回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町、牡鹿郡女川町)	
8月27日(火) ～28日(水)	●令和元年8月の前線に伴う大雨 佐賀県と福岡県、長崎県を中心とする九州北部で発生した集中豪雨による災害	
8月23日(金)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア参加者説明会	深草
8月31日(土)	夕照コンサートで東日本大震災復興支援ボランティアの活動展示	瀬田
9月3日(火)	「令和元年8月から9月に発生した大雨の災害ボランティアを考えている皆さんへ」をHPで発表※台風第10号、第13号、第15号、第17号に関わる水害ボランティアの情報提供 災害ボランティアに必要なグッズを貸出開始	深草 瀬田
9月4日(水)	石巻専修大学・山崎ゼミが来室し、「復興ボランティア学ワークショップ」を開催	深草
9月11日(水) ～14日(土)	【第2回】東日本大震災復興支援ボランティア (宮城県石巻市雄勝町)	
10月1日(火)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	深草
10月3日(木)	【第1・2回】東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会	瀬田
10月12日(土)	●令和元年台風19号 関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらす	
10月15日(火)	「2019(令和元)年 台風被害への災害ボランティアを考えている皆さんへ」をHPで発表 ※台風19号を中心とした水害ボランティアに関する情報提供	

10月23日（水）	京都市災害ボランティアセンターとのパートナーシップ宣言に基づき、「令和元年台風第19号災害 被災地支援ボランティア」（第1回）を緊急募集	
10月25日（金）	第2回PJ会議開催	深草
10月26日（土） ～27日（日）	龍谷祭で瀬田の学生スタッフが2019年度の東日本大震災復興支援ボランティア活動や防災グッズを展示。また、台風19号被災者支援のための募金箱を設置 ※模擬店で販売したフライドオレオの収益を台風19号被災者支援のために寄付【学生スタッフ企画】	瀬田
11月2日（土） ～4日（月）	龍谷祭で深草の学生スタッフが地震や津波、水害時の避難の仕方、東日本大震災復興支援ボランティア、台風19号の被害について、防災グッズ等を展示。また、台風19号被災者支援のための募金箱を設置 ※模擬店で販売した「シューアイス天ぷら」の収益を台風19号被災者支援のために寄付【学生スタッフ企画】	深草
11月5日（火）	京都市災害ボランティアセンターとのパートナーシップ宣言に基づき、「令和元年台風第19号災害 被災地支援ボランティア」（第2回）を緊急募集	
12月4日（水）	令和元年台風19号災害義援金を中央共同募金会に寄付	
2020年 1月17日（金）	第3回PJ会議開催	深草
2月16日（日） ～20日（木）	春季国内体験学習プログラム・福島スタディツアー 「福島の“今”を見、福島を生きる人々の“言葉”を聴き、そして自分を見つめる～」 （福島県福島市、南相馬市、浪江町等） ※活動報告会は2019年度の4月に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染予防のために報告会は無期延期	
3月2日（月） ～3月16日（月）	東日本大震災に関する展示を顕真館と樹心館のロビーにて 本学卒業生でもある志麻克史氏の東日本大震災を語り継ぐために調査した調査報告も展示	深草 瀬田
3月4日（水）	東日本大震災追悼法要（顕真館）	深草
3月6日（金）	東日本大震災追悼法要（樹心館）	瀬田
3月8日（日）	「防災・減災そなえパークの日 2019」へ参加し、防災と減災についてのブースを出展し、啓発活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のためにイベントが中止となる。【学生スタッフ企画】	瀬田
2020年度		
6月22日（月）	2020年度 第1回PJ会議開催 コロナ感染流行予防の観点から2020年度の東日本大震災復興支援ボランティアの中止を決定	
7月3日（金）	●令和2年7月豪雨 7月3日以降に熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨	
7月7日（火）	令和2年7月豪雨に関するお見舞いメッセージと、コロナ禍の状況を考慮した活動指針を発信	

第二部 取組んだ復興支援活動について

1. 2010年度～2015年度までの活動ダイジェスト



この項では、本学で実施した2016年度～2019年度に活動した東日本大震災復興支援ボランティア活動に関するものをまとめています。2011年度～2015年度の活動については、既に報告書として、別冊子にまとめていますので、ダイジェストにまとめたものを掲載しています。

本学では、東日本大震災復興支援ボランティア活動を2011年6月より、宮城県石巻市（2011年度のみ宮城郡七ヶ浜町でも活動）で継続して活動してきました。活動調整は、毎年、年度当初にセンター長とセンター職員が宮城県石巻市に赴き、地元の人達のニーズをヒアリングした上で、プログラムの企画・立案・運営を行っています。

緊急度の高い活動が終了してからは、「見る・聴く・感じる」をテーマに、「復興支援活動」と「防災教育」を盛り込んだプログラム構成に変化させています。毎回、夜に全員で振り返りを行い、学生ひとり一人の気づきや思いを言語化して共有する時間を作っています。

一見、毎年同じように見えますが、このプログラムの中身は少しずつ変化しています。地元のニーズと地域の状況変化に合わせてプログラムを作っているからです。

2015年度からは福島へのスタディツアーも開始しています。このスタディツアーは、今までの復興支援ボランティアとは違い、「学び」に重点を置いたものとなっています。

この10年間に「平成28年熊本地震」、「大阪府北部地震」、「平成30年7月豪雨」等、大きな災害がいくつも発災しました。本学では、これらのボランティアニーズへも臨機応変に対応（※トピックス「その他の災害での活動」を参照）しつつ、東日本大震災復興支援ボランティア活動を途切れさせることなく継続してきました。しかし、2020年は新型コロナウイルス感染予防のため、石巻市と福島での活動を断念せざるをえない状況となり、非常に残念でなりません。2021年2月に開催する「東日本復興支援フォーラム」をオンラインで実施するように、新しいボランティアスタイルを模索しながら、つなかりを途切れさせることがないように、活動が止まらないように努力し続けます。

最後に、東日本大震災復興支援ボランティア活動は、保護者や教職員、文学部斯文会、校友会、親和会など、たくさんの大学関係者から寄せられた寄付によって支えられてきました。

本学の東日本大震災復興支援活動は、学生をはじめとする、多くの龍大関係者も一丸となった「チーム龍大」として取り組んできたことをご報告させていただきます。

それでは次ページから、活動の詳細を紹介させていただきます。

2011年度～2015年度の活動

2011年度～2015年度の東日本大震災復興支援活動については、本報告書にはダイジェストのみ掲載しています。活動年表や活動概略に掲載されている通り、2011年度～2015年度の間、龍谷大学では様々な東日本大震災復興支援活動を実施いたしました。ページの関係上、この期間の活動詳細につきましては、2015年に発刊いたしました「龍谷大学 東日本大震災復興ボランティア活動報告書(2011年～2015年)」にまとめておりますので、併せてご覧いただければ幸いです。

◆ 2010年・2011年度

東日本大震災直後から活動を開始しました。学内で活動するものとしては、募金活動やボランティアガイダンス、学内での東北の物産品販売などに取り組み、学外で活動するものとしては、宮城県石巻市に赴いて復興支援活動を行うボランティアバスの運行を行いました。“震災に向き合う場”として、活動報告会や東日本大震災復興支援フォーラム等を開催し、学内での啓発活動にも取り組みました。

■ 東北地方太平洋沖地震復興支援 募金活動 ■

実施日	2011年3月17日(木)～4月2日(土)
参加人数	深草：のべ103人、瀬田：のべ77人 合計のべ180人 ※上記は判明している人数。個別に活動し、募金に協力した人数は不明

教職員に対しては本学総務課を通じて募金活動を展開し、学生に対しては、ボランティア・NPO活動センター（以下センター）の学生スタッフを中心に、学友会等の学生団体と協力して、学校行事時や学外で募金への協力を呼びかけました。また、多くの学生が、ゼミやサークル単位などで募金活動を実施し、センターに募金を届けてくれました。その結果、2011年4月20日現在で総務課とセンターと合わせて、総額16,784,659円の義捐金が集まり、協議の結果、中央共同募金会に全額寄付を行いました。

■ 東日本大震災 復興支援ボランティアガイダンス ■

日時／場所	2011年4月25日(月) 17:30～19:00／1号館107教室(瀬田) 2011年4月26日(火) 17:30～19:00／3号館201教室(深草)
参加人数	深草：約160人、瀬田：約60人 合計220人
講師	社会学部 筒井のり子教授、政策学部 深尾昌峰准教授

発災以降、たくさんの学生からボランティアに関する問合せがセンターに寄せられました。しかし、被災地は多くの困難を抱えた状況が続いており、学生の想いだけで被災地に赴いても、かえって被災地に負担や迷惑をかけてしまうことも予測されるため、瀬田・深草のキャンパスで、被災地の状況報告やボランティア活動をする際の心構えボランティア保険などについて説明し、安全に活動するためのガイダンスをゴールデンウィーク前に開催しました。

■ 東日本大震災 復興支援ボランティア報告会&ミーティング ■

日時／場所	2011年5月19日（木）17：30～19：00／21号館401教室（深草） 2011年5月26日（木）17：30～19：00／3号館104教室（瀬田）
参加人数	深草キャンパス：20人 瀬田キャンパス：32人 合計52人
深 草	伊達 浩憲 教授（経済学部現代経済学科） 5月初旬に岩手県陸前高田市の＜北限の茶＞気仙茶の復興支援可能性調査で被災地入りした時の報告と、同行の学生のボランティア活動報告 黒川 雅代子 准教授（短期大学部社会福祉学科） 4月末から5月初旬に日本赤十字社兵庫県支部の心のケアチームに同行し、岩手県立山田高等学校にある避難所で活動を行ったことについて報告
瀬 田	山田 容 准教授（社会学部臨床福祉学科） 5月1日～5月5日に福島県福島市、郡山市、相馬市を中心に避難所での物資配布、子ども支援のプログラムなどのボランティア活動等について報告

実際に被災地で自らの専門性を活かしたボランティアを行った教員から体験談を聴く機会を設け、学生や教職員とその体験を共有し、「私たちが被災者・被災地に向けて何ができるのか？」「息の長い支援」とは何なのかを一緒に考える機会を創りました。

■ 東日本大震災 復興支援プロジェクト 福島県の物産品販売 ■

実施日／場所	2011年6月1日（水）～3日（金）10：00～13：30 東門 ウッドデッキ（深草） 2011年6月6日（月）～8日（水）10：30～14：00 野外ステージ前テント下（瀬田）
参加人数	のべボランティア人数 合計120人（深草60人／瀬田60人）

『関西で出来る復興支援ボランティア』として、学内で1時間から参加できる販売ボランティアを募集し、NPO法人JIPPOと協力し、風評被害に苦しむ福島県の物産品販売を学内で実施しました。購入者数は741人、売上額は¥752,738円でした。

■ 東日本大震災 復興支援ボランティア活動 ■

実施日／場所	【第1回】6／24（金）～6／27（月）3泊4日 宮城県石巻市 【第2回】7／2（土）～7／5（火）3泊4日 宮城県石巻市、宮城郡七ヶ浜町 【第3回】8／4（木）～8／10（水）5泊7日 宮城県石巻市、宮城郡七ヶ浜町 【第4回】11／11（金）～11／14（月）3泊4日 宮城県石巻市 【第5回】12／2（金）～12／5（月）3泊4日 宮城県石巻市、宮城郡七ヶ浜町
参加人数	【第1回】学生：19人、引率：2人、取材：1人（広報室） 合計22人 【第2回】学生：19人、教職員3人、引率：2人 合計24人 【第3回】学生：24人、教職員5人、引率：4人 合計33人 【第4回】学生：25人、教職員1人、引率：2人 合計28人 【第5回】学生：23人、教職員1人、引率：2人、視察：2人 合計28人

活動場所の選定にあたっては、西本願寺が宮城県仙台市に東北教区災害ボランティアセンターが立ち上がっていることと、現地調査の結果を加味して、宮城県石巻市を主な活動先として、5回のボランティアバス運行計画を立てました。活動先のコーディネートについては、石巻市災害ボランティアセンター、七ヶ浜災害ボランティアセンターに依頼しました。

主な活動は、側溝清掃、流入物の撤去作業、雄勝石のスレート磨き等を行いました。

■ 活動報告会 ■

実施日／場所	【第1・2回】2011年7月15日（金）17：30～19：30 21号館501教室（深草） 【第3回】2011年9月29日（木）17：30～19：00 3号館102教室（深草） 【第4・5回】2011年12月12日（月）17：45～19：00 3号館102教室（深草）
参加人数	【第1・2回】約60人、第3回 約45人、第4・5回 約60人

活動後は、学内で報告会を開催し、体験を共有することに努めました。学生、教職員が参加し、質問もたくさん出て、報告者・参加者ともにとても熱心でした。また、被災地の光景にショックを受けた学生へのケアとして、参加者のみを集めた茶話会等も実施しました。

■ 東日本大震災 復興支援フォーラム 「震災復興に果たす大学の役割」 ■

実施日／場所	2011年6月1日（水）～3日（金）10：00～13：30 東門 ウッドデッキ（深草） 2011年6月6日（月）～8日（水）10：30～14：00 野外ステージ前テント下（瀬田）
参加人数	のべボランティア人数 合計120人（深草60人／瀬田60人）

このフォーラムでは、震災復興に大学がどのような役割を果たすことができるのかについて、様々な視点・立場の方々に参集いただき、2日間にわたって、復興のために何ができるのかについて考える機会を設けました。

●10月22日（土）

◇「震災から復興をめざす宮城県石巻市 ～学生ボランティアに期待すること～」

講師：石巻市社会福祉協議会 阿部 由紀氏

◇「震災から復興へ～共に歩むボランティア～」

発表：①東北福祉大学学生の石原 尚生さん

②ボランティア・NPO 活動センターの学生スタッフ 池内 亮太さんと歌藤 智弥さん

●10月23日（日）

◇「震災復興に果たす石巻専修大学の役割」

基調講演：石巻専修大学 学長 坂田 隆氏

◇「震災で変わる社会。復興支援への提言と大学の役割」（パネルディスカッション）

司会：田中 則夫副学長

パネリスト：鍋島 直樹教授（文学部）、伊達 浩憲教授（経済学部）、

筒井 のり子教授（社会学部）、黒川 雅代子准教授（短期大学部）

■ 東日本大震災 復興支援プロジェクト おがつ店こ屋街がやってくる！～雄勝物産品販売～ ■

実施日／場所	2011年12月13日（火）東門 ウッドデッキ（深草） 2011年12月14日（水）野外ステージ前 テント下（瀬田） 2011年12月15日（木）清和館2階談話室（大宮） ※いずれも販売時間は11：30～13：30 ※12／16～20に深草で臨時販売も実施
参加人数	のべボランティア人数 合計63人（深草28人／瀬田25人／大宮10人）

関西でもできる復興支援ボランティア第2弾として、第4・5回の復興支援ボランティアでご縁のあった石巻市雄勝の物産品販売を3キャンパスで実施しました。

■ 龍谷大学吹奏楽部コンサート in 南三陸町 ■

実施日／場所	実施日：2012年3月4日（日）13：30～15：30 移動行程：2012年3月3日（土）～3月5日（月） 場 所：南三陸町立 志津川中学校体育館
参加人数	来場者 約200人、吹奏楽部 88人

龍谷大学学術文化局吹奏楽部の代表から「吹奏楽部として被災地の皆さんを元気づけるために南三陸町でコンサートを開催したい」という相談を受け、学生ボランティア等の被災者・被災地支援活動検討プロジェクトチームの会議と部局長会が審議した結果、吹奏楽部の実績（全日本吹奏楽コンクールで金賞を8回受賞するなど、人気・実力ともに関西を代表する全国屈指の学生バンドとして活躍）などから、龍谷大学が行う復興支援活動の一環として開催することが了承され、大学の事業として実施しました。

コンサート終了後は、地元中学の吹奏楽部員と楽器のセッションや模範演奏などを行い、楽器を通じた交流を行いました。

◆ 2012年度

この年度は、「被災地でボランティア活動をしたいと希望する学生に対する支援金」に取り組み、教職員の有志が東日本大震災の復興支援活動に取り組む学生を応援するための仕組みを作り、活動に取り組みやすい環境作りを行いました。

■ 東日本大震災 被災地でボランティア活動を行う学生に対する支援金 ■

実施日／場所	2012年6月11日（月）～7月20日（金） 大宮・深草・瀬田キャンパス 【事務局：ボランティア・NPO活動センター】
参加人数／団体	教職員給与天引き：77人、その他窓口での募金、校友会、親和会、文学部斯文会等

被災地でボランティア活動を行う学生・教職員を支援することを通して支援の輪に加わっていただきたいと「東日本大震災 被災地でボランティア活動を行う学生に対する支援金」を実施しました。総合計 **¥4,542,623円**（2013年3月末現在）集まりました。その後も定期的にご協力してくださる個人・団体の皆様に支えていただいています。

■ 復興支援活動に龍大生はどう関わったのか？～被災地で活動した先輩から話を聴いてみよう！～ ■

実施日／場所	2012年6月28日（木）17：30～19：00／3号館101教室（深草）2012年6月29日（金）17：30～19：30／3号館107教室（瀬田）
参加人数／団体	約60人（深草）、約60人（瀬田） 合計約120人
発表者	・足立 ころさん（大学院経済学研究科） 発災直後から1年間の公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンで活動 ・高橋 亮太さん（経済学部4回生）・鹽井 勁さん（国際文化学部2回生） 大学が実施したボランティアバスで活動

これから活動したいと考える学生に向けて、活動を行った学生が「どのような体験をしたか」「何を思ったか」「どんな出会いがあったか」などについて経験を共有する機会を作りました。

■ 第1・2回 東日本大震災 復興支援ボランティア ■

実施日／場所	【第1回】2012年9月13日（木）～16日（日）3泊4日 宮城県石巻市 【第2回】2012年11月16日（金）～11月19日（月）3泊4日 宮城県石巻市
参加人数	【第1回】学生30人、引率3人 合計33人 【第2回】学生30人、引率5人 合計35人

被災地域の状況が少し落ち着き、緊急的な活動がなくなったこともあり、主な活動として、地場産業振興のために雄勝石のスレート磨きや仮設商店街「おがつ店こ屋街」の1周年記念イベントにブース出店を行いました。また、「見る・聴く・感じる」をテーマに震災を学び、地域の人達と交流するプログラムも実施しました。

■ 活動報告会 ■

実施日／場所	【第1回】2012年9月28日（金）17：30～19：00 21号館101教室（深草） 【第2回】2012年11月26日（月）17：30～19：00 3号館106教室（瀬田）
参加人数	【第1回】約80人、第2回：約70人

ボランティアバスの参加者の他に、ゼミ等で復興支援活動を実施した学生にも参加を呼びかけ、活動報告会を行いました。報告会終了後には、参加者のみを集めた茶話会を実施し、活動時の写真などを見ながら、帰京後の心境の変化などについて、語り合う機会を設けました。

■ 東日本大震災 復興支援フォーラム ■

「震災は他人事（ひとごと）じゃない！東北沿岸600キロの震災報告」～つながり続けるということ～

実施日／場所	2012年12月1日（土）13：30～16：30 22号館101教室（深草） ※写真展：12月1日（土）10：00～17：00 22号館107教室（深草）
参加人数	フォーラム、写真展共に約200人

震災から1年以上経ち、震災に関する報道が減り、被災地への関心が低くなってきている現状を少しでも変えるために、被災地域を幅広く取材されている写真家の大西暢夫氏を講師として迎え、発災直後から現在までに取材した被災地の状況をお話していただき、震災の被害について再認識し、被災地に関心を持ち続ける機会にするためにこのフォーラムを企画しました。

★同日に22号館107教室にて、大西暢夫写真展も同時開催。

■ 被災地の“今までの復興支援”、“これからの復興支援”について語ろう！ ■

～復興支援ボランティアの最前線にいる人と一緒に！～

実施日／場所	2012年12月14日（金）17：20～19：30 22号館107教室（深草）
参加人数	学生30人

石巻市社会福祉協議会 災害復興対策課の阿部由紀氏を講師に、“今までの復興支援”と“これからの復興支援”について考えるワークショップを開催しました。

前半は、避難所運営や全国・世界中から駆け付けたボランティアとの協働の際、どのような判断を迫られながら行動したのか、何を大切にしながら毎日を過ごしていたかについて語っていただき、後

半は『人を好きになるには?』をテーマにワークショップを行いました。復興支援だけでなく、広く『対人援助とは?』『ボランティアとは?』について原点から考えるワークショップでした。

◆2013年度

この年度は、学生の被災地でボランティア活動を希望する声の高まりを受けて、ボランティアバスの運行の回数を昨年度2回から3回に増やすとともに、活動内容も、地元の人達との交流や震災を学べるように変更しました。また、東日本大震災について広く関心を持てるように意識した事業を実施しました。

■第1・2・3回 東日本大震災 復興支援ボランティア■

実施日／場所	【第1回】2013年8月12日(月)～16日(金) 4泊5日 宮城県石巻市 【第2回】2013年9月27日(金)～30日(月) 4泊5日 宮城県石巻市 【第3回】2013年11月15日(金)～18日(月) 3泊4日 宮城県石巻市
参加人数	【第1回】学生：30人、引率2人 合計32人 【第2回】学生：31人、引率3人 合計34人 【第3回】学生：31人、引率4人 合計35人

第1回目は、お盆に実施される『雄勝湾灯籠流し』、第2回目は石巻市雄勝地区のスポレクまつり、第3回目は『おがつ店こ屋街2周年記念祭』へのサポートを中心に活動しました。

各回、参加学生が地元の方達や復興支援に関わっている方から直接、話を聴く機会を設け、一見しただけではわからない『震災』を感じ、『自分は何が出来るのか』を考え、『参加学生も復興の当事者である』ことを自覚できるようなることを目的にプログラムを組み立てました。

■第1・2・3回 東日本大震災 復興支援ボランティア報告会■

実施日／場所	【第1・2回】2013年10月10日(木) 17:30～19:00 21号館101教室(深草) 【第3回】2013年12月3日(火) 17:30～19:00 3号館105教室(瀬田)
参加人数	【第1・2回】約50人、第3回 約40人

第1回、第2回は、合同の活動報告会を深草キャンパスで開催し、第3回は瀬田キャンパスで開催しました。コーディネーターが概要を説明した後、参加学生が体験や感想を参加者に被災地でどのような活動を行い、どのような出会いがあったのか、何を見て、聞いて、感じてきたのかを報告しました。

報告会終了後は、活動に参加した学生のみを集めた交流会も実施しました。

■東日本大震災 復興支援フォーラム■

『福島に生きる、福島を生きる ～詩の礫(つぶて)、それから～』

実施日／場所	2013年12月14日(土) 13:30～16:30 22号館101教室(深草)
実施主体／運営	龍谷大学／ボランティア・NPO活動センター
参加人数	220人(学生、本学関係者、一般参加者含む)

震災直後に福島県の特産品販売を学内で開催したりしていましたが、福島県の現状についてお話を聴く機会はなかなかありませんでした。そこで、今回は福島県に焦点を当てたフォーラムを企画しました。発災6日目からツイッターを通して福島被害を発信してきた詩人の和合亮一氏を講師として迎え、大盛況でした。

◆2014年度

この年度から、正式にボランティアバスの複数回参加を認めることになりました（それまではキャンセルなどが出た場合等に限定）。このことにより、より活動に厚みが出たように感じています。今までに参加した学生達が連絡を取り合っており、お世話になった地域の方を訪問したり、卒業後も後輩を激励するために、活動時期に合わせて石巻市まで訪ねてきてくれるようにもなりました。

また、新たな取り組みとして、震災を風化させないという想いを込めて「震災を語り継ぐモニュメント」として、雄勝石のスレートが新校舎・和顔館の光庭に設置されました。

■第1・2・3回 東日本大震災 復興支援ボランティア■

実施日／場所	【第1回】2014年8月12日（火）～16日（土）4泊5日 宮城県石巻市雄勝 【第2回】2014年9月26日（金）～29日（月）3泊4日 宮城県石巻市 【第3回】2014年11月14日（金）～17日（月）3泊4日 宮城県石巻市
参加人数	【第1回】合計32人（学生30人／引率2人） 【第2回】合計34人（学生30人／引率4人） 【第3回】合計33人（学生30人／引率3人）

地元の方と相談した結果、第1回目は、お盆に実施される「雄勝湾灯籠流し」、第2回目は石巻市雄勝地区のスボレクまつり、第3回目は「おがつ店こ屋街3周年記念ホタテまつり」のサポートを中心に活動しました。

各回とも、参加学生が地元の方達や復興支援に関わっている方から直接話を聴く機会を設け、「震災」について学び、その上で活動を行い、「自分には何が出来るのか」を考えてもらえるようにプログラム設計を行いました。

■第1・2・3回 東日本大震災 復興支援ボランティア報告会■

実施日／場所	【第1・2回】2014年10月9日（木）17：30～19：00 21号館101教室（深草） 【第3回】2014年12月9日（火）17：30～19：00 3号館105教室（瀬田）
参加人数	【第1・2回】約90名、第3回： 約50名

第1回、第2回は、合同の活動報告会を深草キャンパスで実施し、第3回は瀬田キャンパスで開催しました。

報告会では、コーディネーターが活動概要を説明した後、参加学生が被災地でどのような活動を行い、どのような出会いがあったのか、何を見て、聞いて、感じてきたのかを報告しました。

報告会終了後、活動に参加した学生のみを集めた交流会を実施しました。

■ 震災を語り継ぐモニュメントの設置 ■

2011年11月より、約600年前から続く硯石の産地である宮城県石巻市雄勝地域とのご縁を頂き、ボランティア活動を継続的に実施しています。主な活動の一つは、地場産業の復興支援として、硯石のスレートを一枚一枚洗浄することでした。参加した学生・教職員が協力しあい、「チーム龍大」として取り組み、2万枚以上を洗浄しました。

和顔館・光庭に敷かれている硯石のスレートは、「チーム龍大」が洗浄し、地元の職人が加工したものです。この一枚一枚の硯石のスレートを通して、雄勝での復興支援ボランティア活動を後世に伝え、被災者・被災地に想いを馳せることを念じ、名盤を設置しました。

◆ 2015年度

2015年度は、地元の皆さんとのスケジュール調整の結果、2回のボランティアバス運行となりました。3回から2回実施へと運行回数は減りましたが、東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会は過去最高の参加者になり、学生の関心はまだまだ高いと感じています。また、国内外で頻発する自然災害に対しても、関心を持って行動を起こす学生も増えてきました。

■ 第1・2回 東日本大震災 復興支援ボランティア ■

実施日／場所	【第1回】2015年8月12日（水）～16日（日）4泊5日 宮城県石巻市雄勝 【第2回】2015年11月14日（土）～17日（火）3泊4日 宮城県石巻市
参加人数	【第1回】学生30人、引率2名 合計32人 【第2回】学生30人、引率3人 合計33人

地元の方と相談した結果、第1回目は、お盆に実施される「雄勝湾灯籠流し」雄勝ローズファクトリーガーデンの整備、第2回目は「おがつ店こ屋街4周年記念ホタテまつり」のサポートを中心に活動しました。

各回とも、参加学生が地元の方達や復興支援に関わっている方から直接話を聴く機会を設け、「震災」について学んだ上で活動を行い、「自分には何が出来るのか」を考えてもらえるようにプログラム設計を行いました。

■ 第1・2回 東日本大震災 復興支援ボランティア報告会 ■

実施日／場所	【第1回】2015年9月28日（月）17：30～19：00 21号館401教室（深草） 【第2回】2015年11月12日（木）18：00～19：30 3号館102教室（瀬田）
参加人数	【第1回】約50人、【第2回】約70人

報告会では、コーディネーターが活動概要を説明した後、参加した学生が「参加して考えたこと」「雄勝に対する想い」「活動終了後、雄勝を伝えるために行った行動について」「今後、やろうと思っていることなど」について報告しました。

■ 東日本復興支援フォーラム2015 “復興”に寄り添う ～今までをふりかえり、明日を考える～ ■

実施日／場所	2015年12月12日（土） 13：30～17：00 和顔館B201（深草）
参加人数	約200人（学生、本学関係者、一般参加者含む）

このフォーラムでは、今までの活動を総括すると共に、これからも東日本大震災の被害に関心を持ち続けるために、発災直後と、現在の被災地の状況を踏まえながら、これからについて考えることを目的として開催しました。

①学生からの復興支援活動の報告

報告者：藤原 恵太（学生スタッフ・深草副代表、文学部3年生）が、今までの大学として復興支援の取り組みについて説明。

②基調講演 石井 光太氏（ノンフィクション作家、小説家） テーマ：被災地の祈りの多様性

③パネルディスカッション テーマ：“復興”に寄り添う ～今までをふりかえり、明日を考える～

○パネラー ・坂田 隆 氏（石巻専修大学 学長）

・高橋 頼雄 氏（雄勝硯石生産販売協同組合 部長）

・赤松 徹眞（龍谷大学 学長）

・白土 奈央（学生スタッフ・深草代表、法学部3年生）

○コーディネーター 伊達 浩憲（ボランティア・NPO活動センター長）



硯石のスレートを運び出しているところ（2012年9月）



製作した灯笼を海辺に運んでいるところ（2015年8月）

2016年度 活動報告



実施日／場所	2016年8月12日（金）～8月16日（火） 4泊5日 宮城県石巻市
参加人数	学生30人、引率2人 合計32人

4月初に、松永センター長と平井課長、竹田コーディネーターが石巻市を訪ね、関係者に活動ニーズについてヒアリングを行い、16年度の活動方針をまとめました。

年度当初は2回石巻市で活動する予定でしたが、4月の平成28年熊本地震が発災し、緊急度の高い熊本でも復興支援活動を行うこととなったため、今年度の石巻市での活動は、8月実施予定の「雄勝湾灯籠流し」を中心とした活動のみとしました。

●主な活動スケジュール

- ・ 8/12 (金) 移動
- ・ 8/13 (土)

午前：語り部ボランティアの方の案内で石巻市市街地域の視察

午後：（一社）雄勝花物語共同代表の徳水氏による防災教育を受講。座学では「津波の成り立ち」「避難の仕方」等について学び、体験では、大川小学校にて献花台にお参りした後、学校周辺の視察、雄勝小学校の子ども達が避難した経路の一部を実際に歩きました。地元の雄勝硯生産販売協同組合の高橋氏から、震災時についてお話いただく。

- ・ 8 / 14 (日)

全日：雄勝湾灯籠流し

地域の方に教わりながら、灯籠の制作を行い、灯籠の運搬を行いました。浜供養の後、地域の方と協力して灯籠を船に運び、海上に灯籠を流しました。灯籠流し終了後は、地元の方たちがバーベキューを準備してくださり、地元の取人達と一緒に供養花火を楽しみながら、夕食をいただきました。

- ・ 8 / 15 (月)

午前：全勝旅館の青木夫妻から震災時の話を
聴く

灯籠流しの後片付け

午後：雄勝ローズファクトリーガーデンの整備活動

夜：帰路につく（夜行）

- ・ 8 / 16 (火)

京都駅、深草キャンパスに到着し、解散

●天候：全日程を通して、晴天



灯籠を船に運んでいるところ

ボランティア活動に参加した学生の声

- ・現地で出会った地元の人が「龍谷大学また来てくれたんだね」と声をかけてくださった。これまでの先輩からの活動が、今回の自分たちの活動につながっているのだと感じ、嬉しかった。
- ・現地の人々は辛く大変な経験をされたが、尊い命を無駄にせず、風化させてはならないということを、この震災から学び、自分たちに被災体験を話してくださった。自分も、今回の活動を通じて学んだこと、感じたことを、周囲に伝えていきたいと思う。
- ・報道などで知っているつもりでいたが、実際に現地に行かないと分からないことがたくさんあった。ぜひ現地にも足を運んで、自分の目で見て、現地の方のお話を聞いてほしい。

★東日本大震災復興支援ボランティアに参加するための必須事項

- ①参加者募集説明会への参加
- ②書類選考（応募者が定員を超えているため）
- ③参加者説明会（事前学習も含む）への参加
- ④書類（参加申込書、活動誓約書・保証人同意書）の提出
- ⑤参加費（2万円）
- ⑥活動後アンケートへの協力

大石部長がこれまでの東日本大震災復興支援活動と今回の活動について報告した後、活動に参加した学生が、写真を見せながら活動中のエピソードなどを紹介したり、活動を通じて学んだことを「大学生×復興支援＝〇〇」といった形でキーワード（「繋ぎ、結ぶ。これからも雄勝と…」など）にまとめて、それをテーマに思いを語りました。

会場では、今回とこれまでの東日本大震災復興支援活動についてのパネル展示も行いました。

- ・ 現地の人々は辛く大変な経験をされたが、尊い命を無駄にせず、風化させてはならないということを、この震災から学び、自分たちに被災体験を話して下さった。自分も、今回の活動を通じて学んだこと、感じたことを、周囲に伝えて行きたいと思う。
- ・ 現地で出会った地元の人が「龍谷大学また来てくれたんだね」と声をかけて下さった。これまでの先輩からの活動が、今回の自分たちの活動につながっているのだと感じ、嬉しかった。

[illegible]

1. 経緯・目的

東北で見て聞いて感じたことを私たちの言葉で伝える活動が続ける中で、東日本大震災への関心の低下や東北で起きていることに対して「自分ごと」の意識を持って関心を持ち考えてもらうことの難しさを感じることが多々あった。そこで、「雄勝で出会った人たちが震災の記憶を伝えてくれるのはなぜか」と改めて問い

龍谷大学 東日本大震災復興支援ボランティア活動報告書

2. 概要

①「防災クロスロード」の実施

災害時には「究極の状態での選択」を迫られる。そこで、そのときに迫られる「選択」について様々な場面ごとにYESかNOかに分かれて考え、話し合った。

★防災クロスロードについて専門的な知識を持っておられる政策学部の石原凌河先生にアドバイスをいただき、当日もゲストとして、ワークショップにも参加していただいた。

②これまで作成してきた模造紙や、復興支援に関する書籍等の展示。

※予備調査として、学内で学生140名に防災意識についての聞き取りアンケートを実施した。

3. 学んだこと・今後の課題

(1)学んだこと

今回のワークショップを通して、私たち自身も大きな学びを得ることが出来た。これまで私たちは東日本大震災で起きたこと、雄勝の今を伝えるということにこだわってきたが、「なぜ伝えることが重要であるのか」ということをもう一度考え直すことが出来た。いつでも私たちが「支援者」であるとは限らない。そして、私たちが出会ってきた雄勝の人たち、東北の人たちもいつまでも「被災者」というわけではない。大切なことは、被災された方々とともに考え、悩むこと、忘れないこと。そして、災害は私たちにも起こりうることであり、いつ自分が当事者になるかわからないという意識を持つことが大切だということを学んだ。だからこそ私たちは東日本大震災のことを忘れずに関心を持ち続け、東日本大震災で起こったことを教訓として学ばなければならないのだと考える。

(2)今後の課題

今回のワークショップを通して、改めて伝えていくことの大切さを実感した。私たちも先輩方から「復興支援」というバトンを受け継いできたように、今度は私たちがこのバトンの後輩たちに繋いでいかなければならない。私たちが卒業した後も、ずっと復興支援ボランティアは必要とされる限り続いていってほしいと考える。また、それに参加するだけでなく、災害について主体的に考え行動していってほしい。東日本大震災に関心を持ち続けること、繋がり続けること、防災に対して自分ごとの意識を持つことの大切さを伝え抜けていくことを今後の課題として、設定したい。



ワークショップの様子

ワークショップに参加した学生の声

- ・ いざというときのためにしっかり準備することが大切だと気づいた。
- ・ 普段の生活では考えることのないことを考えることができた。
- ・ 災害に対する備えはあるつもりだったけれど、いざ考えると難しかった。
- ・ 防災バッグを準備したい。
- ・ 継続してこのような企画を実施してほしい。



ワークショップの様子

2017年度 活動報告

■ 2017年度 第1回 東日本大震災復興支援ボランティア ■

実施日／場所	2017年8月12日（土）～8月16日（水） 4泊5日 宮城県石巻市雄勝町
参加人数	学生30人、引率2人 合計32人

第1回復興支援ボランティアのメインの活動は、「雄勝湾灯籠流し」の実施・運営のお手伝いでした。最終日には、雄勝ローズファクトリーガーデン（以下ガーデン）で挑戦している「北限のオリーブ」のオリーブ園の整備作業のお手伝いも行いました。

また、震災を学ぶために、防災教育を受講し、地元住民からも震災当時のお話を伺いました。



灯籠作りの様子

●主な活動スケジュール

- ・8/12（土） 移動
- ・8/13（日）

午前：（一社）雄勝花物語共同代表の徳水氏による防災教育を受講。座学では「津波の成り立ち」「避難の仕方」等について学び、体験では、大川小学校にて献花台にお参りした後、学校周辺の視察、雄勝小学校の子ども達が避難した経路の一部を実際に歩きました。

午後：地元の方から灯籠作りを教わりながらの作業
夕食後、地元住民の高橋氏から現在の雄勝の状況などについてお話を聴く

- ・8/14（月）

全日：雄勝湾灯籠流しに関する作業

- ・灯籠の制作、
- ・出来上がった灯籠を海辺に運搬
- ・供養花火の準備のための草刈り
- ・浜供養への参列
- ・灯籠を地元の皆さんとリレー形式で船に運び、海上に灯籠を流す

灯籠流し終了後は、地元の方たちが準備してくれたバーベキューをみなさんと一緒に供養花火を楽しみながらいただく。

- ・8/15（火）

午前：・流した灯籠の回収と後片付け

- ・ふりかえりを行った後、地元住民の神山氏と高橋氏から発災当日のお話を伺う。

午後：雄勝ローズファクトリーガーデンの整備
夜：帰路につく（夜行）

- ・8/16（水）

京都駅、深草キャンパスに到着し、解散

- 天候：8/13曇り、8/14、15霧雨のような雨時々曇り

ボランティア活動に参加した学生の声

- ・作業をしながら地元の人たちとお話ができる機会がありました。自分の家が津波によって飲み込まれていくところを高台から見ていたこと、病院の屋上へ逃げようとしていたところを一段低いところに居た80代くらいのおじいちゃんを見つけ、手を引いて屋上へ一緒に避難したこと、当時小学校低学年の子供を持つお父さんは自分の子どもに自分たちの家が飲み込まれていくところを見せたくないがために子どもの目を隠したといった話を聞きました。まるで自分がこの震災を経験したかのように心が痛みました。私たちはたとえ大きな支援をできなかったとしても、忘れないことだけで終わらず、今回のボランティアで学んだことを他の人にも伝え、雄勝のことに関心を持ってもらえる人を1人でも増やしたいと思っています。これが私のこれからの目標です。最後に、将来もっともっと継続して積極的に雄勝に足を運んでみたいと思います。

★東日本大震災復興支援ボランティアに参加するための必須事項

- ①参加者募集説明会への参加
- ②書類選考（応募者が定員を超えているため）
- ③参加者説明会（事前学習も含む）への参加
- ④書類（参加申込書、活動誓約書・保証人同意書）の提出
- ⑤参加費（2万円）
- ⑥活動後アンケートへの協力

実施日／場所	2017年9月7（木）～10日（日） 3泊4日 宮城県石巻市雄勝町
参加人数	学生30人、引率2人 合計32人

第2回復興支援ボランティアのメインの活動は、4月に開校した「雄勝小・中学併設校」が同年9月に移転して初開催となる同校の運動会と以前より参加していた「おがつスポレクまつり」が初コラボして実施された「大運動会」の実施・運営のお手伝いでした。運動会終了後には、雄勝支所の方や地元の方から震災直後の頃のお話なども聞かせていただきました。

他にも第1回の活動同様、雄勝ローズファクトリーガーデンのオリーブ園の整備作業や防災教育を受講しました。活動の終了後はふりかえりの時間も設けて、気づきを共有するようにしています。



運動会・愛の献血リレー

●主な活動スケジュール

- ・ 9 / 7 (木) 移動
- ・ 9 / 8 (金)

午前：（一社）雄勝花物語共同代表の徳水氏による防災教育を受講。座学では「津波の成り立ち」「避難の仕方」等について学び、体験では、大川小学校にて献花台にお参りした後、学校周辺の視察を行いました。

午後：・防災教育の続きで雄勝小学校の子ども達が避難した経路の一部を実際に歩く。

- ・雄勝ローズファクトリーガーデンの整備

- 9 / 9 (土)

午前・午後：運動会へのサポートと協議への参加

午後：雄勝支所の阿部所長のお話

地元住民の高橋氏のお話

夜：帰路につく（夜行）

- ・ 9 / 10 (目)

京都駅、深草キャンパスに到着し、解散

●天候：活動中を通して晴天

ボランティア活動に参加した学生の声

- ・今回2回目の参加で去年はなかった建物が建っていたり、防潮堤を作るためのトラックがたくさんいたりして、町が1年でこんなに変わるんだなと思いました。「知る」ということを学びました。
- ・震災から7年が経つ今も、龍谷大学と雄勝がつながり続けていることをとても誇りに思いました。スポレクであるおじいさんとお話をさせていただいたとき、「こうしてつながり続けることが何よりも嬉しい。龍谷大学の学生さんとは、これからずっとつながり続けたい」とおっしゃっていました。雄勝の方からこうおっしゃっていただけるのは、先輩がバトンをつないできた証拠であり、後輩にも受け継いでいくことがボランティアに参加した学生の役割だと思いました。

★東日本大震災復興支援ボランティアに参加するための必須事項

- ①参加者募集説明会への参加
- ②書類選考（応募者が定員を超えているため）
- ③参加者説明会（事前学習も含む）への参加
- ④書類（参加申込書、活動誓約書・保証人同意書）の提出
- ⑤参加費（2万円）
- ⑥活動後アンケートへの協力

【第1回】	2017年10月 5 日 (木) 12:25~13:00	和顔館B106教室 (深草)
	2017年10月12日 (木) 12:45~13:20	3号館206教室 (瀬田)
【第2回】	2017年10月 6 日 (金) 12:25~13:00	和顔館B106教室 (深草)
	2017年10月13日 (金) 12:45~13:20	3号館206教室 (瀬田)
学生、教職員のべ190人		

報告会に参加した学生の声

★報告会の流れは以下の通り

-

龍谷大学 東日本大震災復興支援ボランティア活動報告書

2018年度 活動報告

■ 2018年度 第1回 東日本大震災復興支援ボランティア ■

実施日／場所	2018年8月12日（日）～8月16日（木） 4泊5日 宮城県石巻市雄勝町
参加人数	学生30人、引率2人 合計32人

第1回復興支援ボランティアの活動は、昨年と同様の「雄勝湾灯籠流し」の実施・運営のお手伝いでした。最終日には、雄勝ローズファクトリーガーデン（以下ガーデン）で挑戦している「北限のオリーブ」のオリーブ園の整備作業のお手伝いも行いました。

また、震災を学ぶために、防災教育を受講し、地元住民からも震災当時のお話を伺いました。

今年度の活動では、全国的に災害級と言われるほどの猛暑が続き、例年は比較的涼しい雄勝町でも、海風が通らず、非常に暑い中での活動となりました。



灯籠作りの様子

●主な活動スケジュール

- ・8/12（日） 移動
- ・8/13（月）

午前：（一社）雄勝花物語共同代表の徳水氏による防災教育を受講。座学では「津波の成り立ち」「避難の仕方」等について学び、体験では、大川小学校にて献花台にお参りした後、学校周辺の視察

午後：雄勝硯生産販売協同組合の工房で、地元の方から灯籠作りを教わりながら作業

- ・8/14（火）

全日：雄勝湾灯籠流しに関する作業

- ・灯籠の制作
 - ・出来上がった灯籠を海辺に運搬
 - ・浜供養への参列
 - ・灯籠を地元の皆さんとリレー形式で船に運び、海上に灯籠を流す。
- 灯籠流し終了後は、地元の方たちが

準備してくれたバーベキューをみなさんと一緒にいただく。

- ・8/15（水）

午前：・流した灯籠の回収と後片付け

- ・ふりかえりを行った後、地元住民の神山氏と高橋氏から発災当日のお話を伺う。

午後：・雄勝小学校跡地に向かい、子ども達が避難した経路の一部を歩いて体験

- ・雄勝ローズファクトリーガーデンの整備

夜：帰路につく（夜行）

- ・8/16（木）

京都駅、深草キャンパスに到着し、解散

- 天候：全日程晴天。酷暑

ボランティア活動に参加した学生の声

- ・「復興支援」という言葉がどういったことを意味するのか疑問を持ち続けたままでの参加でしたが、瓦礫の撤去作業などのような物理的な作業だけではなく、地元の方と話すことや、その地域に元からあった行事と一緒に作っていくことなど、人を通して地域を盛り上げていくことも復興の一部なのだと今回の参加を通して強く実感しました。実際に体を動かす作業だけでなく、防災教育や地元の方からお話を聞く時間、津波の高さを体験するなど、学びの要素を含んだボランティアという点が非常に良かったです。
- ・私は初めてボランティア活動をしました。自分が知らなかった現実や知識が沢山あったことや、間違った情報を自分が受け入れていたことに驚いた。防災に対する新たな知識を得ることができました。決して避けられない南海トラフ大地震に関して、自分がどうすべきなのか見つめ直すのと同時に他の人にも伝えていきたいです。

★東日本大震災復興支援ボランティアに参加するための必須事項

- ①参加者募集説明会への参加
- ②書類選考（応募者が定員を超えているため）
- ③参加者説明会（事前学習も含む）への参加
- ④書類（参加申込書、活動誓約書・保証人同意書）の提出
- ⑤参加費（2万円）
- ⑥活動後アンケートへの協力

■ 2018年度 第2回 東日本大震災復興支援ボランティア ■

実施日／場所	2018年9月6日（木）～10日（月） 4泊5日 宮城県石巻市雄勝町
参加人数	学生28人、引率2人 合計30人 ※学生は30人参加の予定だったが、関西を直撃した台風被害のため、急きょ2人が参加出来なかった。

第2回復興支援ボランティアのメインの活動は、「雄勝小・中学併設校の大運動会」の準備と当日の運営を補助する活動でした。運動会終了後には、雄勝支所の及川課長のお話を聴かせていただき、翌日には、地元の高橋氏から震災直後の頃のお話を伺いました。

他にも第1回の活動同様の内容で、防災教育を受講しました。大川小学校では、大川伝承の会の佐藤氏に出会い、ご厚意で話を聴かせていただくことも出来ました。

雄勝ローズファクトリーガーデン（以下ガーデン）では、ガーデン内の整備として、通路にレンガを敷く作業や、翌週開催されるツール・ド・東北を彩る花のプランターの手入れを行いました。

活動の終了後はふりかえりの時間も設けて、気づきを共有するようにしています。



運動会・玉入れ

●主な活動スケジュール

- ・9／6（木） 移動
- ・9／7（金）

午前：（一社）雄勝花物語共同代表の徳水氏による防災教育を受講。座学では「津波の成り立ち」「避難の仕方」等について学び、体験では、大川小学校にて献花台にお参りした後、学校周辺の視察を行いました

午後：・防災教育の続きで雄勝小学校の子ども達が避難した経路の一部を実際に歩く

・雄勝ローズファクトリーガーデンの整備

- ・9／8（土）
午前・午後：運動会へのサポートと競技への参加

午後：雄勝支所の及川課長のお話

- ・9／9（日）
午前：地元住民の高橋氏からお話を聴く
午後：雄勝ローズファクトリーガーデンの整備

夜：帰路につく（夜行）

- ・9／10（月）
京都駅、深草キャンパスに到着し、解散

- 天候：9／7雨時々曇り、9／8運動会の最中のみ晴れ
(前後、小雨交じりの曇り)、9／9雨

ボランティア活動に参加した学生の声

・私は今回実家愛媛の大雨でのことや1人で震災を経験したことがあり、自分事と思って参加をしました。初めて、実際に娘さんを亡くした方のお話を聞きました。本当に言葉にはできないけど心の中では様々な感情が湧いてきました。東北に来るとどうしても空気が違って感じます。けどその様々な感情も空気も私にはかけがいのない学びになったと思います。初めて自信を持つことができたボランティアであり龍谷大学に来て良かったと心の底から思いました。

★東日本大震災復興支援ボランティアに参加するための必須事項

- ①参加者募集説明会への参加
- ②書類選考（応募者が定員を超えているため）
- ③参加者説明会（事前学習も含む）への参加
- ④書類（参加申込書、活動誓約書・保証人同意書）の提出
- ⑤参加費（2万円）
- ⑥活動後アンケートへの協力

実施日／場所	【第1回】 2018年10月1日（月） 12：45～13：20 6号館プレゼンテーション室（瀬田） 2018年10月2日（火） 12：25～13：00 和顔館 B106教室（深草） 【第2回】 2018年10月4日（木） 12：45～13：20 6号館プレゼンテーション室（瀬田） 2018年10月5日（金） 12：45～13：20 和顔館 B106教室（深草）
参加人数	学生、教職員のべ100人

2018年度の第1回【8月12日（日）～8月16日（木）に実施】、第2回【9月6日（木）～10（月）に実施】の東日本大震災復興支援ボランティア報告会を深草、瀬田の両キャンパスで開催しました。

★報告会の流れは以下の通り

- ①報告を聴きにきた参加者に、5～6人程度のグループに分かれて座ってもらう。
- ②活動の詳細をまとめた資料を配布。
- ③各回とも全員で活動の様子をまとめたショートムービーを上映
- ④活動に参加した学生(2～3人)が各グループ入り、参加者に活動内容や活動中に感じたことなどを報告。

報告会を聴きに来る学生の参加しやすさを考慮し、昼休みに開催しました。その効果もあり、参加者は増えましたが、活動詳細や参加学生の想いを十分に伝えるための時間が足りなかったように感じました。報告会は東日本大震災への興味関心を広げるためには大変重要な機会であるため、報告会のあり方を工夫することが必要だと考えました。

報告会に参加した学生の声

- ・瓦礫の撤去作業のような物理的な作業だけではなく、地元の方と話すことや、その地域に昔からあった行事を一緒につくっていくことなど、人を通して地域を盛り上げていくことも復興の一部なのだと今回の報告をとおして強く実感した。



報告会の様子（深草）

日 時	<ワークショップ> 第1回：2019年1月15日（火）17：00～18：45 第2回：2019年1月18日（金）17：00～18：45 <展 示> 2019年1月17日（木）～1月29日（火） 出入自由
場 所	<ワークショップ> 深草キャンパス和顔館 第1回 B-106／第2回 B-203 <展 示> 和顔館1階ギャラリー
参加人数	<ワークショップ> 第1回6人、第2回41人

1. 経緯・目的

東日本大震災復興支援ボランティアボランティアに参加後、周りの人に見て聞いて感じたことを伝えようとしたがなかなか伝わらず、東日本大震災への関心が薄れていることを痛感し、東北で見て聞いたことを伝えていく必要性

を強く感じた。

また今年度は、大阪北部地震や平成30年7月豪雨が発生するなど、ますます命を守る1人1人の防災対策が必要不可欠となってきている。自然災害への関心は高まっているが、実際に行動に移せている人は少ない。このような状況を

ふまえ、私たちは東日本大震災について見つめなおし、その教訓を活かす事が、未来の私たちを守ることに繋がると考えた。そこで、本企画では「雄勝町の現状・過去を伝える」「防災について行動するきっかけを作る」ということを目的に展示とワークショップを行った。

2. 概要

・「ワークショップ」の実施

①「東日本大震災の発災当初何をしていたか」「大阪北部地震の発災当初何をしていたか」というテーマで、グループごとに話し合う。

②「防災クロスロード」を実施

③学生スタッフのボランティア体験談を聞く

・「展示」の実施

東日本復興支援ボランティアに参加する中で想ったり考えたりしたことを写真と共に展示。写真は雄勝町の発災前後の様子や特産品、ボランティア活動中の写真を使用。



ワークショップで活動経験を語っている様子

3. 参加者の声

「ワークショップ」

- ・時間が経って、東日本大震災の被害を忘れていたし、同じ国で起こったことなのにどこか

他人事のように感じてしまっていた。しかし、今回の企画で再確認することができた。

- ・ボランティア体験談を通して学生の心の変化が、生の声で語られていたのが良かった。また発表内容が簡潔でわかりやすく、聞く側への配慮もあり、ダイレクトに心に伝わった。
- ・ハザードマップの確認や、防災グッズの準備や災害時における家族との連絡手段の確認をしたいと思った。

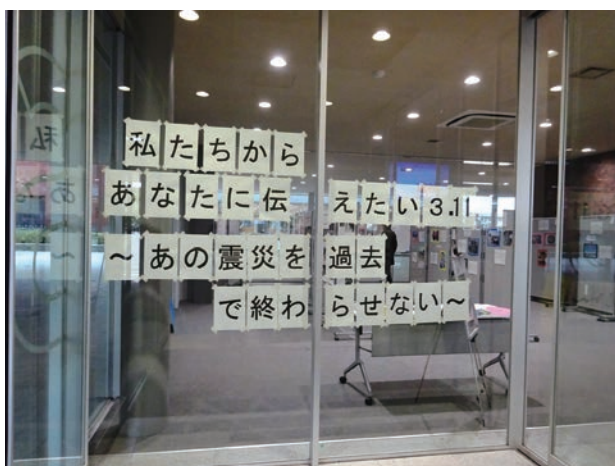
「展示」

- ・ワークショップは1人のボランティア体験談しか聞けないが、展示では学生スタッフ1人1人の想いや考えを知ることができて良かった。
- ・風化させないためにもこのような活動が継続されることが大切だと思った。

4. 学んだこと・今後の課題

「東日本大震災復興支援ボランティア」の体験談や自分たちの防災感について話し合う中で、様々な価値観に触れ、考え方を共有することができた。そのため、以前より多面的な見方で「震災・防災」について考えることができるようになった。また、「様々な立場の方」への配慮について改めて考えることもでき、自分達自身が「防災」について見つめなおし、防災意識を高めることができた。

今後の課題として、メンバーではない学生スタッフに「震災・防災」への関心を促す必要性を強く感じている。今回の企画で終わらず、引き続き東日本大震災に関するイベントを紹介するなど、ボランティア体験談を語り合う機会を設け、メンバー以外の学生スタッフが主体的に「震災・防災」について考えていくよう促していきたい。



2019年度 活動報告

■ 2019年度 第1回 東日本大震災復興支援ボランティア ■

実施日／場所	2019年8月12日（月）～8月16日（金） 4泊5日 宮城県石巻市雄勝町
参加人数	学生30人、引率2人 合計32人

第1回復興支援ボランティアのメインの活動は、昨年と同様「雄勝湾灯籠流し」の実施・運営の手伝いでした。地元の方に教わりながら約1000基を作製しましたが、台風10号の影響で灯籠流しは延期となってしまいました。しかし今年は、雄勝中央団地自治会の皆さんが、移転後初の納涼祭を開催することになり、納涼祭のお手伝い兼参加者として、地元の皆さんと交流させていただくことが出来ました。

今年度は、昨年度と同様の防災教育の他、最近行っていなかった石巻市街地の見学も復活させ、復興状況の異なる女川町でも視察するなど、さらに防災教育を充実させることに取り組みました。

活動の終了後は、必ずふりかえりの時間を設け、それぞれの気づきや学びを共有する時間を作りました。



テントを建てているところ

●主な活動スケジュール

- ・8/12（月） 移動
- ・8/13（火）

午前：公益社団法人3.11みらいサポートのスタッフの案内で石巻市街地内を見学
大川伝承の会の鈴木氏の案内で大川小学校を見学

午後：雄勝硯生産販売協同組合の工房前で灯籠作り
女川フューチャーセンターでふりかえり

- ・8/14（水）

全日：雄勝湾灯籠流しに関する作業

- ・灯籠の制作
- ・出来上がった灯籠を海辺に運搬
- ・浜供養への参列
- ・灯籠流しの中止が決定
- ・雄勝中央団地自治会の納涼祭に参加

- ・8/15（木）

午前：納涼祭の後片づけ

（一社）雄勝花物語の防災教育を受講
女川町内をガイドさんの案内で視察
ふりかえり

夜：帰路につく（夜行）

- ・8/16（木）

京都駅、深草キャンパスに到着し、解散

- 天候：8/12～8/14雨時々曇り。
8/15晴天

ボランティア活動に参加した学生の声

私は震災の怖さと、大切な人に想いを思った時にすぐ伝える大切さを学びました。参加する前はテレビで、「10mの津波が来た」「ビル3階分の高さ」とかを言われても全く予想がつかなかったです。しかし実際に見てみると予想以上に高く、これが目の前まで来た恐怖なんて計り知れないものだと感じました。電信柱などにも津波到達点と書かれてあり、町に今でも残る傷跡のようなものを感じました。

また、徳水さんのお話の中で垂直避難という言葉を知り、ただ海から遠くに逃げるのは意味がないということを知った時は本当に衝撃的でしたし、これから実際に自分の身に津波が来ると分かった時には、次に自分の起こすべき行動を学びました。

★東日本大震災復興支援ボランティアに参加するための必須事項

- ①参加者募集説明会への参加
- ②書類選考（応募者が定員を超えているため）
- ③参加者説明会（事前学習も含む）への参加
- ④書類（参加申込書、活動誓約書・保証人同意書）の提出
- ⑤参加費（2万円）
- ⑥活動後アンケートへの協力

第2回復興支援ボランティアのメインの活動は、雄勝小中学校併設校で開催される「祖父母交流会」への参加でした。この祖父母交流会では、「OGATSU COMPANY」（雄勝小学校の「総合的な学習」の活動から生まれた「自分を元気に、みんなを元気に、まちを元気に」をテーマとする仮想会社）の“ほってえ皿づくり”を地域の皆さん、子ども達と一緒に行いました。給食交流会や午後からの授業（ほってえ皿作りの振り返り）にも参加しました。休憩時間には、グラウンドで小学生の子ども達と思いっきり外遊びを行いました。

●主な活動スケジュール

- も達が避難した経路の一部を実際に歩く。
- ・雄勝ローズファクトリーガーデンの整備
 - ・大川伝承の会の佐藤氏に大川小学校を案内していただく
- ・ 9 / 13 (金)
- 午前：・女川町のシーパルピアを車窓見学。
- ・雄勝小学校で祖父母交流会に参加
 - ・子ども達と一緒にふりかえり
 - ・学生だけで全体のふりかえり
 - ・雄勝病院跡地の慰霊公園に建立された慰霊碑「祈りの塔」に訪問
- 夜：帰路につく(夜行)
- ・ 9 / 14 (土)
- 京都駅、深草キャンパスに到着し、解散

ボランティア活動に参加した学生の声

★東日本大震災復興支援ボランティアに参加するための必須事項

- 龍谷大学 東日本大震災復興支援ボランティア活動報告書 59



■ 2019年度 東日本大震災復興支援ボランティア報告会 ■

実施日／場所	10月1日（火）17：30～19：00 和顔館1階 アクティビティホール（深草） 10月3日（木）17：30～19：00 6号館プレゼンテーション室（瀬田）
参加人数	学生、教職員のべ90人

2019年度の第1回【8月12日（月）～8月16日（金）に実施】、第2回【9月11日（水）～14（土）に実施】の東日本大震災復興支援ボランティア報告会を深草、瀬田の両キャンパスで開催しました。

★報告会の流れは以下の通り

- ①竹田コーディネーターよりこれまでの復興支援活動や雄勝町について説明
- ②第1回（8月の活動）の活動についての報告（ムービーの上映）
- ③第1回に参加した学生からの報告
- ④石原副センター長からのお話（引率教員）
- ⑤第2回（9月の活動）の活動についての報告（ムービーの上映）
- ⑥第2回に参加した学生からの報告
- ⑦筒井センター長からのお話（引率教員）
- ⑧質疑応答の時間

昨年度は、学生の参加のしやすさを考慮し、昼休み開催を行っていましたが、時間がどうしても足りなかったため、夕方の開催に変更しました。参加者は若干減少しましたが、第1回と2回に参加した学生が同じ場所に行っても違う経験をしていることを聴き合うことが出来ました。また、学外や教職員の参加もあり、来場者から話してもらう時間も取れたので、より充実した告会になりました。



報告会の様子（深草）

報告会に参加した学生の声

- ・今回、実際に被災地に行って、話を聴いて、いろいろ見た。「今、若者の自殺とか問題になっているけど、今回、石巻でたくさん話を聴いて、知って、生きよう！生きないとダメだ！」と強く思いました。
- ・ボランティア終了後、家族とハザードマップを確認して防災について話し合いました。
- ・教員を目指しているが、学校は教育をする場所であるが、それよりもまず、子どもの命を守る場所でないといけない。子どもの命を守る学校を作りたいし、子どもの命を守る教員になりたいと思いました。

3. 福島スタディツアーについて

～福島“今”を見、福島の人々の“言葉”を聴き、そして“自分”を見つめる～

このスタディツアーでは、福島県の中通りから浜通り地域を実際に訪ねています。実際に福島風景と空気を感じながら、多様な立場の人たちと出会い、それぞれの人たちから語られる「福島」に触れ、そこで語られた言葉を学生が受け止め、悩み、考える機会として、筒井のり子センター長（社会学部教授）の発案で15年度より始まりました。

「～福島“今”を見、福島の人々の“言葉”を聴き、そして“自分”を見つめる～」というテーマからブレないように配慮しながらも、毎年、その中身を少しずつ変えて実施しています。

★福島スタディツアーで訪れた主な訪問先リスト

訪問先	訪問年度	団体紹介
NPO法人 うつくしまランチ (福島市)	2015年度～ 2019年度	すべての垣根を越え、元気で楽しい「何か」に出会える「ふくしま」のまちを創造し、活性化させていくために住民・行政・クリエイターが個人や企業の垣根を越え、さらに知恵を出し合いながら、イベントなどを実施しているNPO法人です。2015年から、東日本大震災の現実を伝え、鎮魂と再生の祈りを込め、伝承していく新しい表現のありかを探る「未来の祀り」の立ち上げに関わり、関連イベントの開催にも尽力しています。
阿部農園 (福島市)	2015年度～ 2019年度	福島市内の梨農家を営み、福島第一原子力発電所の事故による放射能の除染モデル事業で畑の表土を5cm剥がし、山砂と入れ替える作業や除染のための粗皮(そひ)削り作業を行った農園。この農園では、国の基準値よりも、より厳しい検査※)を行って商品を出荷しています。出荷の際には測定結果表を同封し、消費者が納得できる商品を送り出しています。 ※検出限界が1ベクレル/kgという測定器で測定。(国内の多くの食品の測定で使われているのは検出限界10ベクレル/kgの測定器)なお、国内の一般食品の放射性物質(セシウム)の基準値は100ベクレル/kg。
はみんぐBird (郡山市)	2015年度～ 2017年度	東日本大震災から2年目の2013年に福島で結成されたサークルで、震災後の子育て中の不安な気持ちやモヤモヤを安心して語り合う場「てとと会」を開催しています。ここでは、避難から福島へ戻ってきたママも、福島でずっと暮らしているママもすべての小さな声に耳を傾け語り合うことを大切にしています。この会以外にも、リラックスやリフレッシュできるようなワークショップなども開催
社会福祉法人 南相馬市社会福祉 協議会 (南相馬市)	2015年度～ 2019年度	従来の社会福祉協議会の業務の他に、震災時には、災害ボランティアセンターを立ち上げ、全国からのボランティアの受付とボランティアのコーディネート業務を行いました。また、震災以降、避難生活を送る人々の生活を支えるための生活支援員の育成を行い、仮設住宅巡回訪問をはじめ、多彩できめ細やかな活動を続けています。2019年の台風19号では、南相馬市に大きな被害が出たことを受け、災害ボランティアセンターを立ち上げ、全国からのボランティアの受け入れと住民のニーズのマッチングも行いました。
特定非営利活動法人 さぼーとセンター びあ、 デイさぼーと ぴーなっつ (南相馬市)	2015年度～ 2019年度	南相馬市の障がい者(児)とその家族及び高齢者、子ども達に対して、安心して当たり前の生活ができるために、必要な事業を行い、地域社会の発展に寄与することを目的設立された団体。「断らない」を合言葉に障がい者の生活介護、就労支援事業に取り組んでいます。 福島第一原子力発電所の建屋が爆発し、20キロ圏内には避難命令、その外側も避難準備地域(屋内避難)に指定され、病院も障がい者・高齢者の入所施設も全て閉鎖されて福祉サービスが全面ストップされた後も、障がい者・高齢者を抱えた世帯が避難しようにも避難が出来ずに残っていたため、南相馬市に残って支援を続けていました。
株式会社 小高ワークス ベース (南相馬市)	2017年度～ 2019年度	南相馬市小高区は、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により5年4か月もの間、居住が許されない避難指示区域となりました。その小高区で「地域の100の課題から100のビジネスを創出する」をミッションとして掲げて起業された株式会社。現在は、地域に雇用を生み出すために「ハンドメイドガラス事業」や「コミュニティ創出事業」を行っています。詳しくは、 http://owb.jp/ をご覧ください。

★その他

2015年度～2016年度	①浪江町から避難された方の暮らす恵向公園応急仮設住宅
2015年度	②飯舘村の地元住民に避難前の住宅を案内していただく
2016年度	③川俣町内を地元住民に案内していただく
2016年度～2019年度	④南相馬市内の史跡や震災関連施設等(観光ボランティアに案内していただく)
2017年度～2019年度	⑤浪江町内を地元住民の方に案内していただく
2017年度～2019年度	⑥南相馬市内の農家民泊いちばん星
2018、2019年度	⑦南相馬市小高区で活動している高齢者サロンへ
2019年度	⑧南相馬市在住の市民の方からお話をいただく
2019年度	⑨双葉郡の情報を住民目線から発信する双葉郡インフォメーションセンターふたばいんふお
2019年度	⑩東京電力「廃炉資料館」

★福島スタディツアーに参加するための必須事項

- ①参加者募集説明会への参加 ②書類選考（応募者が定員を超えた場合）
③参加者説明会（事前学習も含む）への参加
④書類（参加申込書、活動誓約書・保証人同意書）の提出
⑤参加費（2万円・食事、宿泊、保険代等） ⑥報告会への参加

■ 2015年度 ■

実施日／場所	2016年2月22日（月）～25日（木） 3泊4日 福島市・南相馬市・飯館村・本宮市・郡山市
参加人数	学生15人、引率3人（赤松学長、筒井センター長、竹田CD） 合計18人

●スケジュール

○2/22（月）

京都を8時に出発し、19時に福島市に到着。夕食後、NPO法人うつくしまランチの皆さんから、震災前の福島の様子や震災後、情報不足のなか、情報を行き渡らせるために多言語化したニュースペーパーを発行したお話等、多様な視点からのお話を伺う。

○2/23（火）

- ・阿部農園（福島市）を訪問
梨畑を見学しながら、震災後、どのようにして家業である梨農園を守り、安全な食べ物を提供するために努力してきたのかを伺う。
- ・飯館村を訪問
震災の影響で住めなくなった村内にある家を家主に案内していただく。
- ・南相馬市社会福祉協議会を訪問
震災直後の様子や現在の取組などについてお話を伺い、南相馬市内を案内していただく。
- ・ふりかえり
夜に情報過多になっている状態を整理するために、全員で車座になりながら、一日をふりかえり語り合いました。

○2/24（水）

- ・デイさぼーと ピーなっつ（南相馬市）の青田氏より現在の取組、避難の視点などについてお話を伺う。
- ・原発災害の被災地を南北に貫く幹線道路である国道6号線（自動車での通行のみ可能）を南下。
- ・本宮市にある浪江町から避難されている恵向公園応急仮設住宅の皆さんの茶話会に参加していただく。茶話会では、ラジオ体操第3を学生が披露し、住民と一緒にラジオ体操を行いました。京都から持参したお茶とお菓子をいただきながら、グループに分かれてお話。帰るときには、手を取り合って別れを惜しみました。



京都から持参したお茶とお菓子でほっこりタイム

- ・ふりかえり
夜に、昨日に引き続き、全員で車座になりながら、一日をふりかえり語り合いました。
- 2/25（木）
- ・子育て中のママさんサークル「はみんぐ Bird」の活動に参加し、ママたちの想いを聴かせていただく。
- ・ふりかえり
京都に向けたバスの中で、この4日間を総括したふりかえりを行いました。
- ・19:30 京都駅にて解散。

参加した学生の声

今回このプログラムに参加して、「言葉の難しさ」と「福島のことを知っているふりをしていた」という2つが印象に残った。「言葉の難しさ」では「頑張れ」や「忘れない」など何気なく使っていた言葉が人を傷つけていたかもしれないことに気づき、これからは自分の言葉に責任をもって発言していきたいと思った。「福島のことを知っているふりをしていた」では、何度か復興支援ボランティアに参加していたりしたことで震災を知っていると慢心している自分に気づいた。このプログラムで現地の人から直接話を聞いたことで、改めて、震災が未だに尾を引いており、風評被害に苦しんでいる人がまだまだいることを知ることができた。知っているふりや関心を持っている状態だけでとめないように、これからは謙虚に、学び続けていきたいと思った。

■ 2016年度 ■

実施日／場所	2017年2月24日（金）～28日（火） 4泊5日 福島市、川俣村、飯舘村、南相馬市、本宮市、郡山市
参加人数	学生15人、引率3人（赤松学長、筒井センター長、竹田CD） 合計18人

●スケジュール

○2／24（金）

京都を8時に出発し、18時半に福島市に到着。夕食後、NPO法人うつくしまランチの皆さんから、震災前の福島の様子や震災直後の様子、うつくしまランチの活動についてお話を伺いました。

○2／25（土）

・阿部農園を訪問

梨畑を見学しながら、震災後、どのようにして家業である梨農園を守り、安全な食べ物を提供するために努力してきたのかを伺いました。

・川俣町を訪問【飯舘村は車窓から見学】

川俣町の住民から避難前に実際に住んでいた家の付近を案内していただく。除染した土の入ったフレコンバックなどを移動の途中で目にしました。

・南相馬市社会福祉協議会を訪問

いわき市在住の本学の卒業生震災直後の様子や現在の取組などについてお話を聞いた後、南相馬市社会福祉協議会の方から、震災直後の南相馬市内の様子や現状の課題について伺いました。

・ふりかえり

夜に情報過多になっている状態を整理するために、全員で車座になりながら、感じたことなどを語り合いました。

○2／26（日）

・南相馬市内の見学

南相馬観光協会の観光ボランティアガイドの案内で、大悲山の石仏など、歴史豊かな南相馬の文化に触れるとともに、震災の爪痕が色濃く残る小高区沿岸地域を視察しました。

・デイさぼーと・ぴーなっつの青田氏より

現在の取組、障害者や高齢者が避難の際に直面した問題点についてお話を伺いました。

・避難指示区域の中を貫く国道6号線を南下し、バスの車窓から避難指示区域の様子を目に焼き付けながら郡山市に移動しました。

・ふりかえり

夜に、昨日に引き続き、全員で車座になりながら、一日をふりかえり語り合いました。

○2／27（月）

・はみんぐBirdの活動に参加。この日の朝に合

流された赤松学長が、対話のまとめで、「人の素晴らしいところは創造性。出来ることを探っていくことや先を閉じて考えないこと、対話の大切さ」等についてお話された。

・本宮市に移動し、昨年も訪問した恵向公園応急仮設住宅の皆さんを訪問。学生が恋ダンスを踊り、じゃんけんゲームをした後、グループに分かれてお話をしました。

・ふりかえり

郡山市に移動し、この4日間を総括し、語り合い、情報過多で混乱している頭を整理しました。

・夕食と入浴を済ませ、京都に向けて出発

2月28日（火）

8：00 京都駅にて解散。



福島のNPO法人うつくしまランチのスタッフから話を聞いているところ

参加した学生の声

福島に関する報道が少なくなっていたので復興の復興は進んでいると思っていました。しかし、除染物を詰め込んだフレコンバックが山積みになっている光景や、国道6号線から見える双葉町や大熊町の光景は復興には程遠く、今でもはっきりと思い出せるくらい印象に残っています。民家の近くにフレコンバックが並んでいました。また、原発の事故が原因の目に見えない人と人の溝も感じました。賠償金をもらえる人ともらえない人がおり、どうして少し家が離れているだけでこれほど補償に関することが違うのか疑問に思いました。そして一番感じたのは関西周辺にも原発があるので福島のことを他人事のように考えずにこれからも何らかの形でかわり関心を持っていこうと思いました。

■ 2017年度 ■

実施日／場所	2018年2月24日（土）～28日（水） 4泊5日 福島市、川俣村、飯舘村、南相馬市、本宮市、郡山市
参加人数	学生15人、引率2人（筒井センター長、竹田CD） 合計17人

●スケジュール

○2/24（土）

京都を8時に出発し、渋滞に巻き込まれ、福島市には20時に到着。夕食後、NPO法人うつくしまランチの皆さんから、震災前の福島の様子や震災直後の様子、現在の取り組みなどについてのお話を伺いました。

○2/25（日）

・阿部農園を訪問

梨園を見学しながら、震災後どのようにして家業を守り、安全な食べ物を提供するために努力してきたのかを伺う。

・飯舘村に新しくできた“までい館”（道の駅）を経由して南相馬市に移動。

・浪江町住民の小林氏に浪江町内をバスで案内していただいた後、少し町内を歩きました。

・デイさぼーとぴーなっつの青田氏に福祉の観点から見た防災・減災、そして当時の状況などについてお話を伺う。

・ふりかえり

夜に情報過多になっている状態を整理するために、全員で車座になりながら、感じたことを語り合いました。

○2/26（月）

・一般社団法人いちばん星の星氏に南相馬市鹿島区内を案内していただく。

・(株)小高ワーカーズベースの和田氏より、起業の経緯等について話を聞く。

・南相馬市社会福祉協議会の佐藤課長から、現状の課題や取組についてお話を伺う。

・一般社団法人いちばん星の星氏から、農家民泊いちばん星を始めるまでの経緯や、公務員として避難所運営に従事していた頃の経験について語っていただきました。

・ふりかえり

夜に、昨日に引き続き、全員で車座になりながら、一日をふりかえり語り合いました。

○2/27（火）

・南相馬観光協会の見学

観光ボランティアガイドの案内で、大悲山の石仏など、歴史豊かな南相馬の文化に触れるとともに、震災の爪痕が色濃く残る小高区沿岸地域を案内していただきました。

・高齢者センターで開催されているサロンとデ

イサービスに訪問。

学生達が歌とダンス、ジェスチャーかるたを行った後、グループに分かれてお茶を飲みながら、参加している高齢者の皆さんと交流しました。同施設内のデイサービスにも訪問し、学生達が歌とダンス、ジェスチャーかるたを行って交流しました。

・国道6号線を南下しながら郡山市に移動し、車窓から見える被災当時のままの様子を色濃く残る風景を見ながら、バスの運転手さんの経験談を聞きました。

・ふりかえり

この4日間での総括的なふりかえりをじっくりと行いました。

・食事と入浴を済ませ、京都に向けて出発

○2/28（水）

朝、7:30頃京都に到着し、解散。



阿部農園を案内していただきながら、話を聞いているところ

参加した学生の声

スタディツアーでは地元の方から直接お話を伺い、町を実際に歩きました。道路沿いに置かれた、黒いフレコンバックの山や仮設住宅、慰霊碑、放射線量を表す掲示板など、そのどれもが私にとっては見慣れない光景でした。地元の方には、目を背けたくなる現実、希望ある未来へ向けた事業、と様々なお話を伺いました。実際に東北地方に行ってお話を伺うと、多くの方が「言葉にするのが難しい部分がたくさんある」と話されます。福島へ実際にいった今、その言葉の意味がよくわかります。当事者ではなくても、伝えるために話すこと、行動することが出来ます。関心を持ち続け、今私を知っている福島を、東日本大震災を伝えることが、今の私に出来ることであり、したいことです。

■ 2018年度 ■

実施日／場所	2019年2月19日（火）～2月23日（土） 4泊5日 福島市、南相馬市、郡山市、浪江町
参加人数	学生15人、引率2人（筒井センター長、竹田CD） 合計17人

●スケジュール

○2/19（火）

8時に雨の京都を出発し、19時前に福島市に到着。NPO法人『つくしまブランチャ』の皆さんの他、地元の高中生や留学生、地震当日から取材を続けていたカメラマンの方からもお話を聴きました。「お金も力もない高校生の自分にできること、それは“学ぶ”ことだ」という話や、カメラマンの方からは取材を続ける上で感じたやりきれない思いなどについて聞きました。

○2/20（水）

- ・阿部農園を訪問
農園内を歩きながら、国の基準値よりも更に厳しい基準値で測定していることなどを伺いました。
- ・浪江町では、住民の小林氏から町を案内していただき、請戸漁港や浪江町立請戸小学校の子どもたちが、津波を逃れて懸命に登った大平山に向いました。
- ・デイスポートぴーなっつの青田氏から福祉避難所のことや震災直後の頃のお話を伺いました。
- ・ふりかえり
夜に情報過多になっている状態を整理するために、全員で車座になりながら、感じたことを語り合いました。

○2/21（木）

- ・朝から地元の高齢者の皆さんが自主的に立ち上げて運営されている『さくらサロン』の皆さんと交流会をしました。余興に、学生達がAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」を踊り、チームに分かれてクイズ大会やお茶を飲みながらお話をしました。
- ・出来たばかりの『小高交流センター』を見学した後、南相馬市社会福祉協議会の方々から震災直後から現在までの取り組みについて、密度の濃いお話をじっくりと聴かせていただきました。社協職員の方自身も被災している中で支援に走り回っていたこと、情報が全然なかったこと、食べ物や薬が枯渇して行ったこと、災害ボランティアのこと等、被災直後のお話は本当にリアルでした。
- ・ふりかえり
夜に、昨日に引き続き、全員で車座になりながら、一日をふりかえり語り合いました。

○2/22（金）

- ・南相馬市内の見学

南相馬市内をガイドの方に防災センターや大悲山薬師堂石仏などを案内していただく。

- ・小高ワーカーズベース訪問
場所は出来たばかりの小高パイオニアヴィレッジ内で、代表取締役社長の和田氏から、この施設を立ち上げるにあたっての思い等についてお聞きしました。柔軟な思考から語られる和田さんの言葉に刺激を受けた学生達から、質問が次々と出てきて、予定の時間を30分も越えてしまいました。

- ・ふりかえり

この4日間での総括的なふりかえりをじっくりと行いました。

- ・食事と入浴を済ませ、京都に向けて出発

○2/23（土）

7：30頃京都に到着し、解散。



浪江町駅前にて話を聞いているところ

参加した学生の声

今回、自分は何も知らなかったということは何度も思い知らされた。深刻な人手不足や少子高齢化、福島の作物や土地に対する風評被害、無数にあるフレコンバック、またその処理が大幅に遅れていることなど、福島は多くの問題に直面している。特に福島の少子高齢化は大きな問題になっている。この問題について（株）小高ワーカーズベースの和田さんは、「震災前からあった問題、震災によって浮き彫りになっただけ」と仰っていた。この言葉を踏まえるならば、私たちは震災が起こる前に、いま福島が直面している「震災前からあった問題」を解決していくことが重要なのではないだろうか。学生である自分にできることは少ないが、周りの人に福島で経験したことを話していくこと、これからも福島に何度も訪れること、そして今の福島を知っていくことが自分にできる復興の一つであると信じている。

■ 2019年度 ■

実施日／場所	2020年2月16日（日）～2月20日（木） 4泊5日 福島市、南相馬市、郡山市、浪江町
参加人数	学生14人、引率2人（筒井センター長、竹田CD） 合計16人 ※直前に学生1人体調不良のためにキャンセルになり、学生の参加が14人

●スケジュール

○2／16（日）

雨の京都駅を8：00に出発し、19：00前に福島市に到着しました。毎年お世話になっている『NPO法人うつくしまランチ』の皆さんと交流しながら夕食をいただき、夕食後、震災当時のこと、現在課題だと感じていること、うつくしまランチの活動等についてお話を伺いました。

○2／17（月）

・阿部農園を訪問。

少しでも安心安全な食べ物を供給するための取組について聴いた後、ちょうど地中に埋められたフレコンバックを中間貯蔵施設に運び出す作業を行っていた業者の方からも、どのような作業を行っているのか具体的なことを聴くことが出来ました。

・浪江町を訪問

地元の方から請戸漁港の展望台や請戸小学校、大平山を案内していただきました。

・東京電力廃炉資料館に移動し、館内を見学した後、ふたばいんぷおを訪問

○2／17（火）

・宿の方から南相馬市鹿島区内をご案内いただき、相馬野馬追で活躍する厩舎などを見学。

・地元のデイさぼーと ぴーなっつの青田さんから福祉避難所のこと、震災直後、避難できなかった人たちをサポートするために、情報集めに奔走した話などについてお聞きしました。

・地元でクリーニング店を経営しながら、地元のために様々な活動に取り組んでおられる高橋さんに活動について聴き、南相馬市の美しい風景の写真に合わせて詩の朗読をしていただきました。

・小高区に移動し、少し区内を散策した後、小高ワーカーズベースの和田氏お話を聴きました。

・宿に帰ってのふりかえり

○2／19（水）

・南相馬市内の見学

ボランティアガイドの方から、防災センターや自分が津波に遭遇した場所などを案内いた

だいた後、国の史跡にも指定されている大悲山薬師堂石仏を見学しました。

・南相馬市社会福祉協議会を訪問し、佐藤課長から震災直後の話や現在についてお話を伺った後、質疑応答の時間を作っていただきました。

・南相馬市社協の佐藤清彦課長にも入っていただき、全体の総括的なふりかえりを行いました。

・国道6号線を南下して、被災した当時の面影を色濃く残す車窓の風景を目に焼き付けながら郡山市に移動。

・夕食と入浴を済ませ、京都に向けて出発

○2／20（木）

朝、7：40頃京都に到着し、解散。



夜のふりかえりの様子

参加した学生の声

1番記憶に残っているのは、バスで帰還困難区域を走っている間に見た景色です。道路脇には真っ黒なフレコンバックが積み、全ての道が「帰還困難区域」と書かれた看板とバリケードで封鎖されていました。放置されたままの家々には生活のあとがそのまま残っていました。メディアでは、まるで大部分で復興が着実に進んでいるかのような報道もなされますが、人が戻れない町、山積みのフレコンバック、枯れ草だらけの海岸などの景色を見て、私は東北が復興しているとは思えませんでした。今回のツアーで、「現地に足を運び、自分の目で見て、話を聞くこと」の重要性を改めて感じました。ツアーを通して得たもの・感じたことを忘れず、これからも時間をかけて学びつづけていきます。これまでの学生生活で1番、考えさせられ、心を動かされ、モヤモヤの消えない、自分にとって非常に意味のある体験になりました。

4. 東日本大震災追悼法要勤修一覧



龍谷大学では、宗教部により東日本大震災犠牲者をしのいで、2012年より毎年、「東日本大震災追悼法要」を勤修しています。

法要の際には、教員による講話、東日本大震災復興支援ボランティア活動に参加した学生からの活動報告等も行われています。

実施年度	実施日	実施キャンパス	講 話	学生による活動報告及び震災に関する展示 等			
2012	2012年 4月11日(水)	深草・顕真館	鍋島 直樹 (文学部教授)				
		瀬田・樹心館	山田 容 (社会学部准教授)				
	2013年 3月11日(月)	深草・顕真館	赤松 徹眞 (学長)	東日本大震災の記録映像の上映			
		瀬田・樹心館	嵩 満也 (国際文化学部教授)				
2013	2014年 3月11日(火)	深草・顕真館	赤松 徹眞 (学長)	「花は咲く」を参列者全員で合唱			
		瀬田・樹心館	道元 徹心 (理工学部准教授)				
2014	2014年 5月31日(土)	大宮・本館	鍋島 直樹 (文学部教授)				
	2015年 3月11日(水)	深草・顕真館	池田 勉 (副学長)				
		瀬田・樹心館	筒井のり子 (社会学部教授)	高藤 真意さん (国際文化学部3年生)			
	2015	2016年 3月11日(金)	大宮・本館	楠 淳澄 (宗教部部長)			
深草・顕真館			伊達 浩憲 (経済学部教授)	白土 奈央 (法学部3年生)			
瀬田・樹心館			筒井のり子 (社会学部教授)	田川 智也 (理工学部2年生)			
2016	2017年 3月10日(金)	大宮・本館	楠 淳澄 (宗教部部長)				
		深草・顕真館	赤松 徹眞 (学長)				
		瀬田・樹心館	築地 達郎 (社会学部准教授)				
2017	2018年 3月8日(木)	大宮・本館	川添 泰信 (宗教部部長)				
		深草・顕真館	入澤 崇 (学長)				
	2018年 3月9日(金)	瀬田・樹心館	道元 徹心 (理工学部教授)	加藤 翔太 (農学部3年生)			
2018	2019年 3月6日(水)	瀬田・樹心館	杉岡 孝紀 (農学部教授)	大屋晴太郎 (農学部1年生)	建物入口付近等で東日本大震災に関する展示		
	2019年 3月8日(金)	大宮・本館	金澤 豊 (龍谷大学世界仏教 研究センター 博士研究員)				
		深草・顕真館	入澤 崇 (学長)	西山 大樹 (政策学部4年生)	建物入口付近等で東日本大震災に関する展示		
2019	2020年 3月4日(水)	大宮・本館	能仁 正顕 (文学部教授)				
		深草・顕真館	入澤 崇 (学長)				
	2020年 3月6日(金)	瀬田・樹心館	杉岡 孝紀 (農学部教授)				

5. 活動に参加した学生からのメッセージ



「東日本大震災復興支援ボランティアに参加して」

文学部 仏教学科 2016年度卒

藤原 恵太

(2013・2014年度東日本大震災復興支援ボランティアに参加)

私は2013年度第2回、2014年度第3回のボランティア活動に参加しました。

2度石巻市に訪問した中で、2度とも立ち寄ったのが市内にある日和山公園でした。私は頂上から見える海側の景色を、今でも鮮明に覚えています。目の前に広がるのは、点々と建っている工場と整地された土地にその間を通る道路でした。人気を感じないその風景に、震災がもたらしたものの大きさを突き付けられたように感じました。こうした現地に訪れないと分からないその時々景色や空気感を感じられたことは、今でも自分の中に確かに残っています。

また、この活動を通して現地の方々との「つながり」は、本当に貴重な経験になっています。スポレクまつりやホタテまつりで出会った方々、語り部として自身の経験を伝えてくださった方々、雄勝町の為に活動をされている方、石巻専修大学の先生・学生の皆さん、日和山で体操されていたおじいさんなど、この活動を通してたくさんの方に出会うことができました。そして多くの方々が、京都からやってきた私たちを受け入れ、震災当時の経験を話してくださいました。自分だったら誰かに伝えることが難しいだろうと感じるお話でも私たちにしてくださいます。感謝の気持ちとともに、どうして私たちに話をしてくださるのか疑問もありました。そんな中、語り部の方は、「私たちと同じ経験をしてほしくない」「この経験がもし次の災害が起きた時に少しでも糧になれば良い」と言われました。私はボランティアとして現地の力になりたいと思い参加していましたが、このようなお話から多くのことを学び、何より生き

るための活力を頂きました。この活動を通じたつながりで得た経験は自分の財産になっており、身近なところでは災害への備えにもつながっています。決して思い出で終わらせてはいけないと思います。定期的に現地へ訪問するなど、直接的なつながりをこれからも持ち続けたいです。しかし、それが難しかったとしてもメディアを通じて情報をキャッチすることや当時私が見て・聞いて・感じたものを伝えていくことなど、身近なところから取り組み、風化させないことが大事だと感じています。

最後に、「東日本大震災復興支援ボランティア」が名称や支援のかたちを変えながら、雄勝町・石巻市・東北とつながり続けていくことを願っています。



被災体験を聴いている様子

「東日本大震災復興支援ボランティアに参加して」

法学部 法律学科 2016年度卒

白土 奈央

(2013・2014年度東日本大震災復興支援ボランティアに参加)

大学1年の夏に初めて東日本大震災復興支援ボランティアに参加しました。初めて復興支援に参加したときは、「被災地の人を助きたい」という思いで参加しましたが、雄勝の方々の復興に対する様々な思いに触れ、「雄勝の人と一緒に頑張りたい。大学生である自分にできることは何だろう」ということを考えるようになりました。自分が大学生の頃おこなった東日本大震災に関する様々な企画の根幹には、「雄勝の方々から受け取った震災の記憶や復興への思いを、自分の言葉で誰かに伝えたい。」という気持ちがあったように思います。

今では大学を卒業し、2019年から千葉県の特別支援学校の教員として勤務しています。東日本大震災に対する思いは今でも変わっていませんが、大学生の頃と確実に違うことは、『今の自分の行動には、目の前にいる大切な子どもたちの命がかかっている』ということです。学校でも毎年避難訓練が実施されますが、ただ避難マニュアルにそって行動するだけの自分では、いざというときに子どもたちの命を守れないのではないかと、いつも不安になります。マニュアルはあくまでもマニュアルであり、災害の状況やそのときの子どもたちの様子によってもとるべき行動は異なってくると思いますし、考えておかなければならないことは、いくら考えても考え切らないのではないかと思います。しかし私は、『災害時の行動は生死を分ける究極の選択の連続である』こと、そして『その選択を雄勝の方々がどのように乗り越えてきたのか』ということ、東日本大震災復興支援ボランティアを通して学びました。当時ボランティアセンターのコーディネーターさんから、「雄勝の人が、辛い震災の記憶を思い出してまで、それを私たちに伝えてくれるのはなんでやと思

う？」と投げかけられたことがあります。この問かけの答えはもちろん一つではないと思いますし、今でも明確な答えは出せませんが、雄勝の方々が伝えてくれた様々なことが『災害が起こったとき、子どもたちの命を守るため、自分はどのように行動し、選択をすればよいのか』ということを考えるにあたって、自分の中の大切な支えとなっています。

東日本大震災について、様々な記憶や想いを受け取った私たちには、それを未来へと繋いでいく義務があると思います。その繋ぎ方は色々な立場や視点によって様々だとは思いますが、自分は教師という立場の中で、雄勝の方々に教えていただいたことを子どもたちに還元していきながら、東日本大震災の記憶をこの先もずっと未来へ繋いでいければいいと考えています。



おがつスポレクまつり「地区対抗の綱引き」



フォーラムで活動報告しているところ

「何をどう伝えるか」

政策学部 政策学科 2017年度卒

南山 裕紀

(2014・2017年度東日本大震災復興支援ボランティアに参加)

「教訓を伝えているのは、これから地震に遭う君たちに、東日本大震災で得た教訓を活かしてほしいから」この言葉が私の活動の原点になりました。

東日本大震災が発生した時、私は中学3年生でした。メディアを通して見た未曾有の災害に衝撃を受け、“何か行動したい”と思ったのを今でも覚えています。しかし余裕の無い高校時代は何もできず、大学生になったらと想いをもち続けていました。そして、2014年4月に龍谷大学に入学。宮城県石巻市雄勝町で復興支援活動を実施していることを知り、2014年8月に初めて参加しました。実際に現地へ行くと、被害の大きさを五感で思い知らされた一方で、復旧・復興に向けて力強く歩んでいる住民の方々の姿に出会うことができました。また活動の中で、当時の話を伺う機会があり、その話の中で一番強く印象に残ったのが冒頭の言葉です。

活動から帰ってきて、その言葉の意味に想いを巡らせた時、思い出すのも辛い体験を話してくださったのは、私たち学生のためだということに至りました。そこから“私たちにできること”をテーマに防災減災啓発活動を始めました。その活動の中で、常に考えていたのが、“どのように伝えるのか”と言う事です。発災から年月が経ち、震災に対する関心が徐々に薄れていく中で、自分たちが伝えたいことをどう伝えれば伝わるのか、難しい課題でしたが、展示会やヒアリング調査、ワークショップなど、活動の度に考えながら活動に取り組みました。

現在、私は京阪神地域に店舗を展開しているスーパーマーケットの日用品売場担当者として働いています。日々の暮らしに必要な消耗品は勿論のこと、暮らしを豊かにしてくれる付加価値商品など、扱う商品は多岐にわたりま

す。その商品の中から何を売場に展開するか、商品が持つ魅力を限られた売場でどのように活かせば、来店されるお客様に伝わるのか、その魅せ方に試行錯誤を重ねながら挑戦を続けています。

この挑戦の基礎となっているのは、ほかでもなく、復興支援活動で見聞きした雄勝の風景や地域住民の方々の生の声とそれをきっかけに取り組んだ4年間の防災減災活動で得た学びです。学ぶ機会を作ってくださった龍谷大学ボランティア・NPO活動センターをはじめ、関わってくださった方々に感謝するとともに、これからもこのような学びの機会が続くことを願いつつ、私自身も大学時代の経験を胸に挑戦していきます。



雄勝に関する展示物を作成している様子

「人生を変えた5回のボランティア活動」

経営学部 経営学科 2019年度卒

萩森 紀恵

(2017・2018・2019年度東日本大震災復興支援ボランティアに参加)

生まれてから18年間行ったことのなかった東北地方に大学4年間で5回も訪れました。3回はボランティアセンターの復興支援ボランティア、1回はゼミを通しての復興ボランティア、そして個人的に行ったボランティアの1回です。

中学1年生の春、同じ日本で起こっていることが信じられないくらい現実的でない映像を見ました。黒い津波が一面の畑を覆っていく映像を9年経った今でも覚えています。そのときから、いつか東北へボランティアに行き少しでも力になりたいと思っていたのが大学2年生のときにやっと叶いました。

東北へ行くたびに町の景色は変わっていました。がれきの跡はほとんどなく道路も整備されていて、復興とは程遠い景色になっていっていると思います。しかし、綺麗すぎる青い海の景色が見えない程の防潮堤や、土地のかさ上げ工事、当時のままの学校を見るとまだまだ発展途上の現状だと感じました。その中で、1番に影響を受けたのは活動の中で出会った地元の方々です。そして、その方々との関わりから得たことは、「自分の良さを見つけ将来の働き方、ビジョンが明確になったこと」「自分に自信を持つことができたこと」、「私の人生に関わった人を大事にしていこうという決意」です。大震災を経験していない子どもたちと、経験をした人たちが一緒に町を盛り上げる雄勝運動会や、我が子を亡くした大川小学校で、津波の恐ろしさ命の尊さを私たちに継承するためにお話をしてくださった語り部の方、津波で流された遺族を弔うために花を植えそれが、町の人の故郷となった雄勝ローズファクトリーガーデンの方。たった数回で関わった人は100人を超えます。私の顔を覚えて、次来たときには「いらっしゃ

い」「来てくれてありがとう」「元気をくれてありがとう」の言葉をくださいました。1人1人からもらうパワーは本当に大きくて、味わったことのない気持ちにさせてくれます。人と打ち解けることが得意なことに自信を持ち、人と関わる仕事に就きたいと思いました。そして、震災を身近に感じたからこそ出会えた人達を大切にしていくことを強く思います。このボランティアの経験だけで、「龍谷大学に入学して本当によかった」と思えたくらいの経験をしています。

だからこそ、今後も東北の被災地を見つめ続けていきたいですし、また必ず帰りたいと思います。そう思える経験をさせていただいた龍谷大学にも感謝しております。



運動会の競技をサポートしている様子

「東日本大震災復興支援ボランティアに参加して」

社会学部 地域福祉学科 4年生

大橋 寛海

(2017・2018・2019年度東日本大震災復興支援ボランティアに参加)

私が復興支援ボランティアに参加する以前と以後で一番変わったことは震災についてもっと知りたいと思うようになったこと、そして知ったことを伝えたくなったことだと思います。このボランティアは単に被災地で活用されている方のお手伝いをするだけでなく、震災を経験された方々の当時の様子やその後どのようにしてまちの復興が進んだのかなど実際に現地まで行ったからこそ知ることができるような貴重なお話をたくさん聴くことができました。私は雄勝に3年行きましたが毎年何か新しい建築物が出来上がっており復興を感じることができてよかったです。毎年復興を感じられるこのボランティアで印象に残っていることは徳水さんの防災研修です。防災研修は大川小学校で起きた悲劇をもとに津波の恐ろしさを知りました。警報では10mの津波は各地の平均を取った数値で実際には20mを超える津波が押し寄せた地域もあるということを知りました。他にも津波が来たときは海岸からより離れたところに行くより近場で高いところ（ビルや丘など）に逃げる垂直非難が大切だということを知りました。この知識がなかったら間違いなく津波に襲われたときに平行避難をして津波にのみこまれてしまっていると思います。それを想像したらとても怖くなりました。私たちがニュースや新聞で知った震災の知識とはいかに浅いものであるか、自分の助けにならないかこの防災研修で思い知らされました。そして同時に自分から積極的に震災のことや防災について知りたいと思うようになりました。この復興支援に初めて参加したときこそ友人の紹介だったのですが、このボランティアがきっかけで他の災害ボランティアや防災研修などにも積極的に参加するようになりました。このボランティアに参加

すると身近な人にボランティアで知った事実や複雑になった気持ちを伝えたいと思うのですが、私の経験上思った通りに伝わることなどまずありません。ですが毎年のように復興支援ボランティアに参加したり、自発的に様々な研修やイベントに参加していくうちに周りの人も興味を持って話しかけてくれるようになったのを実感しました。知ったことをうまく伝えるためには自分が震災について考え続け学び続けることが一番の近道なのだと分かりました。私は今年度で大学を卒業しますが、卒業しても雄勝に関わり続け、たくさんの人に震災のことと雄勝の魅力を伝えていきたいと思っています。



2018年度の活動の様子

「福島スタディツアーを経て」

政策学部 政策学科 2018年度卒

西山 大樹

(2017・2018年度福島スタディツアーに参加)

私は現在、群馬県吾妻郡高山村で1年間の農村生活体験をしています。平日は毎日、村内の農家さんなどの家にお邪魔して農作業などをお手伝いしています。現在このような活動をしているのも大学時代に福島スタディツアーに参加したことが関係しています。

震災から7年目の2018年、大学3年の時に福島スタディツアーに参加しました。現地の方から震災や原発事故にまつわる話を聞きました。初めて聞く話に自分の知らなかった社会の現実を目の前で突きつけられた気持ちになりました。何かがおかしいと感じ、そこから原発立地の社会的構造に目を向けました。調べれば調べるほど、東京一極集中の社会で本当にいいのかと疑問が湧いてきます。またその中で自分自身がどのように生きていけばいいのか悩みました。

私は大阪の都市部で暮らしてきました。昨春にタイの農村部で首輪の付いていない犬や道路を走り回っている鶏を見て感動しました。日本の村にもこれに近いものが残っているかもしれないと考え、農村生活を体験してみようと思いました。高山村に住みはじめ、村も市場経済の仕組みにちゃんと組み込まれているということに気づきました。村の特産品である枝豆を少ない面積で細々とやっていく農家は全体的に減ってきて、一人の農家さんが大規模な畑を管理するという方向に移ってきているようです。また私も含め村の人たちは、村外の大きなスーパーやホームセンターで食品や資材を購入します。もちろん、ご近所づきあいや地区のお祭りなど都市部にはない人と人との繋がりが面白くも感じています。しかし、私の村のイメージと現代の村には大きな差がありました。いずれ人口が極端に減り、空き家が増えて衰退していく

未来が容易に想像できます。

そんなとき思い出すのが、スタディツアーの時に話を聞いた和田さんの話です。和田さんは震災後5年間居住できなかった南相馬市小高区でビジネスを展開されています。「人口が一度ゼロになった小高区はもっとも簡単に新しい社会を想像できる場所だ。予測不可能な未来を楽しもう。」話を聞いて和田さんの前向きな姿勢に圧倒されました。

自分たちの生活や地域は自分たちの手で創り、守る。そんな意識が大切だと強く感じています。私自身まだ将来のことを明確に描けているわけではありませんが、これからも地方に身を置き、自家用の米や野菜を作り、地域のことを考える一人でいたいと思っています。福島スタディツアーは、社会のことに目を向けるきっかけや自分自身の生き方を考えるきっかけ、悩みながらも前を向くことの大切さを教えてくれた、私にとって大学で一番の学びです。



小高パイオニアビレッジにて

「3.11を受け継ぐ人になる」

国際学部 グローバルスタディーズ学科 2018年度卒

坂本 唯

(2017年度福島スタディツアーに参加)

はじめて福島に行ったのは2018年2月のスタディツアーだった。帰りの夜行バスのなか、私は一人で声をおしこらえて泣いていたことを今もずっと覚えている。その夜は不安になるくらいどしゃぶりの雨が降っていた。真っ暗なバスのなか、原発事故を経験した人々の気持ちを想像した。いつもと変わらない生活を送ろうとしていた人たちが、なぜ2011年の3月11日に地震、津波、原発事故に遭い、学校の卒業式が終わってほっとした気分であつたであろうその時間に、なぜ起こったのか。そして原発事故はなぜ福島で起こり、家に帰れると思っていた多くの人が、なぜまだ帰ることができずにいるのか。あの日、あの時、あの場所で、なぜ3.11が起こったのかを考えていた。

その人たちも私と同じように家に帰れるときと思っていた。私は帰りのバスで事故に遭わなかったから帰ることができ、一方で原発事故は起きてしまったから現在も帰れない人たちがいる。出来事も状況もまったく違うけれど、なにかの偶然が重なることによって、今までの人生が、がらりと変わることがこんなにも身近にあるのだと感じた。

私はその後、大学院に進学した。現在はそこで、原発事故によって避難を経験した人々の生活史の聞き取りを行っている。地震、津波、原発事故は人生を大きく変える出来事であるが、ひとりの人間が生きる長い人生のなかでは、ほんの一部分のことである。だからこそ、これまで誰とどこに住んでいて、なにをして過ごすことが好きで、そして3.11以降どうやって暮らしを立て直してきたのか、その人の人生について話を聞かせてもらっている。

私は未来の世代に、なぜ原発事故が起きたのかを説明できるようにならうと思う。それは、

起こった出来事の実事を単に並べるのではなく、その時代に生きてきた人たちの声をもとに、人間の経験を次の世代に伝えることである。

原発事故後、福島にとどまるのか、県外に避難するのか、強制避難か自主避難かなど、さまざまな線引きによって人々の経験がカテゴリー化された。たとえば、強制避難の〇〇さんの話や、自主避難中の△△さんの経験など。カテゴリー化された「避難者としての話」を越えて、生きていく中で原発事故に遭い、避難という選択をせざるを得なかった「ひとりの人間の人生」をもっと知りたい。そのような個人の語りから、原発事故とは何だったのかを学び、3.11の経験を受け継いでいく一人になることを目指している。



スタディツアーで出会った「NPO法人うつくしまブランチ」の掃部さんと共に

6. 引率コーディネーターからメッセージ



第二部

この10年をふりかえって

ボランティア・コーディネーター
竹田 純子

この10年、龍谷大学が主催するボランティアバスに参加した学生は、宮城県石巻市で活動したものに延べ622人。福島スタディツアーは延べ74人です。その大半の活動に引率者として同行し、活動のコーディネートを担当してきました。

「安全の確保」はどんな場合も必須なものです。震災当初は、まだ余震も多く「いかに学生の安全を確保して活動を実施するか」が私の命題であり、不安だらけで悲壮な覚悟で取り組んでいたことを思い出します。現在、最も頭を悩ませているのは「学生が、災害と向き合う場面をどう作り、少しでも自分に引き寄せながら考えることのできる場作りをするか」ということです。震災1年目は活動に参加するだけで、その甚大な被害が体感的に伝わり、学生達は否応なしに災害の現実に向き合うことになりました。しかし、当たり前の話ですが、目にするものは年々変化し、壊れた建物は真新しくなり、災害の痕跡が見えなくなりました。活動に参加するだけでは、どんなに言葉を尽くしても、その地で何が起こったのかを実感することが難しくなりました。そのため震災翌年ごろから、地元の方から依頼を受けた活動にプラスして、地元の方のお話を聴き・交流する時間や災害を学ぶ機会を作るように少しずつ活動内容を変化させました。そして、2015年からは福島スタディツアーも始まりました。

震災について学ぶようになってからは、活動後の学生の行動に変化が出るようになりました。当初は活動報告会で「被災地の様子や活動内容」「感想」だけを伝える学生が多かったのですが、今では「いつ自分たちも被災者になる

かもしれない」という視点も加わった報告が行われるようになり、防災について考えるワークショップや展示を開催するといった活動につながってきました。

活動期間中は、必ず全員で今日一日感じたことを語りあう“ふりかえり”の時間を設けています。同じ場所・時間に活動していても、語られる内容は千差万別であり、この時間を通してたくさんのことに気づき、学び合い、思考を深めさせてくれる時間となっていました。

私の役割は、学生の傍らで彼らの「被災地での経験や学びが、なかなか身近な人たちに伝わらない悔しさ」、「被災地で知った不条理な出来事への苛立ちや無力感」などを共に悩み、考えることであり、活動することによって出会った「楽しさや嬉しさ」「感動」「人間の強さや温かさ」を共に喜び合うことでした。試行錯誤の連続でしたが、この間の取り組みが、災害時のボランティアへの呼びかけの反応の良さに表れていると感じています。

石巻や福島でお世話になった皆さまと、活動を支えてくれた皆さまに、これからも、この10年で生まれた芽を育む努力し続けることを心からの感謝と共に誓いたいと思います。



雄勝ローズファクトリーガーデンでの作業の様子

第三部 関係者からのメッセージ

花と緑の力で、人とつながり希望を紡ぐ



一般社団法人「雄勝花物語」
共同代表 徳水 博志

一般社団法人「雄勝花物語」共同代表の徳水博志です。本団体は 3.11 の巨大津波で壊滅した石巻市雄勝町を復興するために、2012年に私と妻が立ち上げた復興プロジェクトです。合言葉は、「花と緑の力で、人とつながり希望を紡ぐ」です。龍谷大学の皆さんには、本団体の活動拠点である雄勝ローズファクトリーガーデンにおいて、植栽のボランティア活動を行っていただいておりますが、2014年の9月から2019年まで数えますと、合計11回、参加人数は450人に上る数です。これだけ多くの皆さんにつながっていただいてその若い力に支えられたからこそ、震災から10年もの間、私たちは復興事業を継続できたのだと思われています。もう言葉で言い尽くせないほど感謝に絶えません。

皆さんの見返りを求めない無償の支援活動によって、私個人は心（自我）が浄化されていくような喜びと幸福感に満たされています。その喜びゆえに、“無償でいただいたものは無償で返す”という仏教の「法」のような真理に基づいて、ガーデンは来園者に無料開放しています。さらに私たちが始めた持続可能なまちづくりという復興事業は誰のために行っているかと問えば、結局は未来に生きる雄勝の子どもたちのためでもあります。皆さんから受けた無償の愛を子どもたちに無償で返す行為によって、私の心はいつも幸福感に満たされています。その心境を一言で表現すれば、「人とつながり希望紡ぐ」となるわけです。

一方、妻はこう言っています。「亡くなった人や無くなったものとつながる場として、ガーデンを造ってきましたが、心が折れそうなときもありました。そんなとき、皆さんがわざわざ

京都から夜行バスでやって来て下さり、一生懸命働く姿に接する度に、“明日も頑張ってみようかな”という生きる力と希望をいただけてきました」と。また昼食の汁物を作っている高齢スタッフは、こう言っています。「孫たちと会おうと10歳若返る！」「孫たちと会えて嬉しい！」と。コロナ禍の影響でバイトができずに大学生の生活が困窮しているというニュースを聞く度に、「孫たち、ちゃんと食べてるのかしら！」と心配しています。それだけ龍谷大学の皆さんとの交流は、高齢スタッフの心の支えと希望になっているのです。コロナ禍で皆さんの顔を見ることができないことが残念でならないようです。

現在、雄勝花物語はガーデン周辺の未活用地（元住宅地）を活用する「ガーデンパーク事業」を担っています。石巻市との連携事業です。事業の目的は、未活用の移転元地を花と緑で彩る癒しの空間をつくること。そして雄勝の子どもたちが故郷で食べていけるように、緑産業によって若者の雇用を作り出すことです。雄勝花物語はハーブと北限のオリーブの栽培拡大を目指していきます。この「雄勝ガーデンパーク事業」でも龍谷大学の皆さんの若い力が必要です。持続可能な地域づくりのために、これからも石巻市雄勝町へ是非通って来て下さい。よろしくお願い致します。

なお「雄勝ガーデンパーク事業」については、YouTubeに動画をアップしました。「雄勝花物語の紹介動画」で検索可能です。また雄勝花物語のFacebookにもアップしています。動画「人とつながり希望を紡ぐ」です。是非ご覧ください。

災害とボランティア活動について



社会福祉法人石巻市社会福祉協議会
復興支援課課長 阿部 由紀

あの東日本大震災からあと半年で10年が経つ中、全ての人が10歳年を取ったことで、「人の暮らし」にどのような影響をしているのだろうかと考える。

私は小さな漁村の旧雄勝町に生まれ、20年以上前に父が海の事故で亡くなったのをきっかけに、海を見たくないという母とともに家族で内陸に移住し、おかげで津波の被害とは遠い方の存在ではある。

福祉の仕事をしている上で、田舎の暮らしの決まり事や風習を知っていることは、住宅が密集する中心部との暮らしの違いがあることが感覚的に分かる。

人が人を気にし合いながら暮らす文化と、制度やプライバシーに寄った暮らしになりつつある文化とが混在する中、単に「支え合って生きる」というテーマもある今の福祉のゴールが、その地域によって違って見えるように見えてならない。

故郷の雄勝に、縁あって龍谷大学の学生の皆さんが関わってもらえるようになり、子どもや若者が少ないあの場所は、瞬間的にはあるが昔の活気が蘇ったように思え、心が弾むような感覚がとても嬉しく、大学をはじめ関係職員の皆様のお陰だと感謝している。

人は様々な経験を通じ、それを個々の感じ方や捉え方によって自身の生き方に反映させると考える時、この「雄勝」での学生の体験は、その心の片隅であってもどう残ったのかは興味がある。大規模な自然災害と小さな集落の人々の暮らしは、今後の社会人となつてからもその胸に刻まれていることを祈っている。

言葉では「支え合う」「協力し合う」「思いや

り」などという表現が使われ、今からの日本はこれが当たり前でできないと暮らせない所と、制度やシステムに依存しながら、人と関わらないで暮らしが成り立つ所と分けた時、国内の面積は圧倒的に後者のほうである。

今後の暮らしを考えてみると中心地に人は集まり、時代は便利だけを尊重していくことになるだろう。

昭和・平成・令和を生きている我々の世代が、次の世代へ引き継げるのは「支え合う」という文化を、自然災害からの今の雄勝を体感してもらい、自身の目で見えたものや聞いたものから感じ取って整理し、過疎化や少子・高齢化などの顕著な例などが、今から社会へ出る方々の人生観に、少なからず結び付くことができれば、これ以上ない成果ではないかと思えてならない。

龍谷大学の学生が、東北の市町村との関りの中で見つけたものは、一体どのようなことなのだろうか。生活における「支え合う」や「助け合う」といった極めてアナログ的なことが、未来のこの国にも残っていて欲しいと願っている。



復興支援セミナーの様子

ありがとう、龍谷大学



高橋 頼雄

大震災から8カ月が経ち、いよいよ仮設商店街のオープンが迫った11月のある日、龍谷大学の皆さんがボランティアに来て下さいました。当時私は、雄勝硯生産販売協働組合に勤務しながら、震災復興まちづくり協議会の副会長をしており、ボランティア受け入れの窓口にもなっていました。その時に活動して頂いたのが、ガレキの中から回収した雄勝石の洗浄と、オープンを1週間後に控えた仮設商店街「店こ屋街」の駐車場等の整備（主に草むしり）だったと思います。石の洗浄は、建物の中とはいえ水しかなくてとても冷たかった事でしょう。外での草むしりも気温がだいぶ下がっていたので、寒かったと思います。それでも皆さんは、一生懸命に、そして明るく作業をしてくれたことを今でもよく覚えています。開店の準備をしていた三浦海産物店さんが、乾物などを並べていると、それを買いたいとのことで、聞いてみると売って下さるとのこと。オープン前ながら、震災後、雄勝で買い物をしたのは龍大生が最初でした。今思えば当時より深いご縁があったのでしょうか。

その翌年より、毎年、「店こ屋街」のイベントや灯籠流し等のお手伝いをしていただいております。京都より10数時間かけてバスで遠路を。大変だと思います。でも皆さんは明るい。高齢者の多い雄勝地区です。孫を待つように毎年楽しみにしている方々がたくさんいます。この交流が永く続くことを願っています。

今、世界中で新たなウイルスの脅威と戦っています。大規模な災害も至る所で発生しています。まさにいつ、どこで自分が受難するかわからない世の中です。東北へボランティアに来て

くれた皆さんは、大震災の経験をした方達のお話を聞いたと思います。いざという時のために時々思い出して下さい。そして回りの人に伝えて下さい。何かあったら、まず自分を守る事。その上で、やれる事があれば行動する。その時に忘れてはいけないのが優しさです。思いやりです。私もこれからも自分の経験した事を伝えていきます。

私は今、雄勝を離れ、福島県の浜通りに住んでいます。帰還困難区域がいまだ残り、この先廃炉まで何年かかるかわからないこの地を見つめながら生活しています。何が正しいのか、何が間違っているのか、この地ではよそ者の私には今だによくわかりません。でも居る間に何かが見えれば、それでも良いかなと考えています。情報があふれている今。真偽を見極めるのは、自分の経験しかありません。皆さんもどんどん経験を積んで様々な場面で力を発揮してください。

雄勝に来てくれてありがとうございます。

どこかで又、お会いしましょう。



学生に自らの体験を語る高橋氏

この時代を生き抜くために



特定非営利活動法人さぽーとセンターぴあ
代表理事 青田 由幸

東日本大震災から9年6ヶ月が過ぎました。復興は進んだのでしょうか。震災は終わったのでしょうか。被災地の人々の心は穏やかになったのでしょうか。私たちは多くの困難を体験して次世代に、次の災害に対して教訓を伝えられているのでしょうか。

被災地を自分の目で見て、感じることを経験していただいています。ずっと継続して被災地に今も来ていただいています。多くの若い人たち、そしてその人たちを育てる人たちが次の災害にきっと立ち向かってくれると期待しています。一人の命もなくなさないために自分たちに何が出来るか、考え、行動して行って下さい。被災地からのお願いです。

被災地には様々な顔があります。被災地としての顔や、それを支えている人たちの顔が。いろいろな考えもまた多くあります。

ふくしまは他の被災地とは異なった地域になってしまったように思われます。いまだに県内外避難者数は約3万7千人を超えています。住むことが出来なくなった地域もあります。195人の児童が甲状腺がんを手術していますが国は、「被曝との関係性は認められない」と見解を変えていません。この子どもたちに分かる説明をしていません。自己責任論が出てきます。このことがふくしまへの差別を作り上げています。「ふくしまのこどもたち」への差別は「いじめ」につながり、潜在的優生思想を表面化します。そして多くの分断を生みます。

過去の経験から私たちは自然災害に対して受け入れながら向き合ってきました。しかし、水俣病や四日市ぜんそく、森永ヒ素ミルク事件など工業災害、事件には差別や偏見が生まれ、被

害者が立ち向かうためには大きな困難はありました。ふくしまの原発事故もこれからどれくらいの時間をかけて立ち向かってゆけるのか、大きな壁が立ち塞いでいます。経済発展の負の遺産は極小的な地域に落とされます。そして犠牲になっている人たちがいることを、多くの人たちは気がつかないで時は流れてゆきます。自分に降りかかるまで。

私たちはとても特別な時代に生きています。大きな自然災害を何度も経験し、原発事故のような人災がもたらす工業災害を経験し、世界中でのコロナ禍を今乗り越えようとしています。特別な時代を生きぬくことが、自分たちの子孫や後世に残す財産であると思います。

被災地やふくしまを見て感じることは次の災害への備えであったり、家族、なかまの命を守ることにつながります。そして人生で何が一番大切なを見つけるきっかけになれることを祈っております。



事務所を訪問して話を聴いているところ

第四部 学内のゼミ等による取り組みについて

フクシマを忘れない。フクシマに学び続ける。 ～コミュニティマネジメント学科の教育実践～

社会学部コミュニティマネジメント学科
准教授 築地 達郎

「3.11」から1年後の2012年4月、社会学部コミュニティマネジメント学科は「フクシマプロジェクト」と呼ぶ教育プログラムをスタートさせた。前年度に有志学生とともにプロトタイプの活動を始めて以来、福島県いわき市の東日本国際大学との連携により、教育活動を継続して今に至っている。

フクシマプロジェクトの目的は、「フクシマを忘れない、忘れさせない」、そして「フクシマに学ぶ」だ。未曾有の原発事故の直接被害だけでなく、それをもたらした社会背景や社会構造、「被災地」と呼ばれるようになった地域に生きる人々の生き方——それらすべてを含み込むワードとして、カタカナの「フクシマ」を使わせてもらっている。

「フクシマ」という表現に対して福島県民の皆さんに異論もあることは存じ上げている。だが、電力大量消費社会に生きる人間の一人として、すなわち福島第一原発事故の間接的な加害者として、一つの地域の問題に終わらせてはいけないと考えている。だから、「フクシマ」なのだ。



東日本国際大学と連携して開催した
「第1回福島いわき復興物産展in大津」(2011年11月19日、
大津市の「フォレオ大津一里山」で)

この報告書に寄稿をさせてもらっているからおがましいが、「復興」「支援」という言葉には違和感がある。「復興」には「本来あるべき姿に復する」という意味があるだろうし、「支援」にはどこか上から目線のニュアンスがつきまとう。

だが、原発事故は現代文明が生んだ“大人災”。決して元通りに戻すことができない(つまり「不可逆の」)社会的被害をもたらした。私たちにできることは、せめてフクシマから学び、贖罪の精神を忘れないこと、それぐらいだ。

とにかく無心に福島県に足を運ぶ。これが唯一可能な復興支援だと思う。

フクシマプロジェクトは最初の6年間、福島の味を手がかりに、原発事故被災地と関西を結ぶ活動を展開した。キャンパスの地元ショッピングモールの協力を得て、福島の「うまいもの」を紹介する物産展を学生が毎年企画運営した。この数年は、より広いテーマ設定で福島とフクシマについて関西に伝える活動を展開している。2019年度から2020年度にかけては、福島県の皆さんや旅行会社の協力を得て、関西人向けのフクシマ・スタディツアーを学生が企画する活動を行ってきた。2021年3月の「3.11」十周年を、福島の空の下で福島の皆さんとともに迎えたいという思いからだ。

あいにくの新型コロナウイルス禍で計画通りのツアー実現は難しそうだが、学生たちはオンラインツールを使ったバーチャルスタディツアーを実施できないかと模索中だ。

相次ぐ大規模な災害や疫病の蔓延の中、フクシマの記憶は急速に薄れていっているように思う。「3.11」十周年という節目は、記憶の薄れをむしろ加速してしまうのではないかと懸念す

る。

しかし、原発、そして原子核に依存する現代社会の病理はむしろ深まっている。次のフクシマは、若狭湾、東シナ海の向こう側、玄界灘の向こう側、日本海の向こう側など、どこでも起こりうる。

私たちはこれからもフクシマに学び続けなければならないし、学生たちをそのような学びに出会わせ続けなければならないのだ。



大規模な津波被害に見舞われた海岸の街で僧侶資格を持つ学生が読経、皆で手を合わせた。(2013年8月6日、福島県いわき市薄磯で)

「京都マラソン×スポーツマネジメントLab. (松永ゼミ) ×京都伝統工芸」プロジェクトによる10年間の東日本大震災復興支援活動

スポーツサイエンスコース スポーツマネジメント研究室 松永ゼミ生
経営学部 教授 松永 敬子

1. 「京都マラソン」と「東日本大震災復興支援」

東日本大震災から丸1年後の2012年3月11日に「京都マラソン2012」が第1回大会として開催された。大会メインコンセプトは、「東日本大震災復興支援」と「京都・日本の活性化」とされ、学生のまち京都でスポーツマネジメントを学ぶ本学スポーツサイエンスコース松永ゼミの学生達は、京都マラソンの会場で被災地への義援金を集めようとプロジェクトチームを立ち上げた。その際、ただ義援金を集めるだけでなく、スポーツとまちづくりの観点から、京都の伝統工芸関連の組合と協働で伝統工芸の活性化も視野に入れたプロジェクトを展開することとした。商品の企画・製作・販売を経て、売り上げの全額を、東日本大震災復興支援「スポーツこころのプロジェクト」に寄付をさせていただき、その寄付先での被災地小・中学校にて、サポートのボランティアスタッフとしても活動を続けた。

京都マラソン×龍谷大学スポーツマネジメントlab.
×京都伝統工芸 プロジェクト

学生のまち・
伝統工芸のまち



2. 京都マラソン×龍谷大学スポーツマネジメントLab. (松永ゼミ) ×京都伝統工芸

2011年度より準備をはじめ、京都マラソン2012 (2012.3.11) からスタートしたプロジェクトは、京都マラソン2020で10年間9回目を迎えた。本プロジェクトは京都マラソン前々日・前日にランナー受付のために来場されるランナーさんや一般の方に、会場となる「みやこめっせ (京都市勧業館)」内の特設販売ブースにて、手作り伝統工芸品を販売し、義援金を集めることを目的としている。つまり、「スポーツ・マラソン」、「震災復興」、「京都の伝統工芸」に興味・関心を持ってい

ただ、それらをつなぐことが最大のねらいである。これまでのプロジェクトにご協力を頂いた京都の伝統工芸関連の組合・団体等は、以下の通りで、関係の団体の皆さまや京都市・京都マラソン実行委員会には、無償で様々なご協力をいただいている。また、特殊な縫製技術が必要とする際には、京都市伏見区老人クラブ連合会（手芸クラブ）の皆さまにも多大なご協力を頂いた。この間の売上は約191万円となり、全額を寄付させて頂いた。



3. 寄付先である被災地小・中学校対象「スポーツこころのプロジェクト」のボランティア活動

本学生プロジェクトは、寄付をして終わるのではなく、寄付先の「スポーツこころのプロジェクト」のサポートスタッフとして被災地に足を運び、ボランティアとして参加することにも大きな意味がある。また、その活動報告を翌年の京都マラソン販売ブースにて展示することで、義援金を有効に活用することと、被災地の現状を報告することも目的としている。

「スポーツこころのプロジェクト」とは、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、財団法人日本サッカー協会、一般社団法人日本トップリーグ連携機構の4団体が主催する事業で、日本のスポーツ界が丸となって、東日本大震災で被災したすべての子どもたちの、「こころの回復」を応援するためのプロジェクトである。実際には、ゼミ学生と共に2012年9月に本願寺仙台別院を拠点に現地の復興支援ボランティア活動に参加すると同時に、宮城県や福島県の小学校の「スポーツこころのプロ

ジェクト」のプログラムである「スポーツ笑顔の教室」にアシスタントボランティアスタッフとしても参加をさせて頂いた。この一連の活動を京都マラソン2013の販売ブースの中で報告するというサイクルをベースとして、京都マラソン2020まで継続的に活動を展開してきた。

4. まとめにかえて

発災から10年を迎え、「スポーツこころのプロジェクト」をはじめ、さまざまな東日本大震災復興支援活動も形を変えつつある。そのような中、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、京都マラソン2021はオンライン開催となったため、これまでのような形での継続が不可能となったが、新たな形を模索しつつ支援活動を続けていきたいと考えている。



京都マラソン会場販売ブース

【参考】

京都マラソン2020公式HPおこしやす広場
<https://2020.kyotomarathon.com/support/okoshiyasu.php>
 スポーツこころのプロジェクト公式HP
<http://www.sports-kokoro.jp/pc/>

★紹介している事例以外にも、学内では教職員による多様な取り組みが展開されていました。今回は、2015年以降もゼミなど正課科目で継続的に取り組んでいるもののみを掲載しています。

第五部 資料集

1. その他災害への取り組みについて



その他災害への取り組み

2010年度～2020年度の間は、日本国内をはじめ、諸外国も地震や台風など、様々な自然災害に襲われました。この厳しい現実に対し、私たちは心を痛めながらも、その全てにアクションを起こすことは出来ません。

しかし、災害時には、ボランティア・NPO活動センターとして、出来る限りの情報収集に努め、学生・教職員と被災地をつなぐためのコーディネーションを展開しました。また、平時には、学生と共に災害に備えるための啓発活動を行いながら、地域団体や他大学とのネットワークづくりを行いました。ここでは東日本大震災以外の災害への取り組み、ネットワークづくりの取り組みについて紹介します。

2011年度	●平成23年台風12号（紀伊半島豪雨） HPにメッセージを掲載し、ボランティアに向かう前に必要な情報提供を行い、それまで実施していなかったボランティア保険の加入手続きをセンターで出来るようにしました。
2012年度	●京都府南部地域豪雨 8月13日（月）から14日（火）に発生した京都府南部地域豪雨が発生。情報収集として、8月18日（土）に竹田コーディネーターと学生スタッフ3名で宇治市災害ボランティアセンターを通じてボランティアに参加。その後、宇治市災害ボランティアセンターと連絡を取り、龍谷大学の学生に向けて8月31日（金）～9月8日（土）の間に活動するボランティアを募集した。両キャンパスで計25人の学生から応募があった。しかし、復旧作業が予定よりも早く進んだため、平日の受入れが中止となり、実質の活動日は1日で7人が活動。
2013年度	●台風18号豪雨災害復旧支援ボランティア 9月16日（月）に発生した台風18号の被災者を支援するため、滋賀県大津市、高島市、亀岡市、京都府京都市伏見区、福知山市、舞鶴市の災害ボランティアセンターからの要請を受け、学内でボランティアを募集し、延べ138人が活動しました。
2014年度	●平成26年8月豪雨 7月30日（水）～8月26日（火）にかけて日本各地で発生した豪雨被害について、ボランティア・NPO活動センターでは8月16日（土）～18日（月）にかけての3日間で、主に近畿地方における災害ボランティア募集等の情報収集に努め、19日（火）からは学生等の相談にのれる体制を作り、情報発信を行いました。ボランティアをする学生には、長靴及び鉄板入り靴底の貸し出しやボランティア保険の加入手続き、活動の際に気を付けることなどのガイダンスを必要に応じて実施しました。
2015年度	●ネパール大地震 ネパールから本学に留学している学生から、4月25日（土）に発生したネパール大地震の被災者を支援するための募金活動を行いたいという趣旨の相談を受け、学生会宗教部の学生、ボランティア・NPO活動センターの学生スタッフが中心となり、「龍谷大学ネパール地震に対する募金活動有志の会」を立ち上げました。5月18日（月）～5月22日（金）の昼休みに3つのキャンパスで募金活動（のべ266人が参加）を実施し、それ以外に、協力が得られた部署に募金箱を設置しました。また、ボランティア・NPO活動センターが窓口となり、教職員、校友会、親和会に募金を呼び掛けました。結果、853,000円の募金が集まり、カトマンズ本願寺に寄付しました。
2016年度	●平成28年 熊本地震被災者支援のための募金活動 4月14日（木）の前震・16日（土）の本震発生を受け、複数の学生から「募金活動を行いたい」との相談がボランティア・NPO活動センター（以下センター）、学生部、宗教部に寄せられました。各学生と面談すると共に、3部署間で協議を実施しました。同時にセンター学生スタッフに協力を呼び掛けました。その結果、熊本県出身学生や学生スタッフが中心となって「熊本地震に対する募金活動学生有志の会」（以下、有志の会）を結成して募金活動に取り組みしました。また、それとは別に教職員や校友会や親和会等に対して、ボランティア・NPO活動センターが窓口となって募金活動を展開することとなりました。 ①学内募金活動 4月19日（火）～4月28日（木）の下記の昼休みの時間に、3キャンパスに分かれて、学内で募金活動（のべ275人が参加）を行い、471,000円の義捐金が集まりました。235,500円ずつに等分して、大分県庁と熊本県庁の大分事務所に5月25日（水）に学生の代表が届けました。 ②募金箱を設置及び、教職員への義捐金の呼び掛け 4月19日（火）～7月28日（木）まで、ボランティア・NPO活動センター（瀬田・深草）、学生部（瀬田・深草）、文学部教務課（大宮）、宗教部、生協（大宮・瀬田・深草）に募金箱を設置しました。また、4月20日（水）から7月28日（木）まで学内の全部署に義捐金への協力を呼びかけ、募金袋を回しました。（のべ466人の教職員が参加） ③その他募金 全国保御者懇談会等でも募金を呼びかけ、龍谷大学付属平安高等学校の生徒も募金に取組みました。この②、③の募金総額は1,548,811円になり、熊本県と大分県の被災された皆さまに役立てていただくために、10月6日（木）に募金に取組んだ学生の代表と龍谷大学付属平安高等学校の生徒2人が、代表して京都府共同募金会に義援金を届けました。

2016年度	●平成28年 熊本地震ボランティア・ガイダンス 熊本地震で被災した地域にボランティアとして向かおうと考えている学生に向けて、被災地域での現状を知り、ボランティア活動をする上での心構え、準備などを踏まえて被災地にボランティアとして向かってもらうために『ボランティア・ガイダンス』を瀬田（4/26）・深草（4/26）に実施いたしました。両キャンパスで約100名が参加。
	●第1回 平成28年熊本地震復興支援ボランティア 7月8日（金）～11日（月）に3泊4日でボランティアバスを運行し、阿蘇YMCAを拠点に阿蘇市と南阿蘇村で活動しました。主な仕事は、法面の整備作業、飲食店の片付け、倒壊した学生アパートの片付け、貴重品の掘り出し・整理等。また、震災後の水害で水没した田んぼの田植えと草むき、イチゴ農家のビニールハウスでの作業、阿蘇YMCAで実施された子どもの保養プログラム「子どもフェスタ」の運営補助等、幅広い活動を行いました。学生30人、引率3人、計33人
	●第2回 平成28年熊本地震復興支援ボランティア 11月25日（金）～28日（月）に3泊4日でボランティアバスを運行し、阿蘇YMCAを拠点に阿蘇山噴火の被害を受けた阿蘇市内の農園の火山灰除去をメインに活動しました。学生30人、引率4人、計34人
	●「大学のまち京都 災害ボランティアにかかるパートナーシップ宣言」を締結 10月16日（日）に京都市内5大学のボランティアセンターと京都市社会福祉協議会が、平時から災害に備えると共に、災害が発生した際には共にその対応にあたることを表明する「大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」にボランティア・NPO活動センターとして締結しました。
	●大津市社会福祉協議会と龍谷大学・龍谷大学短期大学部との間に「災害ボランティアに関する協定」を締結 2月17日（金）に龍谷大学、龍谷大学短期大学部と大津市社会福祉協議会が、平常時よりボランティア活動の意義等について学習する機会を学生に提供すること、災害時のボランティア活動に備えた事前研修及び訓練の機会を学生に提供すること、そして大津市内で災害が発生したときに、学生が円滑にボランティア活動に参加できる環境を大学が協力し、整備することを目的として、協定を締結しました。
2017年度	●平成29年7月九州北部豪雨災害ボランティア 京都市社会福祉協議会が主催するボランティアバスの参加者募集にパートナーシップ協定に基づき協力2名の学生が参加
2018年度	●大阪府北部地震について HPにメッセージを掲載し、ボランティア情報や、参加前に知っておいて欲しい必要な情報（ボランティア保険の加入手続きや準備等々）提供、活動に際して必要なグッズの貸出をセンターで行っていることについて呼びかけました。
	●平成30年7月豪雨 ①京都市社会福祉協議会、大津市社会福祉協議会との協定に基づき、ボランティアバスの参加者募集に協力。5人が参加。 ②HP、FB、Twitter等にメッセージを掲載し、復興支援ボランティア活動希望者に向けての情報提供、ボランティア保険の加入手続き、活動の必要なグッズの貸出をセンターで行っていることについて呼びかけました。 ③募金活動 被災された皆様のために何かをしたいと集まった学生有志（平成30年7月豪雨に対する義捐金活動学生有志の会）が、7月19日（木）から7月27日（金）まで、大宮、深草、瀬田の3キャンパスでお昼休みに募金活動を行いました。 ④平成30年7月豪雨復興支援ボランティアの実施 8月9日（木）～8月10日（金）の1泊2日で岡山県倉敷市真備町にボランティアバスを運行。下二万地区にある一軒家の泥やごみの運搬作業を行いました。学生15人、引率4人、計19人 ⑤平成30年7月豪雨復興支援ボランティア報告会 9月21日（金）【瀬田】、9月28日（金）【深草】で活動報告会を実施し、約50人が参加。
2019年度	●8月～10月にかけて、幅広い地域で発生した台風被害への対応 ①HP、FB、Twitter等のSNSを活用し、復興支援ボランティア活動希望者に向けての情報提供（活動先・必要な準備等）、ボランティア保険の加入手続き、活動の必要なグッズの貸出をセンターで行っていることについて呼びかけました。 ②京都市社会福祉協議会との協定に基づき、長野県へのボランティアバスの参加者緊急募集に協力。 ③学生スタッフが瀬田と深草のキャンパスで実施された龍谷祭で、災害に関する啓発展示を開催すると共に「令和元年台風19号災害募金」に取り組みしました。ここで集まった募金と共に、模擬店での収益の一部をあわせ、中央共同募金会に義援金として募金しました。

その他災害（ボランティアバス）参加者人数

※（ ）内は、通算回数	学生	教員	職員	引率	合計
-------------	----	----	----	----	----

2016年	学生	教員	職員	引率	小計
平成28年熊本地震（第1回）	30	0	0	3	33
平成28年熊本地震（第2回）	30	0	0	4	34
合 計	60	0	0	7	67

2018年	学生	教員	職員	引率	小計
平成30年7月豪雨	15	0	0	4	19
合 計	15	0	0	4	19

総 合 計	75	0	0	11	86
-------	----	---	---	----	----

注1）引率は、主にボランティア・NPO活動センターの教職員が担当している。



熊本地震で崩れた法面の応急補修作業



阿蘇山の噴火で被災した農家の火山灰撤去作業の様子



メディア掲載情報

本学で取り組んだ東日本大震災復興支援活動をテレビ・ラジオ等で紹介された一覧

日 付	マスコミ名	番組名	内 容
2011年	3月17日(木)	KBS京都(テレビ)	京プラス「京からも支援の輪」
	3月18日(金)	NHK京都放送局	ニューステラス関西
	6月6日(月)	びわ湖放送	キラりん滋賀
	6月24日(金)	KBS京都(テレビ)	京プラス
	9月20日(火)	NHK京都放送局(テレビ)	ニュース610 京いちにち被災地と京都「学生たちが見た被災地」
	12月14日(水)	NHK大津放送局	おうみ発610
	12月15日(木)	エフエム滋賀(ラジオ)	ハッピー!の「平和堂マイデイリーライフ」コーナー「今年話題になったことを振り返る 大学生の震災ボランティア活動」
	12月16日(金)	NHKラジオ第1	ラジオ深夜便
	12月16日(金)	NHK大阪(ラジオ)	おはよう日本
2012年	2月11日(土)	NHK大津、エフエム滋賀、及び県内コミュニティラジオ放送局3社	防災ラジオ滋賀2012
	4月24日(火)	FM845(ラジオ)	ワカバンNEO
	11月16日(金)	KBS京都(テレビ)	KBS京都 京都新聞ニュース
2013年	3月4日(月)	KBS京都(テレビ)	やのぱんの生活情報部
	3月12日(火)	KBS京都(ラジオ)	守谷威夫のお世話になります
2015年	2月3日(火)	KBS京都(テレビ)	news フェイス「3.11を語りつぐ名産石 龍谷大 新校舎に”絆”」
	3月11日(水)	KBS京都(テレビ)	news フェイス「東日本大震災から4年。龍大で震災犠牲者しのぶ法要」

新聞等への掲載一覧

掲載日	新聞社名		タイトル	内 容
2011年	4月26日(火)	朝日新聞	ボランティア入門盛況 被災地での服装、心構え学ぶ	ゴールデンウィークを前に、東日本大震災の被災地でボランティア活動をしたいという（ボランティア初心者）向けの説明会「復興支援ボランティアガイダンス」について
	5月25日(水)	京都新聞	朝刊 学生の力今こそ生かせ 龍大・大谷大被災地へボランティアバス 仙台拠点泥だし作業など	本学の学生・教職員を対象にしたボランティアバスの運行について
	6月1日(水)	京都新聞	夕刊 “うまいもん”食べて福島応援 龍大で販売会	学内で実施した福島物産品販売について（NPO法人JIPPOとボランティア・NPO活動センターが協力して開催）
	6月2日(木)	朝日新聞	福島の特産品を食べて支援を	
	6月7日(火)	中日新聞	東日本大震災 支援活動準備は入念に	被災地でボランティア活動をしたいと考える学生に向けた「復興支援ボランティアガイダンス」について
	12月14日(水)	京都新聞	朝刊 被災地厳冬 京の学生ら温か支援 龍大石巻物産市や泥洗い 立命大遠野でボランティア	学内で実施した「おがつ店こ屋商店街」の物産品販売について
2012年	1月10日(火)	本願寺新報	学生ボランティアが縁で龍谷大が東北物産展	
	7月11日(水)	京都新聞	夕刊 新入生「今こそ被災地に」 京滋の大学支援	活動報告会に参加した1回生へのインタビュー
	9月10日(月)	本願寺新報	龍谷大学 夕照コンサートで復興支援 被災者を招き、物産展やパネル展開く	瀬田キャンパスで開催された夕照コンサートで、龍谷大学が活動している石巻市雄勝町の物産品販売と活動報告のパネル展を開催したことについて
	9月27日(木)	京都新聞	朝刊 硯石名産地、宮城・雄勝で龍大生ら石磨き、交流…キラリ支援	硯石のスレート磨き等、2012年9月に実施した活動について
	11月15日(木)	京都新聞	朝刊 石巻・雄勝の仮設商店街1周年 龍大生現地出店で応援	おがつ店こ屋商店街で開催されたイベントにブース出展するための準備の様子について
	11月29日(木)	京都新聞	朝刊 仮設にスタジオ開設 写真家の被災地報告（東日本大震災復興支援フォーラム）	東日本大震災復興支援フォーラムについて
	12月20日(木)	本願寺新報	石巻の仮設商店街支援 復興イベントに龍谷大生ボランティア	おがつ店こ屋商店街で開催されたイベントにブース出展した様子について
	12月1日(日)	本願寺新報	東日本大震災 龍谷大学生が復興支援活動	おがつ店こ屋商店街で開催されたイベントにブース出展し、京都名産品の販売や、京銘茶のお接待をした様子について

2015年	3月11日(水)	京都新聞	朝刊	避難時に必要な物 ゲームで考え「つながり大切」 被災者の声紹介(防災・減災 そなえパークの日)	びわこ文化公園で開催された「防災・減 災そなえパークの日」にブース出展し、 そこで実施した防災ゲームや東日本大震 災復興支援ボランティアの活動報告につ いて
2016年	3月12日(土)	中日新聞	朝刊	東日本大震災5年 福島で聞いた自責の念報告 龍谷大鎮魂 手合わせ歌う	東日本大震災追悼法要と、その後行った、 学生の活動報告について
	6月号	オージス		大学生応援宣言 『誰かの笑顔を自分の力に』	ボランティア・NPO活動センターの紹介 と、東日本大震災復興支援ボランティア の活動報告について
	8月4日・11日 合併号	佛教タイムス		龍谷大熊本復興支援報告会 ボランティアが体験共有	東日本大震災復興支援ボランティアの活 動報告会について
2019年	3月7日(木)	読売新聞 滋賀版	朝刊	学生が支援活動報告 龍谷大 犠牲者追悼の法要も	東日本大震災追悼法要と、その後行った、 学生の活動報告について
	3月11日(月)	朝日新聞	朝刊	福島に行って見つめる 「震災考え続け、伝えたい」	福島スタディツアーについて
	9月11日(水)	河北新報		雄勝石で陶器作り 児童が講師役に 雄勝小・中	東日本大震災復興支援ボランティアで参 加した雄勝小学校の祖父母交流会につい て

.....

発行日：2021年2月1日
発行：龍谷大学東日本大震災等復興支援プロジェクトチーム
編集：龍谷大学ボランティア・NPO活動センター
印刷：株式会社 言行堂印刷

【問合せ】龍谷大学ボランティア・NPO活動センター（深草）
〒612-8577
京都市伏見区深草塚本町67
電話 075-645-2047 FAX 075-645-2064

URL <https://www.ryukoku.ac.jp/>
E-MAIL ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp
.....

